

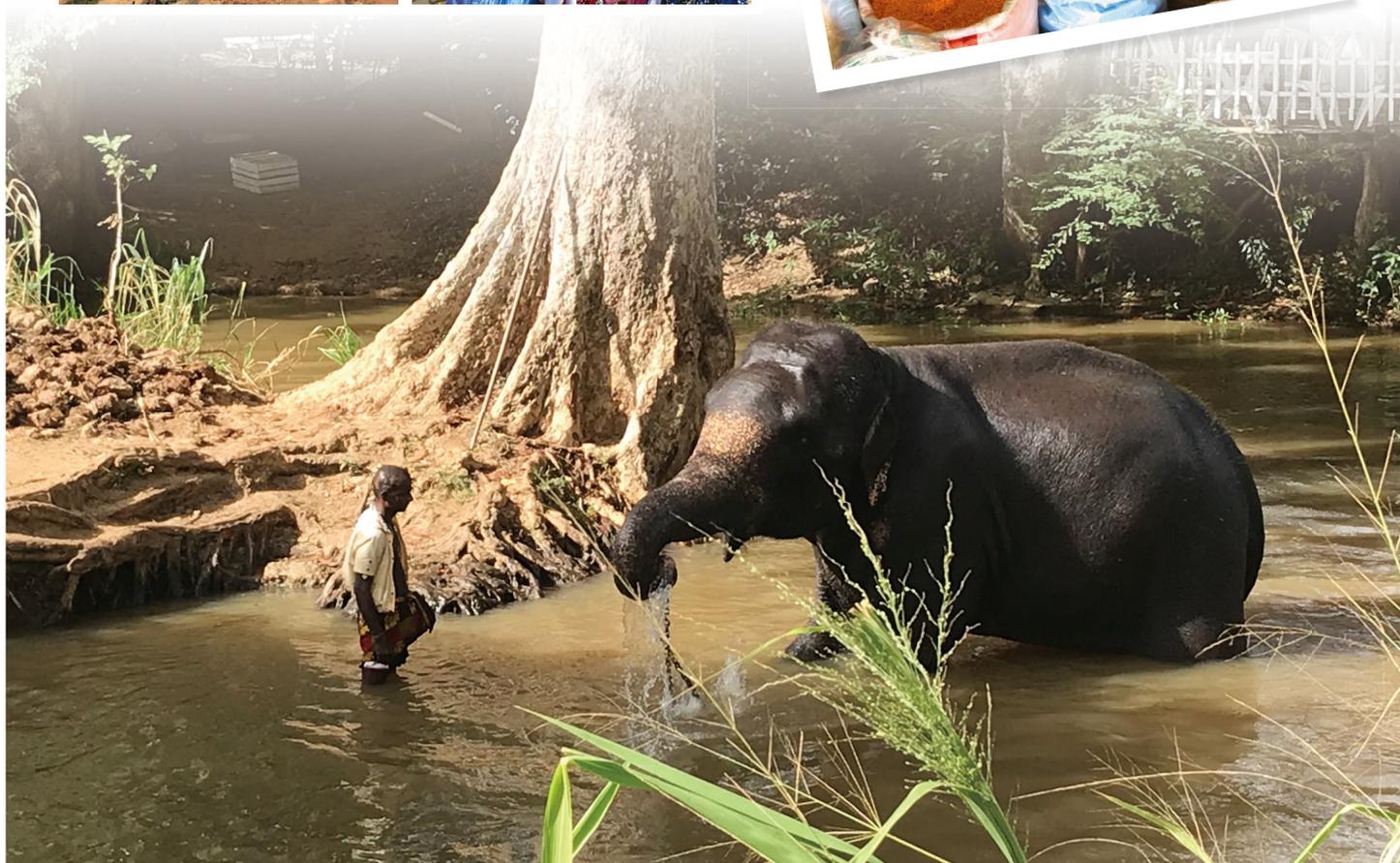
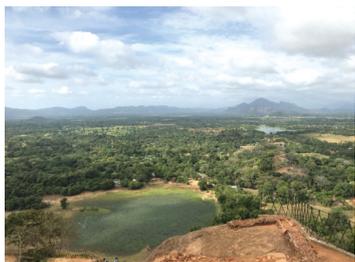
2018年度 JICA中国

教師海外研修



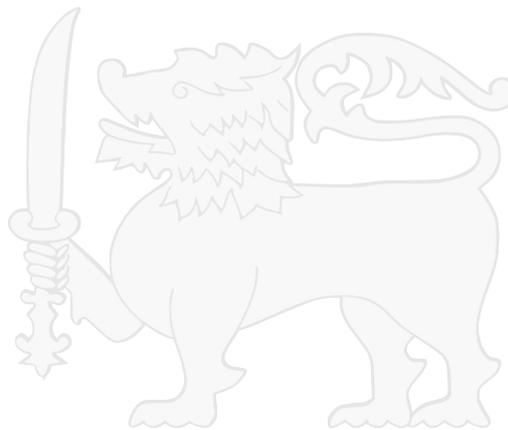
授業実践報告書

— スリランカ —



目次 contents

- 教師海外研修概要
- 研修国概要
- 海外研修日程
- 訪問先トピックス
- (参考)
「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは？



授業実践報告

小学校

- ・日本とスリランカの違いを伝えよう
山口市立良城小学校
重 兼 宏 美……………10
- ・スリランカを知ろう! ~海士町と同じ? ちがう?~
海士町立福井小学校
池 田 優 子……………20
- ・せかいを知ると たのしいね!
下関市立江浦小学校
川 上 典 剛……………32
- ・他国について知ること
周南市立富田東小学校
池 永 真依子……………45
- ・世界の果てまでシッテQ ~スリランカ編~
広島市立落合小学校
横 矢 清 人……………57

中学校

- ・世界で見つけよう! ㊦だんの㊧らしを㊨あわせに
新見市立新見第一中学校
谷 岡 明日美……………72
- ・スリランカから学ぶ
尾道市立日比崎中学校
中 下 杏 美……………85

高等学校

- ・身近に始める SDGs
~ Think globally, act locally, change personally ~
広島県立瀬戸田高等学校
森 崎 将 彦……………96

教師海外研修概要

JICAの国際教育プログラム

グローバル化が進む現在、地球に暮らす私たちが自ら足元を見つめ直し、日本を含めた国際社会が抱える課題に取り組むことが急務となっています。そのため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といった取り組みを多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

また、新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成がうたわれ、多様な価値観・生活習慣をもつ人々と国内外で共存できるよう、児童・生徒が互いの文化を理解し、尊重し合い、違いを認められるなど、新たな社会で生きていくために必要な資質・能力を育むことが求められています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との懸け橋となるべく、国内でも様々な事業を行っています。中でも、長年にわたる国際協力の知見を活用して、小・中・高校や大学、教育委員会や自治体、市民団体などと連携して展開しているのが、国際教育プログラムです。

JICA中国では、国際協力出前講座、JICA中国施設訪問、国際教育研修会といったプログラムを通じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりを支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。

教師海外研修とは

● ねらい

本研修は、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童・生徒への教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習の手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童・生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

主催：独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA中国）

後援：外務省、文部科学省

広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、
岡山市教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、
鳥取県教育委員会

※本報告書はJICA中国ホームページ（<https://www.jica.go.jp/chugoku/>）からもダウンロードできます。

ワークシートやデータなどそのままご使用いただけますので、どうぞご利用ください。



● 研修のながれ (2018年度)

募集・選考

- 募集 (4月～5月18日) ○書類選考、結果通知 (5月下旬) ○面接選考 (5月28日～6月4日)
- 最終結果通知 (6月8日)

派遣前研修 6月23日(土)～24日(日) 会場：JICA中国 (広島県東広島市)

※2日目は<第1回国際教育研修会>と併催

- 海外研修について：スリランカ国事情、研修日程と訪問先解説、渡航手続きについて
- 講義：「開発教育とは～授業実践を見据えて～」山中 信幸氏 (川崎医療福祉大学 教授)
- 「渡航国概要」前田 芳広氏 (元青年海外協力隊/スリランカ)
- 「カルチャーボックスを作ろう」荒川 共生氏 (ボルネオ保全トラストジャパン 理事)

第1回国際教育研修会 6月24日(日) 会場：JICA中国 (広島県東広島市)

- 「12年後の地球を考える～ワークショップで知ろう！私たちの生活とSDGs～」

講師：荒川 共生氏

舟木 耕太氏 (福山市立培遠中学校 教諭/
青年海外協力隊 現職教員特別参加制度 活用)

新川 美佐絵 (JICA中国 職員)



出発前報告書提出 7月31日(火)

海外研修 (スリランカ) 8月8日(水)～18日(土) ※8月7日(火)出発前オリエンテーション (大阪)

現地研修報告書提出 8月29日(水)

帰国後研修 9月1日(土)～2日(日) 会場：JICA中国 (広島県東広島市)

海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。参加型手法を改めて学びながら、現地の知見をどう教材化するか考え、授業案を作成。

(助言指導：山中 信幸氏)



所属校での授業実践 9月～2019年1月

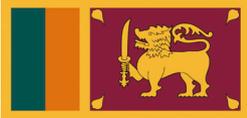


授業実践報告書提出 2019年1月8日(火)

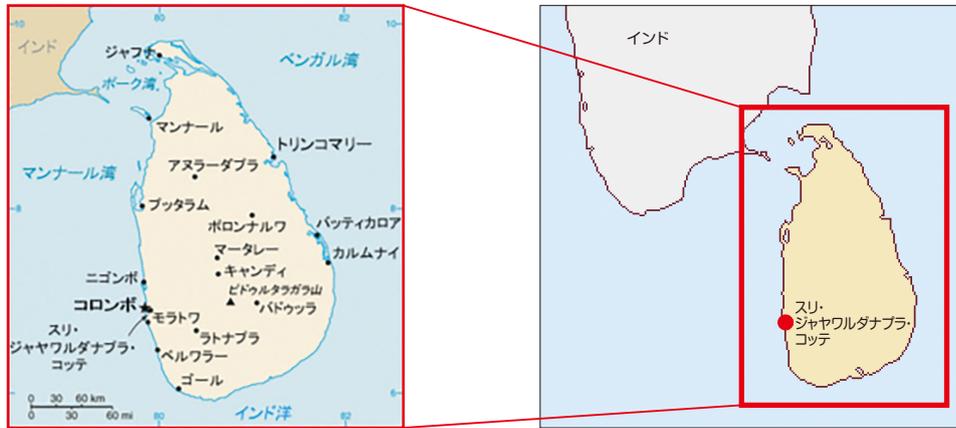
第2回国際教育研修会 1月26日(土) 会場：ひろしま国際センター 交流ホール (広島県広島市)

- ワークショップと講義：「教育ファシリテーターになろう！」
講師：石川 一喜氏 (拓殖大学 国際学部 准教授、国際開発教育センター長)
- 模擬授業と発表：「教室からスリランカへー2018年度 教師海外研修参加者による発表ー」
2018年度教師海外研修参加者による、授業実践及び教師海外研修の報告

研修国概要



スリランカ民主社会主義共和国 (Democratic Socialist Republic of Sri Lanka)



首都：スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ

面積：6万5,607平方キロメートル（北海道の約0.8倍）

人口：約2,103万人（2016年）

民族：シンハラ人（74.9%）、タミル人（15.3%）、スリランカ・ムア人（9.3%）（一部地域を除く値）

言語：公用語（シンハラ語、タミル語）、連結語（英語）

宗教：仏教徒（70.1%）、ヒンドゥ教徒（12.6%）、イスラム教徒（9.7%）、キリスト教徒（7.6%）

通貨：ルピー（1米ドル=152.33ルピー／1ルピー=0.74円（2017年5月末値））

1人あたりGDP：3,835米ドル（2016年）

主要産業：農業（紅茶、ゴム、ココナツ、米作）、繊維業

主要貿易相手国：輸出…米国（27.3%）、英国（10.1%）、インド（5.4%）、ドイツ（4.9%）、イタリア（4.2%）

輸入…インド（21.7%）、中国（19.7%）、シンガポール（6.1%）、UAE（5.8%）、日本（4.9%）

<日本との関係>

在留邦人数：738人（2016年、在スリランカ日本大使館調査）

在日当該国人数：15,193人（2016年6月現在、法務省）

日本の援助実績：（1）有償資金協力：10,357.04億円（内2015年度実績 703.58億円）

（2）無償資金協力：2,093.87億円（内2015年度実績 17.05億円）

（3）技術協力実績：774.56億円（内2015年度実績 21.12億円）

文化・交流・教育関係：「21世紀東アジア青少年大交流計画」、各種国費留学生の選考、各種日本語教育促進、各種文化展示などを実施。

2016年10月からは主要ケーブルテレビの1つで日本の民放番組（日本語音声、英語字幕）が24時間を通じて視聴できるようになり、更なる訪日観光への追い風として期待される。

スポーツ交流：2016年3月に、スリランカにおいて「スポーツ・フォー・トゥモロー」事業の1つとして、日本・スリランカ両国サッカー協会共催で「南アジアー日本U-16サッカー・トーナメント」が開催され、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、更なるスポーツ交流の促進が望まれる。

（2019年1月付 外務省ホームページ「各国・地域情勢」（スリランカ）より）

海外研修日程

月 日	内 容		宿 泊
8月 7日(火)	夕刻	【出発前オリエンテーション】(関西空港周辺ホテルにて)	大阪
8月 8日(水)	午前	関西国際空港を出発、乗継地のバンコクへ	
	深夜	スリランカの都市コロンボに到着	
8月 9日(木)	午前	【JICAスリランカ事務所ブリーフィング】 ・国事情と安全管理 ・JICAの事業内容	コロンボ
	午後	ジャヤワルダナセンター訪問	
8月10日(金)	朝	デヒワラへ	キャンディ
	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 ・「障害児者支援」隊員の活動視察 ・施設利用者との交流	
	午後	キャンディへ(移動約4時間)	
8月11日(土)	朝	ポーガンバラグラウンドへ	ハバラナ
	朝	【青年海外協力隊 活動視察】 ・「体育」隊員の活動紹介	
	午前	キャンディ市内見学、学習教材収集	
	午後	シーギリヤへ(移動約3時間)	
8月12日(日)	午前	【有償・無償資金協力、技術協力 現場視察】 ・JICAの支援で建てられた「シーギリヤ博物館」見学 ・シーギリヤ散策	トリンコマリー
	午後	トリンコマリーへ(移動約2.5時間)	
	夕方	ホテル着後、研修の中間ふり取り	
8月13日(月)	終日	【NGO活動視察】特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン訪問 ・ムトゥール郡での内戦後の再定住支援活動を視察 ・ホームビジット ・子どもや村人との交流	ハバラナ
	夕方	ハバラナへ(移動約1.5時間)	
	夕方	ホテル到着	
8月14日(火)	朝	マータレーへ(移動約1.5時間)	
	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 ・マータレー保健所訪問 ・「保健師」隊員の活動視察	
	午後	コロンボへ(移動約4.5時間)	
8月15日(水)	午前	【学校視察】「Ishipathana College」訪問 ・参加教員によるプレゼンテーション「日本の教育事情について」 ・現地教師との意見交換 ・日本語学習者との交流	コロンボ
	午後	【中小企業連携】「すらら塾」訪問(株式会社すららネット運営) ・「女性銀行」に関するブリーフィング ・eラーニングを利用した学習活動の見学 ・日本文化紹介	
8月16日(木)	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 ・カラディヤナ廃棄物処理場訪問 ・「環境教育」隊員の活動視察	
	午後	在スリランカ国日本大使館表敬訪問	
	18:30	青年海外協力隊員・JICA所員との夕食懇談会	
8月17日(金)	午前	最終ふり取りミーティング	機内
	午後	JICAスリランカ事務所にて研修報告	
	夕方	コロンボ市内資料収集	
	深夜	空路にてコロンボを出発、バンコク経由で日本へ	
8月18日(土)	夕方	関西国際空港着後、解散	

海外研修 訪問先トピックス



No.

Date

8月9日(木)

ジャヤワルダナセンター

敗戦国日本に対する賠償請求を放棄した故ジャヤワルダナ元大統領。サンフランシスコ講和条約で述べた「憎しみは憎しみによっては止まず、ただ愛によってのみ止む」というスピーチは先生たちの胸にも響いたようです。

「スピーチの続きには『我々は日本人に機会を与えてあげなければならない』という文がある。私達は機会を与えられた立場として、この命をどう生きていくべきなのだろうか?」(森崎)

「日本のことを大切に思ってくれている人が世界にいることを、日本人に知らせたい」(谷岡)



8月10日(金)

【青年海外協力隊 活動現場視察】障害児者支援施設

学齢期から成人までの知的障害のある女性を対象とした入所施設を訪問。スリランカの障害者の現状に胸を痛めると同時に、彼らの能力を伸ばそうと奮闘する青年海外協力隊員や職員の方の努力に希望を感じた日でした。

「障害があってもできることに取り組んでいた。『これ、私の。』と作った布を見せてくれた利用者の笑顔に自信が感じられた」(重兼)



8月11日(土)

【青年海外協力隊 活動現場視察】 体育隊員が指導する陸上の合同練習を見学

陸上の練習をするスリランカの子どもたちから日本の子どもたちへのメッセージをもらいました。

「海外で働くことの実態を感じることができた。挑戦する気持ちや切り開く勇気が大切。生徒には困難な状況下でどのようにするのか考えるきっかけを与えたい」(中下)

キャンディ市内を散策、教材収集

「排気ガスの多さに驚いた。交通の整備や環境に配慮した社会の在り方を考える必要がある。これも急速な都市化の影響なのだろうか…。」(池永)

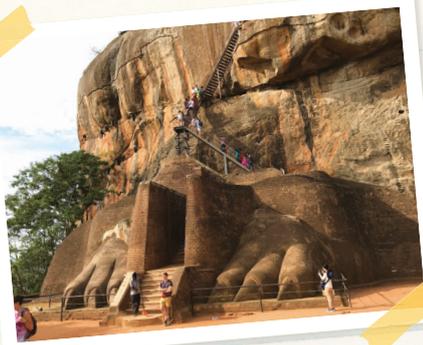


8月12日(日)

【有償・無償資金協力、技術協力 現場視察】 シーギリヤ

「日本の援助により、観光産業が成り立ち、現地の経済も潤っていた。有償・無償資金協力、技術協力などは、現地の人の生きる術を与える支援だと思った」(川上)

「すごくパワーをもらえる場所だと感動した。しかし、スリランカが今以上に発展し、観光客が増えたときに今と同じ自然や風景を保てるのだろうか…」(中下)



8月13日(月)

【NGO活動視察】 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ ジャパン訪問

四半世紀以上続いた内戦後の、住民の再定住を支援する NGO の活動を視察。また、村人との交流やホームビジットも行いました。
「今も残る内戦の影響について考えさせられた。日本の教師としてできることは、小さなけんかや争いにきちんと向き合い、話し合って解決する方法を教え、気づかせることだと思う」(池永)

「支援に必要なことは『アワーマーケット、アワープロデュース』、『当事者が当事者意識を持つこと』、『支援はいつか終わらなければならない』…。これらの言葉は、実際に現地に行き、その地域の人や NGO の人と交流して初めて、本意を理解することが出来ると感じた」(川上)



8月14日(火)

【青年海外協力隊 活動現場視察】

マターレー保健所を拠点に活動する「保健師」隊員を訪問、生活習慣病予防のための啓発活動を視察しました。

「隊員の『自分の仕事は伝えるところまで、その先はその人自身に考えてもらう』という言葉が印象的だった。現地の人々の価値観を大切にしていると感じた」(横矢)



8月15日(水)

【学校視察】 Ishipathana College」訪問

参加者が日本の教育事情についてプレゼンテーション、現地教師との意見交換や日本語学習者との交流も行いました。

「スリランカでも、日本でも、先生の想いは同じだと感じた。子どもたちに挑戦する気持ちを持ってほしい。国を担う子どもたちを育てたいという想いは一緒だった」(池田)



【中小企業連携】「すらら塾」訪問

日本企業との連携で運営されているeラーニングを使った学習塾を訪問、視察しました。

「『教師のレベルに左右されない』学習の良さを感じるとともに、『教師のレベルに左右される』学習が存在していることに衝撃を受けた」(横矢)
「日本の企業が支援していることで、日本流のしつけが取り入れられていた。日本の子どもたちは自己肯定感が低いと言われるが、自分たちがしていることは世界に誇れることだと伝える必要もあると感じた」(池永)

8月16日(木)

【青年海外協力隊 活動現場視察】 カラディヤナ廃棄物処分場訪問

「想像以上の『ゴミの山』だった。ゴミ問題に関しては、急成長を成し遂げているスリランカの抱える“影”の部分のように感じた」(川上)
「スリランカという地で、隊員の方が現地の人と信頼関係を結び、活躍される姿に感銘を受けた」(重兼)



《10日間を通して…感じたこと、気づいたこと》

「『日本にいたるだけでは見えないことが、海外に行くと見えてくる』。在スリランカ日本大使館の方の言葉、まさにその通りだと思った」(池田)

「出発時は様々な『違い』を写真におさめる自分がいたが、帰るころには『違い』に慣れたり、気づけなかったり、『違っていることが当たり前』と思う自分がいた」(谷岡)

「なんでもかんでもやってあげる、助けてあげるのが支援ではない。自立的に生活でき、さらに発展させていけるようにサポートしていく必要がある。これは日頃の生徒への接し方にも通じるところがあると感じた」(森崎)

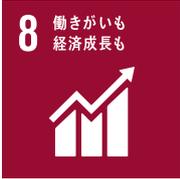


「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは？

2015年9月の国連サミットで採択されたもので、開発途上国だけでなく、先進国も含めたすべての国が取り組むべき17の目標と169のターゲットが定められた、2030年までの国際的な目標です。「誰ひとり置き去りにしない」をキーワードに、私たち一人ひとりが問題を「自分事」としてとらえ、努力していくことが求められています。

JICAは、開発途上国での長年の経験を活かし、国内外のあらゆるパートナーと連携しながら、SDGsの達成に貢献していきます。また、国際教育プログラムを通じて、SDGsへの理解促進にも積極的に取り組んでいきます。

今年度、教師海外研修に参加された先生方も、SDGsの視点からスリランカを視察・訪問し、持続可能な社会や発展について考え、授業を展開されています。

	1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆるかたちの貧困を終わらせる		2. 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業をすすめる		3. すべての人に健康と福祉を 全ての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
	4. 質の高い教育をみんなに 全ての人に公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を提供する		5. ジェンダー平等を実現しよう 世界中で女性と少女が力をつけ、ジェンダー平等を実現する		6. 安全な水とトイレを世界中に 全ての人に水と衛生設備(トイレ・下水道・ダムなど)を保障する
	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 全ての人々が、安く安定的に発電できる持続可能なエネルギーを使う		8. 働きがいも経済成長も 持続可能な経済成長を促進し、全ての人々が働きがいのある人間らしい仕事ができるようにする		9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 災害に強いインフラをつくり、持続可能な産業化を進める
	10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を減少させる		11. 住み続けられるまちづくりを 街や人々が住む場所を、安全で災害に強く、持続可能な場所にする		12. つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
	13. 気候変動に具体的な対策を 国の政策や計画に気候変動対策を盛り込む		14. 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する		15. 陸の豊かさも守ろう 陸の生態系を保護し、砂漠化への対処、土地の劣化、生物多様性の喪失を止める
	16. 平和と公正をすべての人に 誰一人のけ者にされない社会と、すべての人が法律にアクセスできる社会を実現する		17. パートナーシップで目標を達成しよう 目標達成のために必要な行動を強化し、持続可能な開発に向けて世界各国が協力する		

授業実践報告

日本とスリランカの違いを伝えよう

氏名：重兼 宏美

担当教科：全教科

時間数：4時間

学校名：山口市立良城小学校

実践教科：道徳の時間・国語科・生活科・総合的な学習の時間

対象学年：29名(1年2組)・144名(第6学年)

人数：45人

【1】単元のテーマ・目標

世界の国の人々や文化に関心を持ち、文化の違いを理解し、自国や外国の文化の違いを認めようとする態度を養う。手紙を書くことを通じて、相手に気持ちを届けることを意識させ、主語と述語を間違いなく書くこと、敬体の文章で書くこと、句読点の打ち方に気をつけて書くことなど、書くことの基礎となる能力を育てることを大事にしたい。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国と日本の文化について共通点や相違点に気付き、それぞれのよさを発見したり、違いを認めたりしようとしている。
(イ) 思考・判断・表現	発見した秋を、絵や文で表現し、相手にわかりやすく伝えようとしている。
(ウ) 技能	スリランカと日本の生活の様子について、違いや特徴に気付いて、句読点の打ち方や、主語と述語の関係に注意して、丁寧な言葉を使って書いている。
(エ) 知識・理解	世界には、さまざまな言語や生活、文化があることを知り、日本での季節の変化を感じ取るとともに、それにともない自分たちの暮らしも変化してきていることに気付いている。

【3】単元設定の理由

<児童観>

児童にこれまでに外国に行ったことがあるか尋ねると、数名の挙手があり、行き先を尋ねると、「広島」「長崎」「宮島」と答え、「外国」が遠い場所だという認識はあってもその概念がはっきりしていない児童が多いことが分かった。また、子どもたちは廊下で顔を合わせるALTの先生のが大好きで、英語で挨拶を交わしたり、サインをもらったり、手を触れ合ったりして積極的に関わっていく児童もいる。英語を習っている児童もおり、外国の言語は全て英語だと思っている児童もいる。最近、校内で東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーセレモニーが催され、リオオリンピック7人制ラグビー日本代表の桑井亜乃選手、山口県内の「ながとブルーエンジェルス」に所属する中美咲選手との出会いから、世界中の人とスポーツで繋がるができることを知り、オリンピックが日本で開催されて世界中の人が東京にやって来ること、オリンピックを観戦することなどに期待を寄せている。

<教材観>

本単元では、「外国」の1つである「スリランカ」の文化や生活を知ること、外国への関心を高めたい。他国の人々や文化に親しみをもつきっかけとなることを期待している。国際理解の第一歩として、まずは、スリランカと日本との違いを感じるのところから、「違うって面白い」、「スリランカのことをもっと知りたい」、「他の国のことも知りたい」、と子どもたちの興味を世界に広げていきたい。

本時では、スリランカには四季がないという事情を知らせることで、改めて日本では、自然の様子や四季の変化があり、季節によって生活の様子が変わること、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気づき、郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつことができるようにしたい。

<指導観>

指導にあたって、児童がスリランカのイメージを掴みやすいように、視覚教材を十分に活用していく。教室には、スリランカコーナーを設置し、スリランカの国旗、民族衣装(サリー)やスリランカルピー、本(スリランカ出身の絵本作家の作品、世界の国のあいさつ)、地球儀を展示した。

スリランカと日本との違いばかりに目を向けるのではなく、類似点を取り上げることで、親しみをもつことができるようにしたい。そして、伝統と文化を尊重する態度を養いたい。

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (1年)	<p>道徳の時間 「ぼくとシャオミン」 好きな食べ物や遊びに違いがあり、知らないことは教え合う面白さを感じ、他国の人々に親しみをもって積極的に関わっていこうとする心情を育てる</p>	<p>(1) 「1,300,000,000」13億と書かれた板書を見て、何を表しているか話し合う (2) 「ぼくとシャオミン」を読んで話し合う ① シャオミンの好きな食べ物が「さんざし」であることを知ったときの「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう ・さんざしって何だろう。 ・おいしいのかな。 ② シャオミンの得意なことが「ティージェンズ」であることを知ったときの「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう ・ティージェンズって何だろう。 ・難しそうだな。 ③ 言葉も好きな食べ物も得意なことも違う2人がなぜ仲良しなのでしょう (3) 他国の友だちができたらしめてみたいことを発表する (4) 「ぼくとときみ」を聴く</p>	<p>・さんざしの写真 ・ジェンズ ・NHKアニメーション「でこぼこフレンズ」主題歌「ぼくとときみ」</p>
2 (1年)	<p>国語科 「むかしばなしがいっぱい」 日本や外国の昔話を读んだり、読み聞かせを聞いたりして、興味をもって読みたい本を選び、読むことができる 絵本からスリランカの生活の様子を知ることができる</p>	<p>(1) めあてをつかむ ① 知っている日本の昔話を発表する ② 教科書（光村図書）P41～44の絵を見て日本と外国のお話の絵を見つける ③ 「この絵本はどこのお話でしょう」「夏休みに行ってきた国のお話です」 「きつねのホイティ」から、スリランカがどんな国が分かったことや考えたことを発表しよう</p>	<p>・絵本「きつねのホイティ」</p>

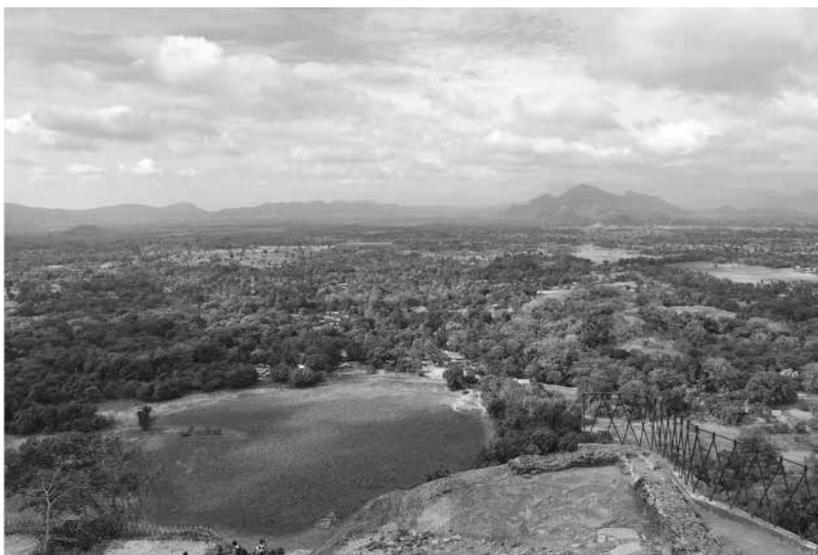
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		(2) 絵本「きつねのホイティ」の読み聞かせを聞き、スリランカについて分かったことや考えたことをワークシートに記入する。 (3) スリランカについて分かったことや考えたことを話し合う。 (4) 学習の振り返りをする。	
3 本時 (1年)	生活科 「日本のすてきを伝えよう」 諸感覚を通して見つけた季節の変化について話し合い、手紙を書くことを通して、見つけたことを共感・共有することができる	(1) スリランカの気候について知り、本時のめあてをつかむ (2) スリランカの人に伝えたい日本の「すてき」について話し合う (3) スリランカの人に手紙を書く (4) 学習の振り返りをする	・パワーポイント 【資料1】 ・ワークシート 「アクシカちゃんへ」
4 (6年)	第6学年 総合的な学習の時間 「生き方を見つめる」 やりがいや使命感をもって仕事に打ち込んでいる人の話を聞き、生き方を学ぶとともに自分自身を見つめることができる	(1) 詩「そのこ」の朗読を聞く (2) パワーポイントを見て、スリランカについて知る (3) 国境を越えて世界で活躍する日本人がいることを知る (4) 青年海外協力隊の方のスリランカでの支援の具体から活動の思いについて考える	・パワーポイント ・絵本 「そのこ」

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1. スリランカの気候について知り、本時のめあてをつかむ。 T 夏休みにいったスリランカの写真を紹介します。 C フルーツジュースがおいしそうだね。 C ほかにはどんなどうぶつがいたのかな。 C 大きな岩だね。	・スリランカのよさを感じることができるよう、パワーポイントを視覚教材として活用する。 ・スリランカと日本の気候を比べることで、日本には四季があることに改めて気づき、その素晴らしさや不思議さを感じることができるようにする。	パワーポイント
展開 (10分)	2. 見つけた秋を発表する。 T 秋にはどんなことがありますか。見つけたことや感じたことを発表しましょう。 C どんぐりをひろったよ。 C 葉っぱの色が変わったよ。 C ほったさつまいもをみんなでいっしょに食べたよ。	・「秋見つけ」に出かけたことを想起させ、日本の「すてき」を見つけることができるようにする。	

<p>(20分)</p>	<p>3. お気に入りの秋を紹介する手紙を書く。</p> <p>T 日本の季節のことが知りたいアクシカちゃんに伝えたいことを手紙に書きましょう。</p> <p>C 何を書こうかな。</p> <p>C 絵も描きたいな。</p> <p>C 早くアクシカちゃんに手紙を届けてほしいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き始める前に、手紙は丁寧な言葉で書くことを確認し、文章を書き終えたら、間違いがないか自分で見直すように、声を掛ける。 ・机間指導を行いながら、児童が書いた振り返りを意図的に声に出して読み、書くことに困っている児童の手がかりとなるようにする。 	
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4. 手紙に書いたことを発表し、見つけた秋を共有する。</p> <p>T 手紙にどんなことを書いたか、発表しましょう。</p> <p>C いろいろな秋を見つけているな。</p> <p>C 自分の手紙と似ているな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で発表する前に、隣の席の人に書いた手紙を読み合い、自信をもって全体での発表ができるようにする。 ・見つけた秋について、児童同士で共有する。 	

【授業実践の様子】



使用した写真

【6】 本時の振り返り

児童は、日本には四季があるが、スリランカにはそれがないということを知り、驚いていた。当たり前のように感じていた四季が、日本の魅力であると気付くことができたのではないだろうか。

そして、スリランカに住むアクシカちゃんに日本の四季の素晴らしさを伝える手紙を書きたい、という気持ちをもって意欲的に学習に参加していた。

日本の四季を改めて思い浮かべ、四季折々ならではの景色や特徴を捉えて、全ての児童が伝えたい季節とその事柄を決め、手紙を書くことができた。中には、何を書くかじっくりと考え、書き始めるまでに時間を要し、授業の時間内に手紙が仕上がらない児童もいたが、翌日にアクシカちゃんへの手紙の続きを書きたい、と自分から取り組もうとする姿が見られた。

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなど、これまでの生活体験から、それぞれの季節の違いや特徴を見付け、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付いており、日本に来たことがないアクシカちゃんに知らせるという必要感が、主体的な学習に繋がっていた。

児童同士で手紙に書いたことを伝え合う時間まで確保できれば、より対話的で深い学びになっただろう。限られた時間の中で何をねらい、学習活動の内容を厳選していくことがこれからの課題である。

【アクシカちゃんへの手紙】



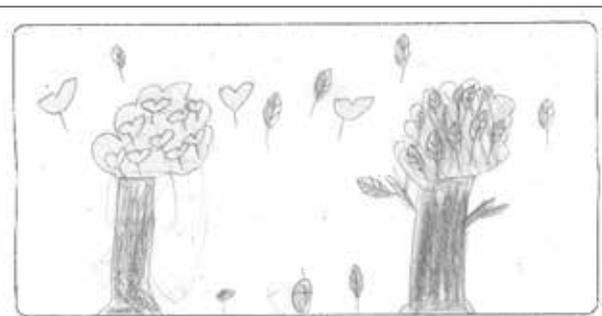
○日本にははるが
あります。はるしまは、はのいろが
あかやいろんなのいろのは、はが
あります。はるはてんとうむしやちゅうちゅう
どのいきものがいます。



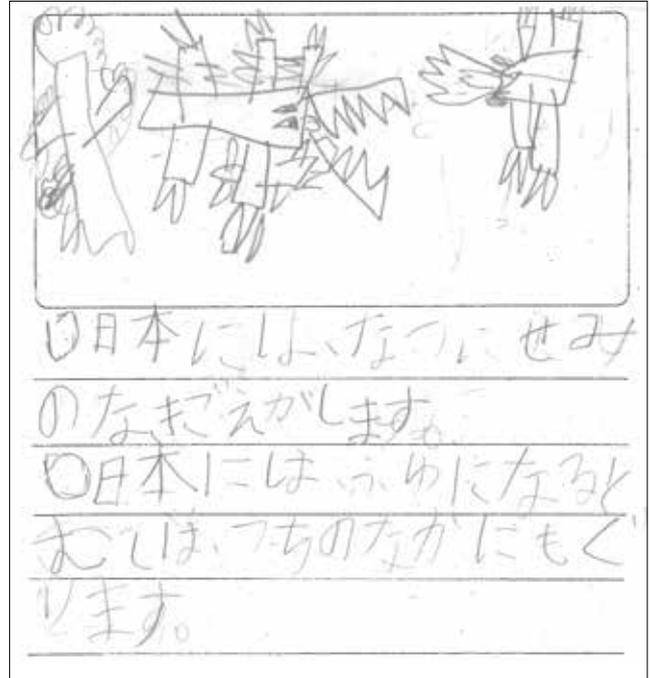
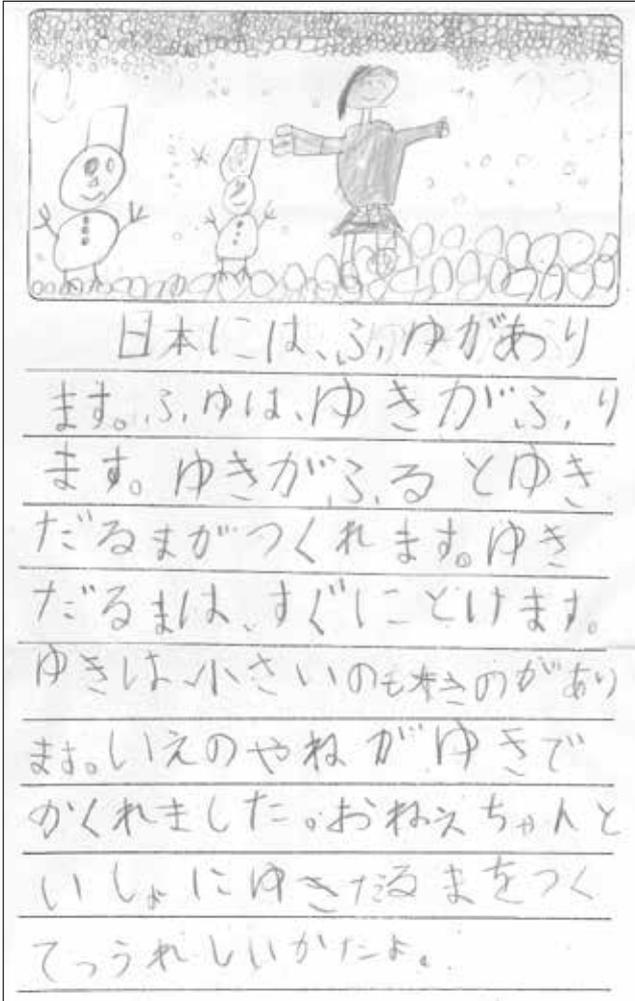
日本にはまきがまじま
日本ははのいろが
あります。いろはきいろまか
おねんじがまじま。まつぼ
くしとどんぶりせまじま。



日本にはあきのせつがあるよ。あきには
いろいろないろが落ちてくるよ。みじか
どんぶりさいちゅうとがほかにいろいろないろが
あるよ。ほかにいろいろなせつがほかにあるよ。



日本にはあきがあります。
あきになるとは、いろのいろが
あります。日本のあきは、どんぐりとい
ものでこまといろものがつくれます。
あきは、まつぼくといろものがあ



【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

スリランカコーナーを設置し、児童の手に触れることができるようにしたところ、喜んで民族衣装（サリー）を身に付ける児童、自分から国旗やスリランカの絵本を手にする児童の姿が見られた。また、家庭で見たテレビ番組でスリランカのことを放送されていたことを積極的に知らせる児童もあり、外国に興味をもち、スリランカという一つの国に親しみを感じている様子である。



スリランカコーナー

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

- ・知らないという児童が多い。
- ・外国が「遠い」という認識はあるが、日本国内の外出でも同じ「遠い」という認識であり、外国という概念が掴めていない。

- ・外国語＝英語だと思っている。

<授業後>

外国に行きたい（13名）

- ・行ったことがないから。
- ・名物を食べるため。
- ・外国のことを知りたいから。
- ・いろいろなものを見たい。
- ・いろいろな人と友達になりたい。
- ・日本にはいない虫を捕まえたい。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

スリランカへ出発する前から、滞在中、そして、帰国後もずっと考えていたことは、子どもたちの発達段階に応じて、何をどのように伝えることができるかということである。スリランカで見たこと、感じたこと、経験したことが多くあり、その全てを伝えることはとてもできない。授業時間の確保と内容の選定、伝える情報の厳選が必要である。

2. 改善点

実際に私が目にしたことは、スリランカのほんの一部である。全てはまず知ることから始まるので、自分自身が世界の現状にアンテナを張っておく必要がある。そして、子どもに何かを伝える際には、主観的で偏ったイメージをもたせないように注意しなければならない。

授業実践をするにあたり、事前に子どもに何を伝えるかを熟考し、どのような実践をしたいか具体的なイメージをもつことができたら、スリランカ滞在中に、必要な情報や、写真や動画、現地で得る教材など、より効果的に準備ができたのではないかと反省している。

3. 成果が出た点

児童はスリランカに大変興味を示し、親しみをもつようになった。また、スリランカという一つの国の文化を知ることで、世界には日本以外の国があり、さまざまな人がいるということに気付くことができた。

文化の違いを否定的に捉えるのではなく、自分たちとは違う文化の中で生活している人がいるということを受け止めている。

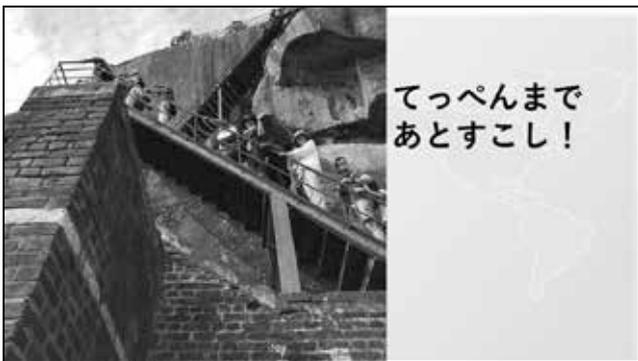
4. 備考

発達段階に応じて、伝えることができる内容は異なる。担任をしているのは1年生だが、6年生に向けて授業をする時間を得ることができ、実践の幅が広がった。自己の生き方を見つめていく段階の子どもたちに、世界で活躍している日本人の紹介ができたことは、刺激になったのではないかと思う。

【参考資料】

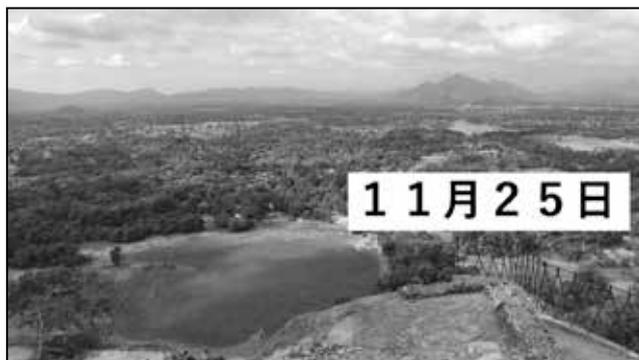
<書籍>

- ・絵本「きつねのホイティ」「かきどろぼう」（シビル・ウェッタシンハ）
- ・絵本「そのこ」（詩：谷川俊太郎）
- ・絵本「スリランカ孤児院建設プロジェクト応援ブック『南の島のプルワン』」（非営利団体スプートニクインターナショナルジャパン）



11月25日

シーギリヤ・ロックにのぼったおともだちが、しゃしんをおくってくれました。



スリランカには、「はる」「あき」「ふゆ」がありません。
つまり、きせつはずっと「なつ」です。



スリランカを知ろう！～海士町と同じ？ちがう？～

氏 名：池田 優子
担当教科：全教科
時 間 数：8時間

学 校 名：海士町立福井小学校
実践教科：国語科、学級活動、道徳、家庭科、校内
研修
対象学年：全学年、教職員
人 数：全校児童53名

【1】単元のテーマ・目標

- ・スリランカの生活文化等を知り、諸外国への興味・関心を高める。
- ・互いの国の相違点を見つけながら、相手をよく知る楽しさや大切さに気づく。
- ・初めての海外経験から感じたことを伝え、自分たちも行ってみたい、交流したいという意欲や関心を持たせる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国について興味・関心を高めている。
(イ) 思考・判断・表現	他国の文化について、自分の町とのつながりを考えたり、予想したりすることができる。
(ウ) 技能	スリランカと海士町の相違点を見つけることができる。
(エ) 知識・理解	スリランカの文化や生活様式について理解することができる。

【3】単元設定の理由

<児童観>

本校は、島根県の離島、海士町の中にある。都会のような便利の良さはないが、海士町にしかない自然や暖かい地域の方に囲まれて、児童はのびのびと過ごしている。一方、児童が島を出て過ごす経験が少なく、自分たちの町以外へと目を向ける機会があまりないことに気が付いた。また、町を訪れた外国からの観光客やALTの先生に対して、話をすることはできるが、その向こうの生活や外国の様子についてはあまり興味を示していない児童が多いことが現状である。

<教材観>

本単元は、外国の人や文化に興味や関心を持つとともに、互いの国の相違点に気づき、相手をよく知る大切さに気づくことをねらいとしている。「スリランカボックス」では、スリランカにあるものを見て、触って、においをかいでと五感を使って体験することができる。体験を通して、スリランカを身近に感じることでできる教材である。

<指導観>

人口や面積、物の写真など、自分たちの住む海士町と比較しながら相違点を考えることで、距離的には遠い国のようなスリランカを身近に感じてほしい。また、相違点を考えながら諸外国に目を向け、海の向こうに渡ってみたいという興味を持たせると同時に、自分たちの住む海士町の良さにも触れていきたい。

教員自身が、教師海外研修が初めての海外だったことから「知らないことを知って面白い。」「出会いは宝物。」「スリランカは遠いようで、実は近い存在だ。」という3つのことについて、実体験をもとに児童に伝えたい。そして、新しいことに挑戦する勇気を持てるようにしたい。

【4】展開計画（全8時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「10日間の研修について」 （教員） ・スリランカ研修で学んだことや感じたこと、国の様子について見たことなどを教職員に知らせ、学びをフィードバックすることができる	○スリランカについて ・スリランカでの学びについてプレゼンテーションをする ・スリランカでの経験を通して感じたことを話す	・写真、動画 ・パワーポイント
2	「夏休みの思い出」 （1年生・学級活動） ・夏休みの経験を話したり、聞いたりすることができる	○スリランカってどんなところ？ ・写真や世界地図を使って、スリランカについて知る ・写真や動画から、自分たちの国との違いや同じところを考える	・写真、動画
3	「スリランカの衣食住」 （5、6年生・家庭科） ・スリランカの衣食住について知り、自分たちとの相違点を見つけたり、暑い時期を快適に過ごすための工夫を考えたりすることができる	○暖かい地域に暮らす世界の人の暮らしを知ろう ・写真や動画を見て、スリランカの人々の暮らしについて知る ・自分たちの国との相違点を考える。 ・暑い時期を快適に過ごすための工夫や良さを考える	・写真、動画
4 本時	「スリランカを知ろう！」 （全校・学級活動） ・スリランカについて知り、諸外国への興味・関心を高める	○スリランカクイズをしよう！ ・スリランカクイズを通して、自分たちの住む海士町との共通点や相違点を見つける ○体験！スリランカボックス！ ・スリランカのものや写真から、スリランカの人々の生活について知る ○スリランカでの学び ・教員が体験して感じたことや考えたことを聞く	・写真、動画 ・パワーポイント ・スリランカボックスの品 ・ワークシート ・感想用紙
5	「この本、どんな本？」 （1年生・国語科） ・自分の好きな本を紹介することができる ・紹介された本に興味を持ち、自分で読むことができる	○絵本を読もう ・スリランカ出身の絵本作家シビルウェッタシンハさんの絵本やスリランカについて書かれた絵本「南の島のプルワン」の絵本の読み聞かせを聞く ・好きなところや素敵なところを見つける ・発行者の思いを知る	・シビルウェッタシンハさんの絵本

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
6	「ことばがつうじなくても」 (1年生・特別の教科 道徳) ・国際理解・国際親善 ・他国の人々に親しみ、進んで関り、よりよい関係を築こうとする心情を育てる	「となりのジェニーちゃん」 ○言葉が通じないジェニーちゃんと主人公が仲良くなれた理由を考える ・世界の絵日記を読んで、日本と比べる ・スリランカの勉強や文字について知る	・みんなの道徳1年 (学研) ・ワークシート
7	「サッカー日本代表の監督になろう」 (教員) (人権・同和教育研修) ・アクティビティを通して人権について考えることができる	○サッカー日本代表の監督になろう ・日本代表としての必要条件を考える ・条件から見る人権について考える	・ワークシート ・iPad
8	「日本とスリランカの関係について」 (6年生・社会科) ・戦後の二国関係について知り、外国について関心を持っている	○スリランカの関係を知ろう ・日本とスリランカの戦後の様子を写真や動画で学ぶ ○内戦の様子を知ろう ・スリランカの内戦について、写真を見たり話を聞いたりする ・戦争について、自分の考えを持つ	・写真、動画 ・ワークシート

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (8分)	1. スリランカについて知ろう 【共通点】 ・島であること・牛や馬がいる ・算数の問題が同じ・国旗がある 【相違点】 ・大きさ・人口・国旗の模様	・スリランカと海士町を比較しながら、共通点や相違点を考えられるようにする。	・パワーポイント ・国旗
展開 (32分)	2. スリランカクイズをしよう	・スリランカの生活や様子がわかるように写真や動画を準備しておく。また、補足説明をしながら正解を発表する。 ・クイズを楽しむだけでなく、ここでも海士町との共通点や相違点について知らせるようにする。 ・児童の「どうして、なぜ」を大事にしながらかを進める。	・パワーポイント ・写真 ・動画
	3. 体験！スリランカボックス	・6つの班に1つずつ、スリランカの物を準備する。 ・五感を使って考えるよう伝える。 ・補足説明をしながら正解を発表する。	・品物・写真 ・ワークシート

まとめ (5分)	4. 教師の説話・児童の感想	・海外に行って感じたことを伝える。その際、児童が自分も海外に行きたい、もっと知りたいという意欲がもてるようにする。	・感想用紙
-------------	----------------	---	-------

【授業実践の様子】



スリランカの話をしている様子



スリランカクイズに答える様子



スリランカボックスの様子①



スリランカボックスの様子②



【8】自己評価

1. 苦労した点

伝えたいことがたくさんあり、何をどうやって、どこまで伝えるかを悩んだ。伝えたいことがあっても、伝える手段や方法を間違えれば意味のない学習になってしまう。また、伝える内容も教師個人の見たこと感じたことだけを伝えと、偏った情報の伝達になるのではないかと悩んだ。途上国がマイナスイメージだけにならないように注意した。

1年生から6年生までの異年齢があり、難しい言葉では伝わりづらいので、言葉選びにも苦労した。簡単な言葉では本当の意味が伝わりにくいので、簡単な言葉で、しっかりと内容を説明するようにした。

2. 改善点

スリランカクイズで伝えることをもう少し精選して、説話や振り返りに時間がかけられるようにする。

テレビとの接続が悪く、動画を見るのに時間がかかったので、パソコン以外でも動画が見られるようにしておく。

事前アンケート等を準備して、意識の変容がより見えるようにしておく。

発達段階に応じて、伝える内容を変える。

「へえ。そうなんだ！」を積み重ねていけるようにする。

3. 成果が出た点

外国に対する視野が広がり、日本と外国（スリランカ）を比べたり、教科書や絵本に出てきた国について知ろうとする意欲が見られたりするようになった。学級通信や校報でも授業の様子を伝えたと、家庭でも話題にしてもらうことができた。世界の挨拶について学んだことによって、スリランカの「アーユーボワン」の挨拶を覚えていてする児童もいた。

全校児童で学習することについて、発達段階の違いから不安もあったが、高学年がうまくリードしてくれたり、低学年の素朴な疑問が実は核心をつく大切なことだったり、全校児童で学習しなければできなかったことがたくさんあった。

児童にとって、外国が「行ったことのない国」から、「なんだか身近で、行ってみたい国」へと変わったことが大きな成果だと感じる。

4. 備考

教師海外研修での10日間は、知らないことばかりだった。スリランカというところも、発展途上国というところも初めてで、さらにその中で出会う出来事も初めてのものばかりだった。この初めて知る時のわくわく感や面白さを児童に伝えたいと思った。そして、「初めて」は勇気があるけれど、体験してみないとわからないことのほうが多く、体験しないのはもったいないことも知った。海外に目を向けると同時に、そこから見えてくる故郷の良さを考え、故郷を大切に思いながらも広い視野を持って活躍できる児童を育成していきたいと感じた。

【参考資料】

<書籍>

- ・絵本「ねこのくにのおきゃくさま」
- ・絵本「かさどろぼう」
- ・絵本「きつねのホイティ」
- ・絵本「南の島のプルワン」
- ・JICA中国「2017年度 JICA中国スリランカ教師海外研修授業実践報告書」
- ・JICA中国「2016年度 JICA中国ラオス教師海外研修授業実践報告書」

<Webサイト>

- ・スリランカ民主社会共和国／外務省
- ・DEAR 開発教育協会HP

世界の国を知ろう！

～スリランカ・ボックス～

今日の学習

1. スリランカって どんどころ？
～わたしたちの住む海士町と くらべてみよう！～
2. スリランカ・クイズをしよう！
3. スリランカ・ボックスをしよう！
4. 池田先生がスリランカへ行って
感じたこと・思ったこと

1. スリランカって どんどころ？
～わたしたちの住む海士町と くらべてみよう！～

スリランカ 海士町2000部分の縮刷 海士町

スリランカと海士町のおなじところ どちらも島！

スリランカと海士町のおなじところ 牛や馬がたくさんいること

スリランカと海士町のおなじところ 算数の問題がいっしょ！

スリランカと海士町のおなじところ アワーマーケット・アワープロダクト (地いきのものを 地いきで売ろう！)

2. スリランカ・クイズをしよう！

だい1もん

スリランカのゆう名なたべものはなんでしょう？

- ①カレー
- ②シチュー
- ③オムライス



①カレー

だい2もん

スリランカで「あゆぼわーん」は
どないみでしょう？

- ①あなた
- ②すき
- ③こんにちは

③こんにちは

だい3もん

これ、なーんだ？



- ①いえ
- ②いわ
- ③いんせき

①いえ



だい4もん

これ、なーんだ？



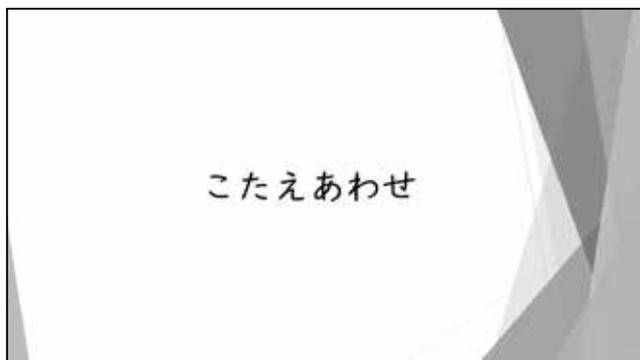
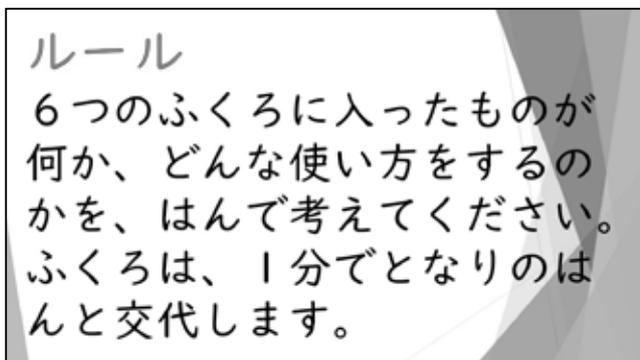
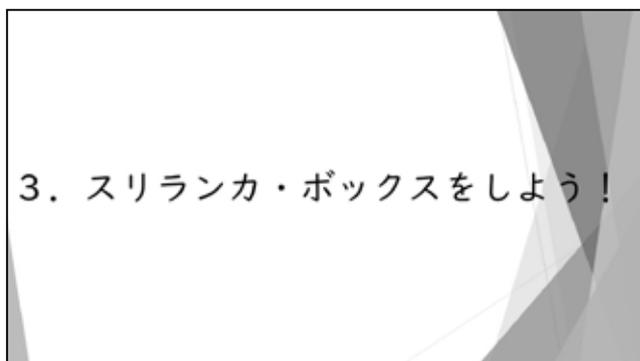
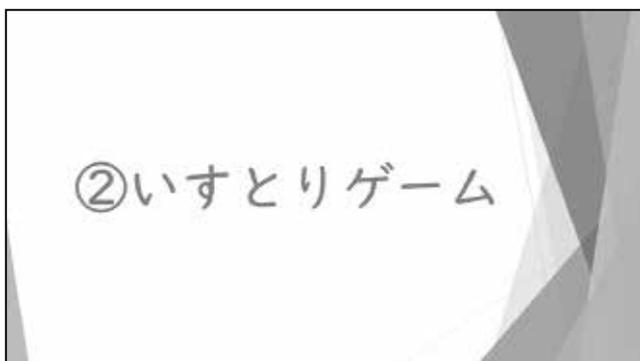
- ①とうもろこし
- ②バナナの花
- ③いも



だい5もん

スリランカでも、日本とおなじあそびがあります。なーんだ？

- ①だるまさんがころんだ
- ②いすとりゲーム
- ③あやとり



メモようし (ただし…)

Elephant Dung Paper Products

Made out of elephant dung and post consumer paper.
Pulped to perfection by the majestic elephants
(*Elephas maximus maximus*)
and handmade in rural Sri Lanka.



サロマ
(男の人が着る服)



日本のヘチマ



4. 池田先生がスリランカへ行って
感じたこと・思ったこと

①知らないことをしるって
おもしろい!

②とおい国だけど・・・
じつは いがいとちかい



③人とのあいは
たからもの

ස්තුතියි



スリランカボックス

【 】組 【 】班

	予想
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

せかいを知ると たのしいね!

氏 名：川上 典剛

学 校 名：下関市立江浦小学校

担当教科：全教科

実践教科：学級活動、外国語活動、道徳、体育

時 間 数：11時間

対象学年：第2学年

(公開授業は7/11時間)

人 数：21人

【1】単元のテーマ・目標

スリランカをはじめとした外国の様子や文化を知ったり、外国の人と交流したりする活動を通して、世界を知る楽しさや喜びを味わうことができる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	外国についての興味や関心をもつことができる。
(イ) 思考・判断・表現	どうすれば外国の人とコミュニケーションをとることができるか、工夫することができる。
(ウ) 技能	歌や遊び、会話を通して、外国の人とコミュニケーションをとることができる。
(エ) 知識・理解	日本と外国の文化について、共通点や相違点に気付くことができる。

【3】単元設定の理由

<児童観>

本学級には、1年生のときにベトナムからやってきた児童がいる。当初、日本語の読み書きや会話が全くできなかったが、来日して1年が経ち、日常生活に支障のないほどに日本語を習得した。そんな児童と1年間を共に過ごしてきた本学級の児童の中には、言葉の通じない外国の人とコミュニケーションをとることに積極的な児童もいる。また、ベトナムに対する興味や関心をもつ児童もいる。しかし、日常生活の中で、他の外国の文化について考えたり学んだりする機会は、少ない。

<教材観>

本単元は、児童が外国の文化に興味や関心をもつことをねらいとしている。そのため、本校のトルコ出身の外国語指導助手と交流する活動を取り入れる。ここでは、担任が教師海外研修での実体験を基に授業を進めたり、児童の興味や関心に沿って授業を展開したりすることが大切である。そうすることで、児童は、国際交流の楽しさや喜びを感じることができるだろう。

<指導観>

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- 教師海外研修で撮影した写真や動画を基につくった「スリランカクイズ」を行うことで、児童の外国文化に対する興味や関心の扉を開くことができるようにする。

- スリランカ出身の絵本作家シビル・ウェッタシンハさんの作品を読み聞かせすることで、日本と外国の文化の共通点や相違点に気付くことができるようにする。
- 外国語指導助手と交流する場を設定することで、日本語が通じない人とコミュニケーションをとる難しさや楽しさを味わうことができるようにする。

【4】 展開計画（全11時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「スリランカって、どんな国かな」 ・「スリランカクイズ」を通して、スリランカの人や文化に興味や関心をもつことができる (実践教科：学級活動)	○ スリランカの国や人々の生活の様子について知る ・スリランカの位置 ・シンハラ語とタミル語での挨拶 ・スリランカの人々の生活（食事、衣服、乗り物、お金など） ・野生動物とスリランカの人々との関係	・パワーポイントで作成した「スリランカクイズ」のスライド【資料1】 ・現地で撮影した写真や動画 ・スリランカの紙幣と硬貨
2 3	「スリランカの人々は、どのような生活をしているかな」 ・絵本を通して、スリランカの人々の生活の様子を知ることができる (教科：学級活動)	○ スリランカ出身の絵本作家シビルウェッタシンハさんの絵本の読み聞かせを聞く ・スリランカと日本の生活様式における共通点や相違点	・シビルウェッタシンハさんの絵本 「ねこのくにのおきやくさま」 「かさどろぼう」 「きつねのホイティ」
4	「スポーツで仲良しとは、どういうことかな」 ・自分と他国の人々は違いはあっても同じ人間であり、互いの良さを大切にしたいという心が自分にもあることに気付くことができる (教科：特別の教科 道徳)	○ 道徳教材「オリンピックとパラリンピックのはた」を基に、「スポーツでなかよし」の意味について、話し合う ・オリンピックとパラリンピックの旗の意味 ・真剣勝負から生まれる友情 ・外国について調べたいこと	・道徳の教科書 ・2016年リオオリンピックの写真や動画 ・ワークシート
5	「エダ先生と交流しよう」 ・トルコの文化について知ることができる ・外国語指導助手とコミュニケーションをとることができる (教科：外国語活動)	○ 外国語指導助手がつくったトルコクイズや英語ゲームを行う ・トルコの様子や文化 ・英語を使った自己紹介 ・英語で表現した果物の言い方 ・I like ~	・外国語指導助手が作成したスライド ・果物カード
6	「外国の人と仲良くなるためには、どのようなことが大切かな」 ・外国の人と仲良くなるために、大切なことは何かを考えることができる (教科：特別の教科 道徳)	○ 道徳教材「ジョゼくんとおりがみ」を基に、外国の人と仲良くなるためにはどうすればよいかを話し合う ・外国の文化への興味や親しみ ・日本の文化 ・外国の人と仲良くなるために大切なこと	・道徳の教科書 ・ワークシート ・世界地図 ・柔道と折り紙の写真

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7 本時 8 9	「エダ先生と、もっと仲良くなるためには、どうすればよいかな」 ・外国語指導助手と、もっと仲良くなるための会を計画する際に大切なことに気付くことができる。 (教科：学級活動)	○ トルコ人の外国語指導助手と、もっと仲良くなるためにはどうすればよいかを話し合い、会の計画を立てることができる ・日本語が通じない外国の人とコミュニケーションをとる方法 ・担任がスリランカの人々と仲良くなるために実践した交流の工夫 ・紹介したい日本文化 ・日本とトルコの文化の共通点	・教師海外研修で撮影した写真や動画【資料2】 ・エダ先生が交流で用いたトルコクイズの内容をまとめた大判用紙 ・世界地図
10 11	「2の1版クリケットで遊ぼう」 ・スリランカの人気スポーツであるクリケットを基にしたボールゲームを楽しむことができる。 (教科：体育)	○ 2の1版クリケットを行う。 ・2の1版クリケットのルール ・ボールの打ち方、投げ方、捕り方 ・使用する用具の工夫	・バット、テニスラケット ・バッティングティー ・スポンジボール ・ウィケットの代わりとするコーン など

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 10分	1. エダ先生と学習した外国語活動の授業を振り返る ○自分のことを知ってもらいたかったのではないかな ○自分もエダ先生と同じアニメが好きで嬉しかったな ・自己紹介で大切なこと 2. エダ先生を招待する会の計画を立てる ○自己紹介をしたいな ○トルコの国で使っている言葉を教えてもらいたいな ○エダ先生が大好きなドッジボールで一緒に遊びたいな ・自分たちから伝えたいこと ・エダ先生に教えてもらいたいこと	T どうしてエダ先生は、トルコの場所や食べ物、自分の好きなものを紹介したのか ㊦ 前時のエダ先生による外国語活動の学習内容を想起させることで、エダ先生は、言葉だけでなく、写真や動画など視覚的な資料を活用したり、相手との共通点を紹介したりする工夫をしていたことに気付くことができるようにする T エダ先生と もっと仲良くなるために、エダ先生と一緒にどんなことをしたいか ㊦ 教師海外研修で、担任がスリランカの人々と仲良くなるために実践した「ジャパニーズボックス」や日本のおもちゃ遊びの活動を紹介することで、一方通行ではない、双方向の活動が仲良くなるために効果的であると気付くことができるようにする	・エダ先生が自己紹介で話した項目をまとめた短冊 ・授業の様子を撮影した写真 ・世界地図 ・ホームビジットでお世話になったタミル人家族と交流している写真 ・スリランカの子どもに日本の文化紹介をしている写真や動画 ・「ジャパニーズボックス」で紹介した道具（防犯ブザー、ドッジビー など）

<p>展開 25分</p>	<p>○1人ずつ自分の好きなことを英語で伝えるのはどうかな ○学習発表会の音読劇を発表したいな ○トルコ語のクイズをエダ先生に出題してほしいな ○トルコのことを何も知らないな。どうすれば調べられるのかな ○エダ先生、日本語わかるかな ・トルコに関する情報 ・日本語が通じない人と交流する際の工夫点</p>	<p>T グループでどんな意見が出たか ㊦ クラスを「自分たちの紹介」、「エダ先生に教えてもらいたいこと」、「一緒に活動したいこと」の3つのチームに分ける。話し合ったことをクラス全体で発表させることで、それぞれの意見のよいところや疑問点を共有したり解決したりできるようにする ㊧ 「日本語は、少しだけなら読んだり聞いたりして理解できるが、苦手である」というエダ先生の言葉を紹介することで、言葉の壁を乗り越えて、どうやって交流するかを話し合うことができるようにする</p>	<p>・チームごとの意見を記入する画用紙</p>
<p>終末 10分</p>	<p>3. 本時の学習を振り返る ○日本語が通じない人に自己紹介するのは難しいな ○英語で自己紹介をする方法を知りたいな ・外国の人と仲良くなるための工夫 ・言語の壁を越えて交流する難しさと楽しさ</p>	<p>T 今日の学習で学んだことや、次時にやりたいことは何か ㊦ 気付いたことや次にやってみたいことをワークシートに書かせることで、次時への見通しをもつことができるようにする ㊧ 外国の人と仲良くなるために大切なことについて気付くことができたか、発言や記述からみとる</p>	<p>・ワークシート ・これまでの学習をまとめた大判用紙</p>

【授業実践の様子】

5時間目のエダ先生との交流学習、6時間目の道徳の学習を通じて、児童に「もっとエダ先生と仲良くなりたい。でも、どうしていいかわからない。」という思いがあることがわかった。そこで、本時（＝7時間目）では、エダ先生ともっと仲良くなる方法について話し合うことにした。

導入では、前回のエダ先生との学習を振り返り、児童自身が感じている楽しさや難しさについて話し合った。なぜ、エダ先生ともっと仲良くなりたいのかという理由を、クラスみんなで共有するためである。児童は、「エダ先生の出身国であるトルコの様子や、エダ先生の好きなことなどを教えてもらうことは楽しかった。でも、エダ先生が話す英語が理解できなかった。自分の言いたいことを伝えることが難しかった。」と発表した。また、エダ先生に自己紹介をしていなかったことに気づき、残念だったと発表した。この意見には、共感する児童が多くいた。自己紹介の大切さに気付いた児童は、今度は自分たちが自己紹介をすることで、もっと仲良くなれるのではないかと考えた。そこで、本時のめあてを、「エダ先生ともっと仲良くなるためには、どうすればよいか」と設定した。



これまでの学習を振り返る児童

展開では、まず、エダ先生の自己紹介を振り返ってみた。自己紹介では、何を話せばよいかを見つけるためである。話合いの結果、エダ先生の自己紹介の内容は、①自分の名前や出身地、②自分の好きなものであることがわかった。また、工夫点として、写真を見せながら話していることに気付くことができた。そこで、これらを基に、「伝えたいこと」「教えてもらいたいこと」「一緒にやりたいこと」の3つの視点から、自分がエダ先生に伝えたいことを考えることとした。

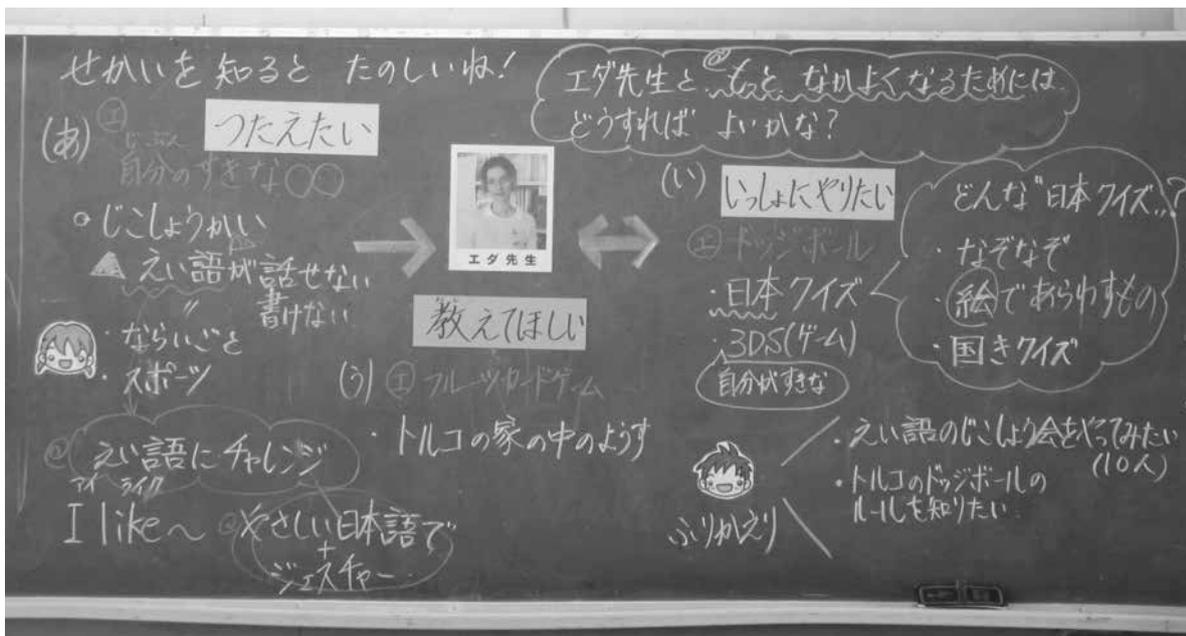
児童は、自己紹介で伝えたい内容をワークシートに記述した後、グループごとに話し合い、全体場で発表し合った。「自分の好きな遊びや食べ物、動物を伝えたいな。」「トルコ語では英語を使うのかな?」「エダ先生が好きなドッジボールをいっしょにやりたいな。」という意見が出た。しかし、一方で、「これらをどうやってエダ先生に伝えようか? 私たち、英語が話せないよね。」という意見が出て、全体場での話し合いは、大きな壁にぶつかってしまった。

次に、解決すべき課題を見つけた児童は、解決策を話し合った。ここで担任は、教師海外研修でスリランカの人々と交流している動画を見せた。シンハラ語を読んだり話したりすることができなかった自分が、どうやってスリランカの子どもたちや家族と交流したのか、その具体的な取組みを紹介することで、児童の課題解決のヒントになると考えたからである。動画を見て、児童は、その国の言葉が話せなくても、身振り手振りや絵を見せることで、思いは伝わるのではないかと考えた。また、児童は、「エダ先生は、漢字は読めないが、カタカナや優しい日本語なら、読んだり理解したりすることができるのではないか。」と仲間に提案した。



解決策を話し合う児童

終末では、次時の学習でやることを確認した。本時の学びを振り返り、次時へと学びをつなげていくためである。児童からは、展開部分での提案を基に、自分が何を、どうやって自己紹介するかをもう一度考えたいという意見が出た。担任は、これらの意見を黒板に整理して、本時の授業を終えた。



授業の板書

【6】 本時の振り返り

本時の授業を通じて、私が児童と考えたかったことは、「言葉が通じない外国の人と、どうやってコミュニケーションをとるか」であった。スリランカでの教師海外研修で一番心に残っているのは、言葉の通じない外国の人とコミュニケーションをとる難しさと、思いが通じてわかり合えた喜びであり、この経験を児童に伝えたかったからである。

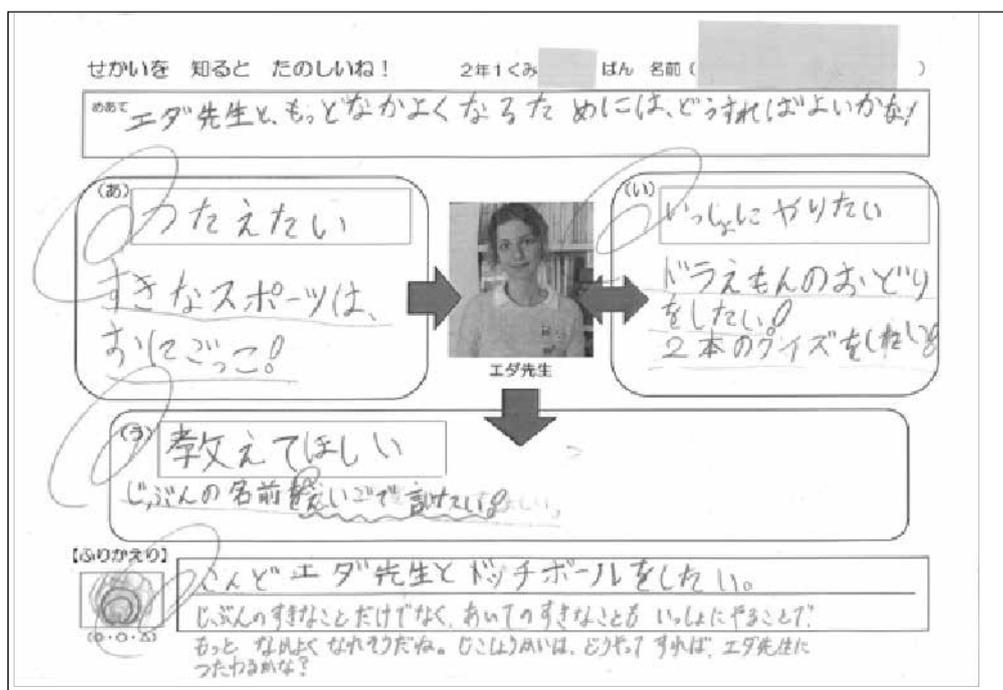
児童は、日本語で自己紹介ができなかった失敗経験を基に、身振り手振りや絵を見せること、カタカナや優しい日本語を用いることなどの自己紹介の方法を見出すことができた。本時の学びは、今後、外国語を学ぶ意欲付けにもなるし、外国の人と接していくうえで役に立つであろう。

上記の理由から、本時の授業は、授業者のねらいを達成できたと考える。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

単元の前半、児童は、担任が撮影したスリランカの写真や動画、スリランカの絵本を通じて、スリランカを知る学習を行った。日本との共通点や相違点から、スリランカという国を知っていった。まだこの時点では、「スリランカ」を学んでいる段階であった。

単元の中盤に行った、トルコ出身の外国語指導助手であるエダ先生との交流学习をきっかけに、児童の学習に対する意識が変わった。担任が示したもので学ぶという受身の学習から、自分から外国の人や文化と関わっていききたい、という前向きなものへと変化したのだった。下記に示す児童のワークシートからも、「～したい」という意欲的な表現が多く見られる。この頃から、児童は教室側面の掲示板上に貼っている、これまでの学習をまとめた大判用紙（p38 上）を頻繁に見るようになった。これまでの学びの中から、授業で生かせるものはないかを探すためである。「道徳で勉強した『ジョゼくんとおりがみ』では、一緒に折り紙遊びをして、外国の人と仲良くなっていたね。エダ先生にも、日本の遊びを紹介したいな。どう思う?」「いいね。私たちが学習発表会でやった歌やダンスをやろうよ!」という会話が聞こえてきたことから、これまでの学びを生かしていることがわかる。



授業のワークシート



これまでの学びをまとめた教室掲示



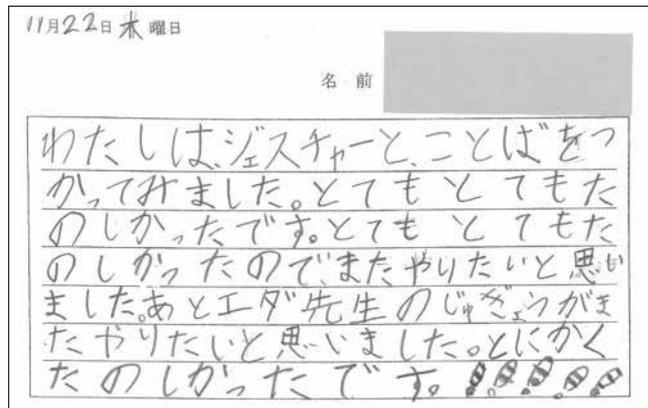
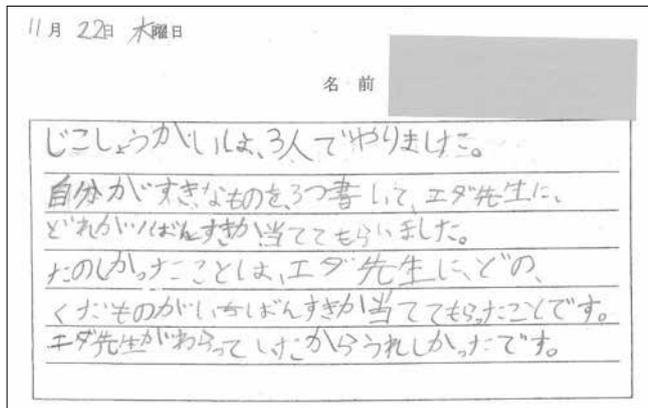
エダ先生に自己紹介をする児童

単元の後半では、2回目のエダ先生との交流学习を行った。児童は、身振り手振りや絵だけでは気持ちを伝えるうえで不十分あると考え、エダ先生が使っていた英語表現「Hello」「I'm ○○」「I like ~」を使って自己紹介をすることに挑戦した。画用紙に好きな食べ物や動物の絵を描いてクイズ形式で出題する児童、すべて英語で自己紹介をする児童、生活科の学習で作ったブンブンごまを披露する児童、学校生活を劇で紹介する児童など、思い思いの方法で、自己紹介を行うことができた。授業後にエダ先生に感想を聞くと、「すごく楽しかった。子どもたちの工夫と努力に驚いた。嬉しかった。」と話していた。



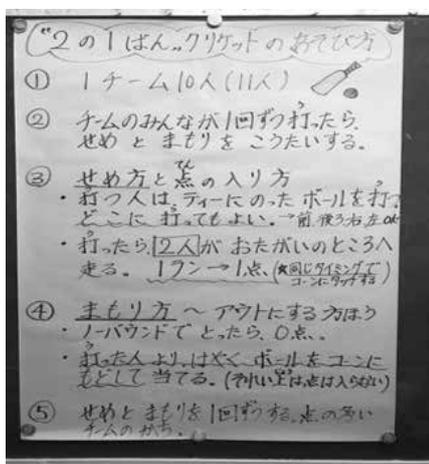
自己紹介で使用した画用紙

交流学习後に児童に感想を聞くと、「すごく緊張した。でも、エダ先生がにっこりと笑ってくれたから、すごく嬉しかった。伝わってよかった。」と話していた。下記の感想からも、言葉の通じない人とどうやってコミュニケーションをとるかという壁を乗り越えた達成感をみとることができる。



2回目の交流学习を終えた児童の感想

単元のまとめとして、スリランカの人気スポーツであるクリケットをアレンジした「2の1版クリケット遊び」を行った。どこに打ってもいいことや、三振がないというクリケットのルールは、球を打ったり捕ったりするボールゲームの経験が浅い2年生にとっては、嬉しいものだった。児童は、「クリケット遊び、楽しかったよ。スポーツでもスリランカを知ることができてよかった。」と感想を述べていた。



2の1版クリケット遊びのルールとコート図

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

本単元の授業前は、児童にとって、外国はあまり意識することのないものであった。また、日本との共通点や相違点を比較する対象でしかなかった。

<授業後>

児童にとって、スリランカは大好きな国となった。また、他の国の人々や文化は、知りたい、関わっていきたい対象へと変化した。また、シンハラ語や英語、トルコ語などの外国語を学ば、世界中のたくさんの人と話ができるという前向きな意識も生まれた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

小学校2年生に、どうやって国際理解教育を行えばよいか、単元構成づくりが苦労した。中でも、「スリランカ」を教えるのではなく、スリランカの学習を通じて何を考えさせるのか、という視点で授業を組み立てていくことを最も工夫した。

2. 改善点

単元構成をつくる際、担任以外のゲストティーチャーをお願いするか、また、何をどこまで教えていただくかという見通しをしっかりとっておくことが大切だと感じた。児童が必要感をもって関わることのできる学習課題やゲストティーチャーは、児童の意欲的な学びにとって重要であると気付くことができた。

3. 成果が出た点

私自身にとっては、今回初めて、ゼロから国際理解教育に関する単元づくりを行うことができたことである。実際に現地に行って学んできた国だからこそ、目の前の児童の興味や関心に沿って、授業でどれを取り上げるのか取捨選択をすることができた。

児童にとっては、世界を知ると楽しいという意識をもつことができたこと、外国語を学ぶ意欲付けになったことが、大きな成果として挙げられる。

4. 備考

スリランカでの教師海外研修、そして帰国後の授業実践を通じて、国際理解教育の楽しさを実感することができた。自分の専門教科である体育に加えて、進んで学んでいきたいと思える分野に出会えたことは、今後の教師人生においてプラスになると考えている。

また、スリランカで活動しているJICA職員をはじめ、青年海外協力隊員、現地の家族との出会いは、私の世界を広げてくれる貴重な体験となった。改めて、本研修に参加できたことを心より感謝している。

【参考資料】

<書籍>

- ・教科書「小学 どうとく ゆたかな こころ 2年」光文書院
- ・「かさどろぼう」シビル・ウェッタシンハ 作・絵 猪熊葉子 訳
- ・「きつねのホイティ」シビル・ウェッタシンハ 作 松岡享子 訳
- ・「ねこのくにおきゃくさま」シビル・ウェッタシンハ 作 松岡享子 訳

<Webサイト>

- ・日本クリケット協会ホームページ
- ・2017年度JICA中国「教師海外研修－スリランカ－授業実践報告書」

スリランカを知ろう！

平成30年度 JICA教師海外研修より

スリランカって、 どこにあるの？



スリランカには、
どうやって行った
でしょう？

- ① ひこうき
- ② 車
- ③ ふね



せいかいは・・・① ひこうき

山口から
スリランカまで
やく
6000キロメートル
ひこうきで
9時間かかったよ



スリランカでは
なんという お金が
つかわれているでしょう？

- ① 円 (えん)
- ② ドル
- ③ ルピー



せいかいは・・・③ ルピー



スリランカの
下の方では、
「こんにちは」は、
なんと言うでしょう？

- ① アーユーボワン
- ② ハロー
- ③ ストゥティー



せいかいは・・・

①アーユーボワン

なかよくなるための
まほうのことば♪
みんなで 言ってみよう！

スリランカには、
こんなのりものが
たくさん走っていま
す。
なんという のりも
のでしょうか？

- ①スリーウィーラー
- ②バイク
- ③スクーター



こたえ・・・①スリーウィーラー
日本のタクシーのようなもの



どうろで ある どうぶつ
に出会いました！
それは なに？

- ① ライオン
- ② ゾウ
- ③ きょうりゅう

こたえ・・・②ゾウ



ちなみに・・・こんなどうぶつにも 会
いました！



これが オオトカゲ！



スリランカの
上の方に
すんでいる子どもに
あいさつをします。
なんと言うでしょう？



- ① ニーハオ
- ② ワナツカム
- ③ チャーオ

こたえ・・・②ワナツカム
スリランカでは、同じくの中でも、
つかっていることばがかわるんだね。
シンハラ語とタミル語があるんだ、



スリランカでは、
こんな ふくを
きている人を見
たよ。
なんという
ふくだろう？



- ① サロン
- ② ハツピ
- ③ サリー

こたえ・・・③サリー



さいごに・・・
スリランカの絵本を しょうかいします。
スリランカ人絵本さっかの
シビル・ウェッタシンハさんです。



これから、みんなで スリランカのこと、
日本のことを 学んでいきましょうね



「エダ先生と “もっと” なかよくなるう！」大さくせん！！



エダ先生との 学しゅうの ふりかえり



- ・エダ先生が 日本のアニメを 見ていることが びっくり！
- ・えい語を いっぱい 教えてくれて うれしかったよ。
- ・いっしょに ゲームであそべて、楽しかった！
- ・つぎは、エダ先生に 自分の好きなことを 教えてあげたいな！
- ・エダ先生と いっしょに ドッジボールをしたいな。



- ・えい語で しゃべったから、言ってることが よくわからなかった。
- ・えい語が読めなかった・・・。こまったよ！
- ・トルコは どんなことばを 話すのかな？どんな字を 書くの？
- ・トルコの町や家は、どんなのかな？知りたいな！

川上先生が スリランカの人たちと なかよくなるために やったこと①



川上先生が スリランカの人たちと なかよくなるために やったこと②



川上先生が スリランカの人たちと なかよくなるために やったこと③



川上先生が スリランカの人たちと なかよくなるために やったこと④



みんな 友だち！みんな なかよし！



みんな 友だち！みんな なかよし！



せかいを知ると たのしいね！



他国について知ること

氏名：池永 真依子

担当教科：全教科

時間数：5時間

学校名：周南市立富田東小学校

実践教科：学級活動、道徳、総合的な学習の時間

対象学年：2年、5年、教職員

人数：28名（2年3組）

【1】単元のテーマ・目標：他国について知ること

スリランカや他国の文化、人物、またその人物がもつ願いを知るを通して、知ることの楽しさを体験し、他国からの視点で物事を考えるきっかけを与えたいと思い、このテーマを設定した。また、様々なことを知ること、やってみたい、行ってみたいという興味関心につなげたい。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国の文化やスリランカに興味をもつことができる。 (学級活動、道徳科)
(イ) 思考・判断・表現	疑問を見つけ、予想して考えることができる。 (学級活動、道徳科)
(ウ) 技能	他国の料理や遊び、考え方に触れ、似ているところや違うところを見つけることができる。 (学級活動)
(エ) 知識・理解	スリランカや他国の文化・人物・願いについて知る。 (総合的な学習の時間)

【3】単元設定の理由

<児童観>

本学級の児童28名（男子10名、女子18名）は、意欲的に学習に取り組んでおり、国語科や生活科においては、身の回りのことに対して疑問をもち、友だちと協力しながら問題を解決していく学習を積み重ねている。本校に在籍するALTと給食を食べる機会があったが、恥ずかしさのため積極的に話そうとする児童は少ない。また、自分たちの生活の中にあるものが、日本独自のものなのか、他国から伝わったものなのかを区別することは難しく、他国の人々や文化についての知識も乏しい。身近な他国の遊びや食事など、文化への気付きを促し、身近な行事やスポーツでの交流を通して他国の人々への親しみや、そのよさを味わうことから、国際理解への感心を高めたい。

<教材観>

本教材は、東京オリンピック・パラリンピック大会を視野に入れて、他国の伝統、文化への理解を深め、親しみを感じることができる教材である。たけしが、世界の遊びについて調べてみると、日本と同じ遊びが他国にもあることを知り、親しみをもっていく。次に食事について調べると、知らなかった料理や国による食べ方の違いが分かり、さらに興味が湧いて、世界の人たちとの触れ合いが楽しみになるという内容である。また、提示されている遊びや食事だけでなく、スリランカの遊びの様子やカレーの写真を提示しやすい教材である。

<指導観>

児童にとって、身近な遊びをテーマにして、他国と日本について考えることにした。また、教材文に出てくる食事についても、スリランカで食べたカレーについて取り入れ、実体験を交えた話をする中で、児童の興味関心も高まるのではないかと考えた。投影機を使用し、挿絵や写真を提示しながら教材文を読むことで、教材文への理解が容易になるように工夫した。実際に他国の風揚げや独楽の様子、食事が掲載された地図を提示することで、同じように他国を知る楽しさを経験したたけしに共感できるようにしたい。他国の遊びや食事など、文化をよく知ることが、他国への親しみや他国の人々との触れ合いへの意欲につながるということを、身近な経験と結び付けて考えられるようにしたい。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>「池なが先生の夏休み」 対象：2年生、各学級 教科：学級活動 ねらい：スリランカクイズを通して、スリランカの食事や文化について知り、興味をもつことができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みにスリランカに行ったことを伝え、スリランカで見たり、食べたりしたことをクイズ形式で紹介する ・スリランカが世界地図のどこにあるか、日本から何時間かかるかなど、基本的な情報を含め、カレー作りや大使館訪問で起きたハプニングなども伝えた ・ルピーやドルを触ったり、紅茶のパッケージからマークを探したりするなどの活動も取り入れた 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料【資料1】 ・ルピー、ドル ・パスポート ・航空券 ・紅茶
2	<p>「スリランカと日本の関係～外国から見た日本への願い～」 対象：5年生 教科：総合的な学習の時間 ねらい：スリランカと日本の関係を知り、原爆について、外国から見た原爆について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みにスリランカに行ったことを伝え、スリランカで体験したことを短く伝えた ・ジャヤワルダナ元大統領のセンターを訪れ、初めて知った事実を元に、スリランカと日本の関係を伝えた ・原爆の復興に関わった国はスリランカ・ジャヤワルダナ元大統領だけではなく、広島に家を建てることで支援をしたシュモー、医療面で関わったジュノー博士、精神養子運動をしたカズンズを紹介し、外国から見た原爆について考えるきっかけを与えた ・今の自分にできることを考える振り返りの時間を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料 ・ルピー、ドル ・紅茶 ・本
3	<p>「教師海外研修報告」 対象：教職員 ねらい：教師海外研修の目的や研修内容、スリランカで体験したことを紹介することを通して、教師海外研修やスリランカについて理解を深めることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修の概要について話した。どこでこの研修を知ったのか、どんな目的で行われているのか、志望動機などを話した ・スリランカの概要を伝えた。また主な訪問先について、写真を提示しながら感じたことを話した 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料

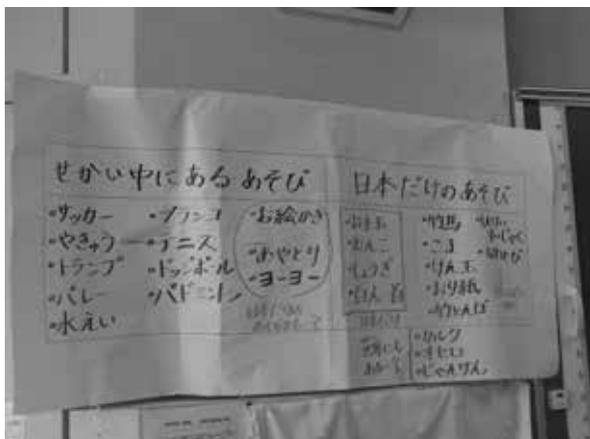
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 1次	「ひろいせかいのたくさんの人たちと」 対象：2年3組（28名） 教科：道徳科 ねらい：ほかの国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに注目して、世界中にある遊びと日本だけにある遊びについて考える ・その中でも、身近にあるじゃんけんや凧揚げ、独楽、折り紙について、世界にもあるかを予想し、世界の遊びに興味をもつきっかけを与えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 【資料2】
4 2次 本時	「ひろいせかいのたくさんの人たちと」 対象：2年3組（28名） 教科：道徳科 主題名：世界のいろいろな国の人たちと（C 国際理解、国際親善） ねらい：世界の遊びや食事のことを知り、オリンピックが楽しみになったたけしの気持ちを話し合うを通して、他の国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中にある遊びと日本だけにある遊びについて振り返る ・「ひろいせかいのたくさんの人たちと」を読む ・世界の遊びについて知ったたけしの気持ちを話し合う ・世界の食事を知ったたけしの気持ちを話し合う ・オリンピックが楽しみなたけしの気持ちについて話し合う ・他の国のことでもっと知りたいことを話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・ワークシート 【資料3】 ・参考資料（じゃんけん学、けん玉学、折り紙、独楽、凧、世界食べ物マップ、たのしいあやとり 初級編）

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中にある遊びと日本だけにある遊びについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に話し合っまとめた表を提示することで、遊びについて振り返ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びをまとめた表
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひろいせかいのたくさんの人たちと」を読む。 ・世界の遊びについて知ったたけしの気持ちを話し合う。 ・世界の食事を知ったたけしの気持ちを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示しながら範読をすることで、具体的なイメージをもって聞くことができるようにする。 ・世界の子どもが自分の知っている遊びをしていることが分かったたけしの気持ちを問うことで、世界を身近に感じることができるようになる。 ・日本、インド、スリランカのカレーの写真を提示することで、比較しやすく、同じカレーでも全く違うことに気づくことができるようにする。 ・世界のいろいろな料理を知ること、食事を通して他の国に興味をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たけしのイラスト ・凧揚げ、独楽、じゃんけんの写真 ・折り紙、かるたなどの遊びの資料 ・カレーの写真 ・フォー、トルティーヤ、エスカルゴ料理の写真 ・世界の食事の本

<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックが楽しみなたけしの気持ちについて話し合う。 ・他の国のことでもっと知りたいことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界では手で食べる人が一番多いことを知ることで、箸を使って食べている自分たちとは違う人が多くいることに気づくことができるようにする。 ・日本と同じようなものがある「遊び」と、知らないこともたくさんあった「食事」の二つを比べているたけしの姿を捉えられるようにする。 ・オリンピックが楽しみになったたけしの気持ちを話し合うことで、世界の遊びや食事について知る楽しさや面白さに共感できるようにする。 ・他の国に対して、知りたいことを考えることで、自分と世界のつながりを感じられることができるようにする。 ・最初の表を見直すことで、世界について知らないことも多くあることに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵
----------------------	---	--	---

【授業実践の様子】



第1次 遊びの分類



世界のじゃんけんをやっている場面

【6】 本時の振り返り

道徳科を通して、他の国の人々や文化に親しもうとする心情を育てることをねらいとして授業を行った。たけしが知ったことを写真とともに分かりやすくまとめられている文章を、児童はとても興味をもって聞いていた。前時に遊びを分類した表を提示しておくことで、たけしが見つけた遊びと予想を比較しながら話を聞いていた。

本を使って、他の国の風揚げや独楽の様子を見せることで、たけしが他の国の遊びを知った喜びや楽しさを児童も味わうことができたと感じた。また、スリランカやインドのカレーを提示し、同じカレーでも具材が違い、食べる方法も違うことに気づき、驚きをもって、知る楽しさを体感しているようだった。

これから、知りたいことややってみたいことを考える時間では、かたつむりを使った料理に驚きながらも、マイナスイメージをもつことなく、他の文化について知りたいという積極的な思いをもたせることができたと感じる。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

<授業後の児童の感想>

- 虫をつかったりょうりを知って、びっくりしました。ほかにも、いろんなものを知りたいです。
- 外国のたこの作り方やかるたのもようがいろいろな物があって楽しそうです。
- 外国には、どんなあそびがあるのかももっと知りたくなりました。
- 世界にいすとりゲームがあるのがいいでした。世界にもいろんなあやとりがあるのがおもしろかったです。
- あいさつについていろいろ知りたいです。
- ふくそうとかじっさいに見てみたい。そして自分がきてみたいです。
- わたしは、日本だけと思っていたあそびが外国にもあることがびっくりしました。どくとくなものをつかってりょうりをしているのがちょっとふしぎでした。
- ほかの国のあそびや食じについて本を読みたいです。

【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

(2年生)

- ・世界の遊びや食事だけでなく、あいさつや服装についても調べてみたいという声が聞かれた。
- ・今までジャンルを問わず本を借りていた児童が世界について書かれている本を借りることが増えた。

(5年生)

- ・ジャヤワルダナ大統領についての本を読み、戦後の日本について自分の意見をまとめていた。
- ・日本を助けてくれた人についてもっと知りたい、また、他の国のことももっと知りたいという感想が多かった。

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

スリランカというと徳山動物園にいる象についてのイメージが強い児童が多くいた。どこにあるのか、暖かいのか寒いのか、ほとんど知識がなかった。日本との交流が少なく、遠く離れた国というイメージをもつ児童が多かった。しかし、途上国というイメージをもつ児童は少なかった。

<授業後>

どの授業を行うときにも、象を紹介することで、周南とスリランカが身近に感じられるという声を多く聞いた。また、戦後のサンフランシスコ平和条約について、ジャヤワルダナ元大統領の演説などを紹介すると、日本とスリランカの関係は初めて認識したという感想も多かった。

2年生の児童は、自分たちの周りにも同じものがあったり、違うものがあったりすることを楽しそうに、興味をもって受け止めていた。途上国や異文化という言葉では認識をせずに、自分を中心として物事を捉えることができていたと思う。

【8】 自己評価

1. 苦労した点

スリランカで感じたことをどのようにして授業にしていくなか苦労した。小学2年生を対象に授業を考えると、教科が限られてくる。また、同学年が多く、同一歩調で日々連携しながら学習指導を進めていく中で、担当の学級のみが特別な学習指導をすることは難しい。どの教科のどの学習内容で授業を行うか考えた末、道徳の教科書に出てくる教材を扱うことにした。

また、自分がスリランカで体験してきたことの中から、何を選択して、授業に取り入れていくか考えた。現地

に行く前に、何を聞いてくるか、どんな写真を撮ってくるかを考えるべきだった。現地の遊びの様子や子どもたちにインタビューをしてくと授業に生かすことができたのではないかと感じる。

2. 改善点

同学年の先生方としっかり相談をした上で、授業実践の内容を考えることが大切であると感じた。その際には、自分の思いや意図をしっかりと伝え、どのように授業を組み立てたいのか、しっかりとした考えが必要になる。

教師海外研修の前後で、開発教育の手法をいくつか学んだが、実際に授業に取り入れることができなかった。低学年の発達段階に応じた手法を自分なりにアレンジして取り組むことが大切だと感じた。

3. 成果が出た点

道徳科を通して、国際理解教育の視点を取り入れた授業を行うことができた。日々の授業の中に国際理解教育の視点を取り入れて教材研究を進めることができれば、教師側は特別な準備をすることなく、小学校低学年でも授業を行うことができるのだと感じる。

小学2年生の発達段階では、自分を中心として遊びや食事について考えることで、少しずつ自分以外の国のこと、人のことについて考えられるようになっていくのだと感じた。また、マイナスイメージを感じることなく世界のことを知っていく楽しさを実感した児童は、これからも様々なことを学び、他の国についても考えられる大人になるのではないかと感じた。

4. 備考

対象とする児童や発達段階、学校環境などによって、よりよい授業実践をすることが可能だと感じている。来年度以降も、国際理解教育の視点をもって授業を組み立て、実践を積んでいきたい。

教師自身が現地に行き、教科書や本では学ぶことのできないことを児童に伝えられることは、自分の武器になると感じた。これからも体験を積み重ね、授業に活かしていきたい。

【参考資料】

- 東京書籍株式会社『新しい道徳2』東京書籍株式会社。
稲葉茂勝（2015）『じゃんけん学』今人舎。
久保田保（2015）『けん玉学』今人舎。
小林一夫（2012）『折り紙』文溪堂。
安藤正樹（2002）『独楽』文溪堂。
茂出木雅章（2002）『凧』文溪堂。
ジュリア・マレルバ（2017）『世界食べ物マップ』河出書房新社。
野口廣（2008）『たのしいあやとり 初級編』土屋書房。

池なが先生の夏休み



～スリランカですごした10日間～

きょうの めあて

スリランカのことを する。
はじめて したことを さいごに聞くよ！
日本や 自分の生活と くらべてみてね。

スリランカはどこにあるでしょう。



- 1
- 2
- 3

せいかいは ①

インドのなみだと
言われる島国

北海道より
少し 小さい島



スリランカには どうやって 行くでしょう。

- ① ひこうき
- ② ふね
- ③ 車



そう！ ひこうき です。

スリランカまで
やく7500キロメートル
やく9時間

スリランカは 今 何時？



日本が お昼の12時 だとしたら...

- ① 朝の 8時30ふん
- ② 日本と同じ 12時
- ③ 14時30ふん

スリランカは 朝の 8時30ふん！
時差(じさ)
・・・時間にちがいがある
スリランカは 日本より
3時間30ふん まえの 時間

スリランカでつかわれているお金は？

- ①ドル
- ②円
- ③ルピー

せいかいは ルピー
ドルはおもにアメリカで
つかわれているお金

じっさいに見てみよう！

スリランカのことばで
「こんにちは」は？

- ①アーユーボワン
- ②ハロー
- ③サワディー

アーユーボワン **ආයුබෝවන්**

スリランカの2つのことば
シンハラ語 タミル語
それをつなぐことば 英語

スリランカのホテルにあったもの…
どうやってつかうでしょう。

- ①フロントにつながる
でんわ
- ②水が出てくるホース
- ③あたたかい風が出るドライヤー



せいかいは…
ドライヤー



スリランカでよく見る
このりものの名前は？

- ①モノレール
- ②トゥクトゥク
- ③バイク



トゥクトゥク
マリオカートみたい



スリランカでまい日 たべたものは？

- ①カレー
- ②バナナ
- ③オムレツ



せいかいはカレー



このカレーを 作っているとき
あるじけんがおこりました。

- ①とうがらしをさわった手で
おでこをさわってヒリヒリした
- ②イカをいためていたら
黒こげになった
- ③オクラをきっていたら
犬に食べられた



せいかいは ①！

とうがらしをきった手で
おでこを
さわったみたいで
おでこがひりひりした。
このあと20ふんくらい つづきました…



スリランカと かんけいがある
のみものはどれ？

- ①コーラ
- ②こう茶
- ③カルピス



せいかいは こう茶！

スリランカでは、こう茶の はが作られてい
ます。
こう茶のはこには
マークがついているよ。
さがしてみてね！



スリランカには いくつの
せかいいさんが あるでしょう。

- ①3こ
- ②8こ
- ③12こ

ちなみに 日本は 22こ

そのうちの2つに行ってきました！

- ①ぶっしじ
(仏歯寺)
- ②シギリヤロック



①ぶっしじ(仏歯寺)
ぶっしじに行くときに、スリランカの人は何色の
のふくをきて行くでしょう。

- ①白
- ②むらさき
- ③赤



白色のふくをきて行きます。



お花をそなえます



ぶっしじの中は
たくさんの人！

②シギリヤロック

むかし このいわの上に
きゆうでんがあったそうです。



シギリヤロックにある はくぶつかんは、
どこの国がたてたでしょう。

- ①アメリカ
- ②日本
- ③中国



そう。日本が たてた はくぶつかん
日本の きょうりよくで
たてられた はくぶつかんが
ありました。



さいごの日の大じけん！！

たいしかんに行きました。
帰るときに大じけんがおきたのです。
それは、どんなじけんでしょう。

- ①バスがうごかなくなった
- ②バスのうんてんしゆがいなくなった
- ③きゆうに大雨がふり、ずぶぬれになった。



バスが うごかなくなりました・・・。



スリランカで10日間すごしてみて…
 ☆日本であたりまえなことが
 スリランカではちがう。
 ☆知らないことをたいけんすること
 はとても楽しい。



【資料2】ワークシート

ひろい せかいの たくさんの 人たちと ～ あそび へん～ 

() ばん 名前()

○せかい中にある あそびと 日本だけの あそびについて 考えよう。

せかい中にある あそび	日本だけ のあそび
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

○みちかにある じゃんけん、たこあげ、こまはどうだろう？

あそび	○、△、×、?	考えやイメージ
じゃんけん		
たこあげ		
こま		



○思ったこと かんじたこと

ひろい せかいの たくさんの 人たちと

() ばん 名前

()

たけしは、なぜオリンピックが楽しみに なったのだろう。



○他の国のことについて知りたいこと、かんそう



あそびについて



食じについて



そのほか

世界の果てまでシッテQ～スリランカ編～

氏名：横矢 清人
 担当教科：全教科
 時間数：10時間

学校名：広島市立落合小学校
 実践教科：総合的な学習の時間
 対象学年：第6学年
 人数：76人（学年）

【1】単元のテーマ・目標

スリランカの文化や人々の暮らし、考えなどに体験的に触れることや、スリランカや日本が抱える問題や課題について考えることを通して、他の国々への興味関心を広げ、自分自身の生活を振り返ったり、世界の国々の問題や課題に目を向け、自分たちにできることを考えたりする態度を養う。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	スリランカに関心を持つとともに、世界の他の国々にも目を向け、自ら調べようとする。
(イ) 思考・判断・表現	経験や知識を生かし、スリランカや日本の抱える問題や課題についてSDGsを用いて考えることができる。
(ウ) 技能	写真や資料から目的に合った情報を取り出すことができる。
(エ) 知識・理解	スリランカの文化や人々の暮らし、考えなどを理解するとともに、スリランカの問題や課題について知る。SDGsの目的や意味について理解することができる。

【3】単元設定の理由

〈児童観〉

本学年の児童は、4月に広島市の取組である「ピースサミット作文2018」を書くために平和学習を行い、活動の中で、平和のためには「お互いの国々を知ること」が大切だと考えた。そこで、本年度の総合的な学習の時間では、「世界の果てまでシッテQ」をテーマに世界の国々について学んでいくこととした。夏休み前までには、自分の調べたい国についてテーマを決めて調べる活動を行っている。しかし、その際はただ自分が興味のあることや楽しそうなことなどを調べるだけで、児童は日本も含め世界の国々が抱えている問題や課題には目を向けられていなかった。

そこで、この「世界の果てまでシッテQ～スリランカ編～」を通して、スリランカや日本が抱える問題や課題について考えさせ、「世界の国々はどうなのか？」という新たな問いを児童の中から引き出し、世界の国々の問題や課題に目を向けさせるきっかけとしていきたい。



総合的な学習の時間オリエンテーションの際に行った外国の遊びを楽しむ様子



自分の調べたい国について、調べる内容をイメージマップを使って決めている様子

〈教材観〉

○「スリランカード」

スリランカードはスリランカに関する資料や写真を4~5枚に分割して、それをランダムに児童に配付する。配られた児童は、同じ資料や写真を持った友達を見つけてグループを作り、1つの資料や写真から気付いたことを出し合い、スリランカの情報や日本とのつながりについて考えていく。

児童の興味関心を高め、活動に意欲的に取り組ませることや教師側から教えてしまいがちな基本的な情報（スリランカは紅茶やカレーが有名、ジャヤワルダナ氏についてなど）を児童から引き出すことのできる、参加型学習に適した教材である。

○「スリランカ体験ツアー」

「食べ物」「生活文化」「スポーツ」の3つのブースでスリランカについて体験的に学ぶための活動である。

「食べ物」ブースでは、紅茶やミルクティーを飲食したり、スリランカのカレーを盛り付け日本のカレーと比較したり、数種類のスパイスを展示して匂いを嗅いだりする活動を行う。また、スリランカの伝統的なお菓子やスリランカ料理には欠かせないココナッツについて説明をする。

「生活文化」ブースでは、クイズラリー形式でスリランカの生活や伝統、言葉などについての17問の問題を解く活動を行う。クイズにはスリランカの地名を記しており、クイズに答えたら「スリランカMAP」にSDGsシールを貼らせるようにする。

「スポーツ」ブースでは、スリランカで有名なクリケットを簡略化して行う。最初にクリケットについての説明をして、投打に分かれて1アウト交代もしくは1ヒット交代で実際に行っていく。

「スリランカ体験ツアー」は、スリランカの文化を五感を使って体験する中で、児童のスリランカに対する関心を高めるとともに、疑問や問題点を引き出すのに適した活動である。

○「SDGsパズル」

世界の国々の問題や課題について書かれた「問題カード」を、対応するSDGsのロゴが書かれた台紙の上に置いていく。すべて正解の場所に置いていけば、ひっくり返したときに日本に関する写真になる。（この2枚の写真は次時の授業で扱う）

「SDGsパズル」は、世界にどのような問題や課題が存在するのかを知るとともに、SDGsの17個の目標を把握するのに適した教材である。



「スリランカード」の写真から気付いたことを話し合う様子



「味わってみよう！食体験」ブース



「解いてみよう！生活クイズ体験」ブース



「やってみよう！スポーツ体験」ブース



「SDGsパズル」を行う様子

○「比較シート／SDGsシール」

「比較シート」はスリランカと日本の抱える問題や課題をまとめ、比べやすくするためのシートである。スリランカ、日本それぞれの問題や課題を学習した後、SDGsの中でその国が達成できていない目標のSDGsシールを貼らせる。

「比較シート」や「SDGsシール」を用いてスリランカ、日本の問題を比べることで、問題や課題を一般化することができ、世界の国々とも比べやすくなる。



児童が書いた「比較シート」

〈指導観〉

本単元は2次に分けて単元構成を考えた。

第一次では、ジャヤワルダナ氏の功績から馴染みのないスリランカと日本の深いつながりについて学習させる。その際、「スリランカード」を用いて児童自らスリランカの特色や日本とのつながりに気付けるようにする。また、ジャヤワルダナ氏について知ったことを学習発表会で発表し、保護者や地域に紹介する機会を作る。

第二次では、スリランカについてさらに知りたいことをグループで交流させ、そこで出てきた「食べ物」「スポーツ」「生活・文化」に関する疑問や興味を「スリランカ体験ツアー」を通して体験させていく。ここでは、スリランカで自分自身が体験してきたことをもとにそれぞれのブースを作るようにする。その際、ICT機器を活用しスリランカで撮影した映像を見ることができるようにして疑似体験させたり、カレーに使われているスパイスを五感で比べたり、ルールを簡略化して「クリケット」を行わせたりする。この体験活動を通して、スリランカの魅力や良さを感じさせるとともに、児童から疑問やスリランカの問題点を引き出していく。次時では、スリランカの問題や課題を写真から考えさせ『SDGs』を用いて整理させていく。同様に、日本の問題や課題についても地域にある店や風景の写真から考えさせ、『SDGs』を用いて整理させていくことで、スリランカと日本を比較しやすくなる。

【4】展開計画（全10時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>『「謎解き！スリランカード」を使って、スリランカについて知ろう』</p> <p>◎スリランカの基本的なことについて知るとともに、ジャヤワルダナ氏のことを通して、日本とスリランカのつながりを知る</p>	<p>(1) スリランカの基本的なことについて知る</p> <p>(2) グループごとに配られた『スリランカード（スリランカに関する写真や資料）』から情報を読み取る</p> <p>(3) 全体交流で、それぞれの『スリランカード』を関連付けて、スリランカと日本のつながりについて考える</p> <p>(4) ジャヤワルダナ氏を紹介し、スリランカと日本の深いつながりを知る</p>	<p>・パワーポイント</p> <p>・『スリランカード』</p>
2	<p>「日本とスリランカのつながりを伝えよう」</p> <p>◎学習発表会で、ジャヤワルダナ氏について学習したことを伝える</p>	<p>(1) 保護者や地域の方々に向けて、総合的な学習の時間で学習したことを発表する</p>	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
3	<p>「スリランカの『〇〇についてもっと知りたい!!』を話し合おう」</p> <p>◎これまで学習したことから、スリランカについてさらに知りたいことを出し合い、交流することができる</p>	<p>(1) 学習発表会で発表したジャヤワルダナ氏について振り返る</p> <p>(2) 付箋紙にスリランカについてさらに知りたいと思うことを個人で書き出す</p> <p>(3) グループごとに交流し、付箋紙を分類整理する</p> <p>(4) 次時の予告を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋 ・台紙 ・ジャヤワルダナ氏の写真
4・5	<p>「スリランカを五感で感じる『体験ツアー』」</p> <p>◎スリランカの文化を体験し、他国の文化の良さや日本との違いに気付くことができる</p>	<p>(1) 学年全体で、ルール説明を聞く</p> <p>(2) グループごとに3つ【食べ物ブース(家庭科室)、スポーツブース(グラウンド)、生活クイズブース(体育館)】の体験を行う。【資料1】</p> <p>(3) 体験を通して感じたことや考えたことをグループや学年全体で交流する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験ツアー ・スリランカ MAP
6・7	<p>「スリランカには、どのような問題や課題があるのだろうか?」</p> <p>◎写真からスリランカの抱える問題や課題に気付き、グループで話し合う中で、その原因について考えることができる</p>	<p>(1) 前時の振り返りから、学習課題を作る</p> <p>(2) 提示された写真【資料2】を5つに分類整理し、タイトルを付ける</p> <p>(3) それぞれの写真について教師からの解説を聞き、5つの問題・課題の原因について考える</p> <p>(4) 全体で交流する</p> <p>(5) 『SDGs』について紹介する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカの写真 ・「SDGs」の説明用パワーポイント ・課題発見シート
8	<p>「SDGsについて詳しく知り、スリランカの問題や課題をまとめよう」</p> <p>◎スリランカの抱える問題や課題を「SDGs」を使って整理し、発展途上国が多くの課題を抱えていることに気付くことができる</p>	<p>(1) 「SDGs パズル」を用いて、SDGsの目標について詳しく知る</p> <p>(2) スリランカの抱える問題課題を「比較シート」にSDGsシールを貼って整理する</p> <p>(3) 振り返りを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較シート ・SDGs パズル
9 本時	<p>「日本にはどのような問題や課題があるのだろうか?」</p> <p>◎日本の抱える課題や問題を「SDGs」を用いて整理し、発展途上国だけでなく先進国にも様々な問題や課題があることに気付くことができる</p>	<p>(1) 写真【資料3】から読み取れる日本の課題についてグループで話し合う</p> <p>(2) 全体で交流する</p> <p>(3) 全体交流で出た考えを整理し、見出しを付ける。</p> <p>(4) 「比較シート」にSDGsを使って日本の問題や課題をまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本(地域など)の写真 ・付箋 ・比較シート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
10	<p>『先進国』と『発展途上国』を比べて、気付いたことを交流しよう</p> <p>◎「SDGs」を使ってスリランカと日本を比べ、先進国・発展途上国どちらにも問題や課題があることに気づき、他の国にも問題や課題があるのか関心を持つ</p>	<p>(1) 個人で考えたスリランカと日本のSDGsの達成状況を班ごとに交流する</p> <p>(2) SDGsでスリランカと日本を比べて気付いたことを書く。</p> <p>(3) 全体交流を行う</p>	・比較シート
次単元	<p>「世界の果てまでシッテQ～世界の国々編～」</p> <p>① 自分が調べていた国について、SDGsの観点から再度調べていく</p> <p>② 世界の国々にはどの国にも問題や課題があることに気づく</p> <p>③ 世界の国々が抱える問題や課題を解決するために、今の自分たちにできることはないかを考える</p> <p>④ 世界の国々が抱える問題や課題を解決するために、ユニセフ募金活動（仮）を行う</p>		

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p>1. 前時の振り返りを行う。</p> <p>2. 本時の学習課題を把握する。</p>	<p>○スリランカにはどのような課題や問題があったかを想起させる。</p> <p>○日本が「先進国」ということを押さえ、日本を先進国の一つとして一般化して考えられるようにする。</p>	・課題発見シート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>日本にはどのような問題や課題があるのだろうか？</p> </div>			
展開 (30分)	<p>3. 写真から読み取れる日本の課題についてグループで話し合う。 〈子どもから出てきた日本の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化社会 ・ 自然災害 ・ 輸入依存、自給率の低下 ・ 二酸化炭素による地球温暖化、 ・ 生活習慣病 ・ 貧困、格差社会 <p>4. 全体で交流する。</p>	<p>○グループごとに違う写真を提示し、話し合わせるようにする。</p> <p>○写真は児童の身近なところを題材に撮り、興味関心を高められるようにする。</p> <p>○課題だと思ったことを付箋に書き出させ、写真に貼らせるようにする。</p> <p>○発表はグループごとではなく、個別に発表させ、意見をつなげられるようにする。</p> <p>○児童から出てきた意見を観点ごとに整理して板書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本（地域など）の写真 ・ 付箋

まとめ (10分)	5. 「比較シート」にSDGsを使って日本の問題や課題をまとめる。 6. 振り返りを行い、次時の予告を聞く。	○問題・課題を出し合ったあと、それぞれの問題の見出しを付けさせるようにする。 ○スリランカのとくと同じように、比較シートに日本の問題や課題をSDGsシールを使ってまとめさせる。 ○次の時間には、これまで書きためた「比較シート」を使って、日本とスリランカを比較することを伝える。	・比較シート ・SDGsシール ・学習の道標～スリランカ編～（振り返り）
------------------	---	--	--

【授業実践の様子】



2枚の写真でフォトランゲージを行い、日本の課題について班で交流している様子



班で話し合った日本の問題や課題について全体交流している様子



板書の様子

【6】 本時の振り返り

前時までに発展途上国であるスリランカの問題や課題について考え、SDGsを用いてまとめる学習を行った。その学習の振り返りから出てきた「先進国である日本はどのようなだろう？」という疑問を解決していくための時間として本時を設定した。

前時にSDGsについて詳しく知る活動を取り入れていたことで、子どもたちは写真から日本の問題や課題をスムーズに考えることができたように思う。また、10枚の身近な地域や風景の写真を使い、日本の抱える問題や課題を見付けさせるようにしたことで、子どもたちは意欲的に考えることができた。本時では写真を各グループに2枚ずつしか配らなかつた。そうすることで、全体交流の際にそれぞれのグループで出てきた意見を比較し、共通点や相違点を見付けようとする姿も見られ、全体交流する必然性が生まれた。これまで他教科で学習したことやニュースなどで取り入れた知識を生かして日本の問題や課題を見付けようとする姿も見られ、教科で身に付けた力を活用することができていた。

ただ、活動内容が多く、時間内に収まりきらなかつたので、活動を精選するか2時間扱いとして設定するなどの工夫が必要であった。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

〈児童の振り返り〉

○第1時

(今日の学習を通して感じたこと・考えたこと)
 ジェニウス・リチャード・ジャヤワルダナさんのおかげで今の日本があることを初めて知りました。こころを素直に人に伝える日本人はほんとに知らず。私と素直に話しかけたので、これから今後はこころを素直に伝えていこうと思います。私も日本を思ってくれた人達と、もっと交流したいです。ジャヤワルダナさんの日本を好きにしてスリランカの人たちも日本を、もっと愛してくれると願って私達もスリランカのことをもっと知る必要があるなと思いました。

(今日の学習を通して感じたこと・考えたこと)
 今日の学習で感じたことは日本にとってスリランカは大切な存在で、それを多くの人に伝えるということです。今の日本は、スリランカがなかったらジャヤワルダナさんがいなければ、いまの生活ができていないかもしれないと、私ほど思いませんでした。ジャヤワルダナさんは、知識の大切さを伝えてくれたので、それを多くの人に伝える意味があると思います。私も、日本を好きになってくれた人に感謝して、今の生活を楽しく過ごしていきたいです。今日の学習を家庭以外におぼえておきたいです。

(今日の学習を通して感じたこと・考えたこと)
 今日の学習を通して私が感じたことはスリランカと日本に意外な関係があることでした。最初に写真を見せられた時は何の関係があるのかわからなかったけれど、他の写真と関係がわかってきました。スリランカにはジェニウス・リチャード・ジャヤワルダナさんが多く日本を愛してくれて、アウラがあったし、すごいと思いました。自分の国のことではなかったけれど、すごいと思いました。このようにして、知らないことを知ることができて、知らない人は少ないけれど、発表を通していろんな人に

(今日の学習を通して感じたこと・考えたこと)
 ジェニウス・リチャード・ジャヤワルダナさんがやったことや、いまの日本があることが分かりました。この人は、日本にきてスリランカのことをも教えてくれた人だと思いました。午後の授業は、とてもいい勉強になりました。スリランカのものと聞いて、びっくりしました。日本とスリランカは、いろんなところ、つながりがあることが分かりました。

「スリランカード」で様々な写真や資料から、スリランカやジャヤワルダナ氏について学習したことで、ジャヤワルダナ氏への感謝の気持ちを述べたり、ジャヤワルダナ氏が日本のためにしたことを伝えていこうとしたりする記述が見られた。また、「スリランカード」での活動を通して、複数の資料を関連付けて考えていく良さを感じる児童も多かった。

○第4・5時

11月15日
 学習課題: スリランカ体験ツアーを五感でスリランカを感じ、スポーツ、食、生活を体験してみよう。伝統があるものや、スリランカ独自の物があることが分かりました。スリランカの人々がどんな風に生活しているのかや、新たな日本とスリランカのつながりを知ることができました。

11月16日
 学習課題: スリランカ体験ツアーを五感でスリランカを感じよう。今回は、今日スリランカについてたくさん知りました。口と耳で感じることもできました。スリランカは、とてもいい国だと思います。スリランカのおみやげ(アウラ)が、とても好きです。今日、いろいろなことを知ることができました。

11月16日
 学習課題: スリランカ体験ツアーを五感でスリランカを感じよう。前より、知ることが増えて疑問に思うことが多くなりました。スリランカの交通の状況について知ることができました。日本とはぜんぜん違うので、びっくりしました。スリランカの文化や生活について、もっと知りたいです。

「スリランカ体験ツアー」を通して、スリランカの良さや新たな日本とのつながりに気付く記述が見られた。また、食べ物ブースや生活文化クイズブースの活動内容から、スリランカの人々の生活における問題点について記述する児童もいた。

○第6・7時

学習課題: スリランカにはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月11日
 スリランカの問題や課題を見て、スリランカは、自分達の昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: スリランカにはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月11日
 スリランカは楽しい国、良い国だと感じました。しかし、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。また、スリランカは、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。また、スリランカは、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。

学習課題: スリランカにはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月11日
 スリランカは、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: スリランカにはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月11日
 スリランカには、楽しい国、良い国だと感じました。しかし、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。また、スリランカは、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。また、スリランカは、大げさな国、川が干涸び、十分な問題や課題もあることがわかりました。

スリランカという国に対する考え方が「楽しい国」「面白そうな国」から「多くの問題や課題を抱えている国」へと変容している記述が多く見られた。また、スリランカの将来を心配し「このまま生きていくと先はもっとひどいことが待っている」と考え、持続可能な社会の必要性を感じている児童もいた。

○第8時

学習課題: SDGsについて詳しく知ろう
 12月12日
 今日の学習では、SDGsについて詳しく知ろう。スリランカは、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: SDGsについて詳しく知ろう。
 12月12日
 スリランカの問題や課題にルールを付けて、スリランカは、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: SDGsについて詳しく知ろう
 12月12日
 SDGsについて詳しく知ろう。スリランカは、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: SDGsについて詳しく知ろう。
 12月12日
 今回、スリランカが発展途上国だということを知り、すごい事、裏には課題もある、世界中の問題となってしまう、苦しむ人の人数が多すぎておどろきました。自分なりにできることは、

学習課題: SDGsについて詳しく知ろう
 12月12日
 今日の学習でSDGsについて詳しく知ろう。スリランカは、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

スリランカの問題や課題についてSDGsを使ってまとめたことで、「日本はどのようなだろうか?」という疑問が生まれ、次時の学習への意欲が高まっている様子が見られた。

○第9時(本時)

学習課題: 日本にはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月13日
 今回の学習で、日本は、世界の国々の中で、日本は、昔からの伝統を大事にして、マナーがよくなるのがあると思われ、何はいいものも多く食べる習慣が、これは自分達の「考え方、自分達の宗教を大事にしてきた内政が、

学習課題: 日本にはどのような問題や課題があるのだろうか?
 12月13日
 先進国の日本でも問題や課題はあり、世界中の問題となってしまう、苦しむ人の人数が多すぎておどろきました。自分なりにできることは、

～単元を振り返って～

発展途上国と先進国の課題はとてなっていました。スリランカも日本も環境汚染のところがよく出てきた。特にスリランカの課題が改善していくのはとても大切だと思いました。スリランカの課題は多くの人に関心するところだと思いました。スリランカについて知らないことも多かったです。今ではスリランカに興味が出てきてこれからスリランカについてよく知りたいです。

～単元を振り返って～

私は最初 スリランカには問題や課題がないかと思っていました。でも調べていく中でSDGsを知っていろいろな面から見ることができ、問題や課題を見つけていくことができました。さらに日本を調べていくと、問題や課題は見つけてはいるけれど、休んでいる所もあってスリランカと日本は深々つながっているのがよく分かりました。ほかの国もSDGsのあたりはよく知ることができるといいと思います。

スリランカの体験的な活動で日本との意外なつながりや日本とは異なる文化に触れたことで、スリランカという国を身近に感じ、親しみや関心を持っている記述が多く見られた。また、スリランカの抱える問題や課題を日本の問題や課題と比較し、共通した問題や課題を抱えていることに気付いている児童もいた。「スリランカ体験ツアー」を通して、スリランカの文化の良さや楽しさを感じた児童は、単元の学習からスリランカの負の側面（問題や課題）にも目を向けるようになった。

～単元を振り返って～

私が一番最初にスリランカのことを聞いた時に、それは？と不思議に思いました。スリランカについて勉強して行くと思ったことはわかりました。もちろん、問題や課題がたくさんあります。SDGsも見えてきたのは、あるものもあれば、ないものもあるという面もありました。日本とスリランカの間隔をこわくなくないので、これからは日本とスリランカの間隔を近づけていけるようにしたいです。

～単元を振り返って～

僕はスリランカのことを知ったのは10月5日のころで、スリランカのことを日本と分けて知ることができた。日本とスリランカの間隔を近づけていけるようにしたいです。SDGsも見えてきたのは、あるものもあれば、ないものもあるという面もありました。日本とスリランカの間隔をこわくなくないので、これからは日本とスリランカの間隔を近づけていけるようにしたいです。

～単元を振り返って～

この単元を振り返って、スリランカ、日本以外の国にもSDGsは必要になることは分かりました。例えば、中国ではたいていの工場が排出している気体動機に見受けられる対策が必要ではあるから、SDGsは世界にもっと必要というところを知りました。日本、スリランカ以外の国もSDGsを必要とします。

～単元を振り返って～

スリランカと日本の深いつながりを感じ、その関わりがある事が分かりました。スリランカは楽しいこともあったけど、初歩には課題もあっておどろきました。また、SDGsではいろいろな問題を日本とスリランカで見えてきました。スリランカを休んでいる日本の人は多くはないので、日本は休んでいるけれど、世界の問題を少しでも早く改善できるようにしたいです。

スリランカの問題や課題に注目し、スリランカのためにできることを考えている児童が見られた。また、「SDGs」が世界の国々にとって必要なものであるということを感じ、他の国々の問題や課題についても調べようとする記述が見られた。

～単元を振り返って～

スリランカ編で一番印象に残っていることはスリランカ体験ツアーで、楽しいことはわかりました。問題や課題があることにおどろいたことです。SDGsのシールは世界に関わることで、この国にも当てはまることになりました。地球温暖化で動物が生きにくい。日本は食べ物もいっしょに食べられるけど、食べられない動物もあるのだから、SDGsを必要とします。

スリランカや日本の抱える問題や課題に触れる中で、自分自身の生活の仕方や日本の在り方について考えている児童もいた。「SDGs」を用いたことで、スリランカや日本だけでなく世界の国々にも多くの問題や課題があるのではないかと考え、世界の国々に目を向けようとしている様子が見られた。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

「SDGs」をどのように学習に取り込んでいくかが一番難しく悩んだところであった。また、「SDGs」自体の捉えが難しいため、子どもたちにどのように教え理解させていけばいいのか、その指導の工夫に苦勞した。どうしてもそれぞれの国の問題や課題に目を向けると「発展途上国<先進国」という固定観念を生み出しかねないと考えたので、単元の前半ではスリランカの良さや面白さを味わえる体験的な活動を取り入れ、後半では、先進国にも多くの問題や課題があるということを抑えられるように「SDGs」を日本との比較の中で活用するようにした。しかし、そのような単元の流れにしたことで、1時間当たりの活動が増え、結果的に単元全体での授業時数が多くなってしまった。

2. 改善点

- ・1時間当たりの活動量が多く、時間内に収まりきれないこともあったので、もう少し長いスパンで計画的に指導計画を立てていく必要がある。
- ・今回はSDGsをスリランカの問題や課題について学習した後に紹介したが、単元序盤でSDGsを扱うことで、問題や課題に目が向きやすくなり、スリランカの写真をを使ったフォトランゲージでさらに多くの意見が出るようになると思う。
- ・第10時の際に、「発展途上国（スリランカ）より先進国（日本）の方が問題や課題が多い」と考える児童がいたので、比較シートに貼らせたSDGsシールについて全体交流で十分に検討させる必要があった。
- ・第10時のまとめの際に、児童の意見を引き出し、「この単元で出てきたそれぞれの国の問題や課題はその国の問題や課題のごく一部である」ということをしっかりと押さえるべきだった。

3. 成果が出た点

スリランカ、日本の問題や課題をSDGsを使ってまとめたことで、児童が自然な流れで「世界の国々にはどんな問題や課題があるのだろうか」と考えさせることができたことは大きな成果だった。

また、単元の流れの中では扱いにくかった「ジャヤワルダナ氏」については単元の導入として活用したことで、児童が日本とスリランカのつながりについて驚きを持って学習することができ、そのことが以降の学習への意欲へとつながった。

何より単元を通して学力的に低位の児童が意欲的に学習に取り組む様子が見られたことは一番の成果だった。本単元で行った、『必要な情報を写真や資料から読み取り、そこから自分の考えをもち交流する』という流れは、これまでの各教科で培った力を活かすだけでなく、今後の他教科での学習にも生かさせるにちがいない。

ハンバントタ

スリランカの人々に一番人気のあるスポーツは何でしょう？

①サッカー
②バレーボール
③クリケット

答え：③クリケット

スリランカでは、クリケットが一番人気のスポーツになっています。世界中で有名なスポーツでも、スリランカの人々よりも、クリケットをやっている人のほうが多く、サッカーに比べてその数倍の観衆がいます。そのため、試合観戦のチケットは非常に高く、試合当日は非常に賑わっています。また、クリケットはスリランカの国技とされています。



ハバラナ

スリランカの人々が毎日食べているものは何でしょう？

①カレー
②ハンバーガー
③お好み焼

答え：①カレー

日本人が好んで食べているように、スリランカでも、カレーは毎日の食生活に欠かせない料理です。日本のカレーとは違い、サラサラしていて、とにかく辛いのが特徴です。日本のカレーのように、カレーライスやカレーうどんなど、カレーを主食として食べる習慣はありません。カレーは、スリランカの食文化の中心にあり、毎日の食生活に欠かせない料理です。



ゴール

スリランカで一番見かける自動車はどこの国の車でしょう？

①日本
②イギリス
③アメリカ

答え：①日本

スリランカでは、日本製の自動車が多く見られます。その理由は、日本の自動車は比較的安く、壊れにくいからです。また、スリランカでは、日本の自動車は非常に人気があります。そのため、日本製の自動車はスリランカの主要な輸出品の一つとなっています。



シーギヤ

露店などで売られている菓物を食べた後に出たゴミや皮は、現地の人々はどのように処理しますか？

①決められたゴミ箱に入れる
②もったいないので全て食べる
③そこら辺に捨てる

答え：③そこら辺に捨てる

スリランカでは、露店などで売られている菓物の皮やゴミは、多くがそのまま捨てられています。これは、スリランカでは、ゴミの分別や回収が十分にできていないからです。そのため、ゴミの処理は大きな課題となっています。



マータレー

日本とスリランカのつながりに深く関係しているものはどれでしょう？

①ちりとり
②竹ぼうき
③たわし

答え：③たわし

スリランカにはココナツが多く産出されており、ココナツの殻からココナツの殻の繊維を抽出して、たわしを作ります。これは、スリランカの伝統的な工芸品の一つです。また、ココナツの殻は、さまざまな用途で使われています。



シンハラジャ森林保護区

スリランカの人々は食事をする際、何を使って食べ物を食べるのでしょうか？

①はし
②スプーンやフォーク、ナイフ
③箸

答え：③箸

スリランカの人々は食事をする際、スプーンやフォーク、ナイフを使わずに箸を使います。これは、スリランカでは、箸が伝統的な食器だからです。また、箸は、スリランカの文化の一部として大切にされています。



ボロナル7

スリランカの初等教育（日本の小学校）では、日本にはない教科を勉強します。何でしょう？

①パソコン操作についての教科
②果物や動物についての教科
③宗教についての教科

答え：③宗教についての教科

スリランカの初等教育では、「宗教」という教科があります。これは、スリランカの多様な宗教文化を学ぶための教科です。また、宗教の歴史や教義についても学びます。



キャンデー

スリランカで横矢先生が遊ばだでばったり出会った野生の動物は何でしょう？

①サル
②ゾウ
③くじゃく

答え：①のサル

スリランカでは、野生の動物が多く見られます。その中でも、サルは非常に身近な動物です。また、サルは、スリランカの自然環境の一部として大切にされています。



【資料2】6・7時で使用したスリランカに関する写真





【資料3】第9時で使用した日本の写真



授業実践報告

世界で見つけよう! ①だんの②らしを③あわせに

氏 名 : 谷岡 明日美
担当教科 : 英語
時 間 数 : 4時間

学 校 名 : 新見市立新見第一中学校
実践教科 : 英語・総合的な学習の時間
対象学年 : 中学1年生
人 数 : 120名 (4クラス)

【1】単元のテーマ・目標

異国の文化や生活を知り、広い世界に目を向ける。また、世界で働く日本人についての学習を深めることで、スリランカの福祉の現状や日本の生活との違いを知り、「持続可能な世界」を築くために、身近なところから改善できることについて考える。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	課題に興味をもち、積極的に取り組むことができる。
(イ) 思考・判断・表現	青年海外協力隊員の活動を知り、「持続可能な開発目標」の視点から、自分の生活について考えることができる。
(ウ) 技能	話し合い活動を通して協働学習を活発に進めることができる。
(エ) 知識・理解	スリランカの文化や歴史、日本とのつながりについて知る。「持続可能な開発目標」について知る。

【3】単元設定の理由

<生徒観>

小学校の頃から自分の意見を発表する経験を積んできており、自分の考えを友達に伝えることや友達の意見を真剣に聞くことに意欲的に取り組むことができる。小学校の英語の授業でALTと積極的に活動し、アメリカやカナダなどのALTの出身国やテレビで見る機会の多い国についての知識はいくらかあるが、それ以外の国について知る機会が少ないと考える。

<教材観>

1年生の総合的な学習の時間では、「福祉」をテーマに学習しており、この授業の1ヶ月前には生徒が新見市内の様々な事業所へ校外学習に出かけ、身近な福祉について学習してきた。「福祉」という言葉の定義が中学校1年生には難しいため、授業では「福祉＝普通の・暮らしを・幸せにすること」と定義した。今回の授業では、校外学習で学んだ新見市の福祉と、スリランカでの福祉を比較しながら考えさせたい。また、「持続可能な開発目標」について知ることで、自分自身ができることについても考える態度を養いたい。

<指導観>

教師海外研修で出会った青年海外協力隊員の活動の尊さ、活動への熱い思いを伝えたい。そして、その活動がスリランカの様々な人達の普通の暮らしを幸せにすることとつながっていることを実感させたいと思った。少子高齢化の進む新見市を支える生徒たちが、世界の福祉や持続可能な開発目標を知ることによって、将来、多くの人、企業、国とのパートナーシップを結んでより良い開発を産み出す主役として育っていく力にしてほしい。

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		<div data-bbox="651 192 1091 519" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スリランカは日本の最初の友達！</p> <p>1951年サンフランシスコ平和会議</p>  <p>スリランカ ジャヤワルダナ大統領</p> </div> <p style="text-align: center;">ジャヤワルダナ氏の紹介</p> <div data-bbox="651 595 1091 922" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スリランカの学校で見つけた日本！</p> <p><5S></p> <p>Seiri …整理 Seiton…整頓 Seisou…清掃 Seiketsu…清潔 Shitsuke…しつけ</p>  </div> <p style="text-align: center;">5Sについて</p>	
3 総合	<p>「世界を通して考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発途上国について知り、問題点を考える ・持続可能な開発目標について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA のウェブサイトから、開発途上国について知る ・ スリランカの市場の写真とスリランカのスーパーマーケットの写真比べて、それぞれの問題点を考える ・ 「持続可能な開発目標」が定められていることを知る ・ 絵と説明のカードを組み合わせて、「持続可能な開発目標」の内容を知る <div data-bbox="651 1388 1091 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Q. これらの写真からわかること・考えられる問題点をまとめましょう。</p>  </div> <p style="text-align: center;">スーパーマーケットと市場の様子</p> <div data-bbox="628 1720 1114 1904" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #ccc; padding: 5px; text-align: center; width: 40px; height: 40px; margin-right: 10px;">6</div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>清潔な水と衛生を！</p> <p>水と衛生的な環境を管理して、誰もが衛生的な環境を得られるようにしたい。また、水の使い方に関する知識を広め、再利用を進めます。</p> </div> </div> </div> <p style="text-align: center;">SDGs 絵カードと説明カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライド資料 ・ JICA のウェブサイト ・ ワークシート【資料1】 ・ SDGs 絵カードと説明カード

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 総合 本時	「世界の福祉～世界で働く日本人から学ぼう～」 ・青年海外協力隊員の活動を知り、福祉の現状を知る ・自分たちの生活をSDGsの視点で振り返る	・スリランカで働く青年海外協力隊員とNGOの活動を紹介する文章を読んで、内容とつながる写真を組み合わせる ・青年海外協力隊員たちの活動が、SDGsのどの目標と関わっているか話し合い、意見を発表する ・13歳の中学生ができることを考える	・スライド資料【資料2】 ・青年海外協力隊員の写真と紹介文 ・SDGsカード ・ワークシート【資料3】

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	(1) SDGsを復習する。	・SDGsは2030年までに世界が協力して目指すゴールで、生活の中の様々な分野と関連していることを振り返る。	・スライド資料
(5分)	(2) 世界の福祉について学習することを学ぶ。	・福祉の定義を復習することで、青年海外協力隊員の活動がスリランカの人々の生活に深く関わることに気づかせる。	・スライド資料
展開	(3) スリランカで働く日本人について知る。	・青年海外協力隊のイメージを共有する。 ・スリランカで働く青年海外協力隊員とNGOを紹介する文章と写真を組み合わせることで、イメージをつかむ助けとする。	・青年海外協力隊員の写真と紹介文
(35分)	(4) 青年海外協力隊員たちの活動が、SDGsのどの目標と関わっているか話し合う。	・カードと照らし合わせながら話し合うことで、他の班の意見と比較しやすくする。 ・SDGsの各目標の内容を振り返ることができるよう、カードの裏面には説明を載せる。	・SDGsカード ・ワークシート
	(5) 話し合った内容を班ごとに発表し、他の班の意見と比べる。	・発表する班は、選んだ理由を述べ、異なる意見がある班は理由を含めて意見を発表させることで、思考の過程や目標ごとの関わりを聞く側の生徒に紹介する。 ・様々な考え方があり、決まった正解はない問いなので、自分達の班の意見と異なる場合は、特に真剣に意見を聞くよう促す。 ・発表で出た目標の番号を黒板に書き、生徒に分かりやすく整理する。	

<p>まとめ</p> <p>(10分)</p>	<p>(6) 世界で働く日本人の活動とSDGsの関わりを学んで、現在13歳の中学生にできることを考える。</p> <p>(7) 自分達にできることを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊員のように海外に出て行って活動することはできなくても、身近な生活の中でできることはないかと助言する。 ・自分と異なる意見から新たな発見があることを助言し、真剣に伝え合い、聞き合う雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
-------------------------	---	---	---

【授業実践の様子】



導入部分



青年海外協力隊員の活動紹介



青年海外協力隊員と活動の組み合わせ



話し合い活動①



話し合い活動②



ワークシートの提示

【6】 本時の振り返り

総合的な学習の時間に行っている福祉の学習とつなげて実践授業をしたことで、生徒にとっても深く考えることができたと思う。青年海外協力隊員の活動を文章にして写真と合わせながら読むことで、クラス全体が自発的に取り組み、活動の苦労や活動する中で大切にしている部分をより深く伝えることができた。SDGsのカードを利用することで、様々な意見を出すことができた。生徒が自分の意見を伝える姿からは、未来を生きるひとりとして真剣に向き合おうとする気持ちを感じられ、頼もしく思った。活動を精選し、数を少なめに設定したことで、話し合い活動と意見発表の時間を十分にとることができた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

<授業後の生徒の感想より>

- ・最初、スリランカは豊かな国だと思っていたけれど、勉強したらまだまだ課題があり、自分達も支援をしたいと思った。スリランカ以外の国でも、このような課題のある国があるから大切にしたい。
- ・青年海外協力隊などの取り組みで、世界の国々を助けている日本人がたくさんいるとわかった。
- ・今までの学習から、改めて青年海外協力隊はすごいなと思った。なぜなら、日本から遠い土地でみんなのために頑張ってくれているから。僕も何か協力したい。
- ・ひとりひとりの人権を大切にすることや環境を守ることの大切さが改めてわかった。
- ・SDGsを全部達成するのは難しいが、それに役立つことをしようと思う。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

<「13歳の私たちにできることは何かがあるか」の生徒記述より>

今の生活を大切にする・自然からの資源を大切にする・ゴミを分別して捨てる・募金をする・給食を残さず食べる・着なくなった服をリサイクルするプロジェクトに参加する・ゴミの量を減らす・たくさん食べられることに感謝して、好き嫌いしないで食べる・無駄な物は買わない・色々な国を理解して、福祉がすすめられるようにする・仲がいい、悪いに関わらず、困っている人がいたら助け合う・青年海外協力隊やピースウィンズジャパンという人達がいることを伝えていく・SDGsを知らない人に伝えて、知ってもらい、理解してもらう

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

1年生の各クラスで「将来海外を訪れてみたいと思いますか」というアンケートを行ったところ、「訪れてみ

たい」と解答した生徒は約60%、「訪れたいと思わない」と解答した生徒が約40%あった。「訪れたいと思わない」と解答した生徒の理由は、海外は治安が悪いから、言葉が通じないから、日本だけでも楽しいことはたくさんあるからというものだった。スリランカという国の名前を聞いたことがあるという生徒も少なく、名前を知っていたとしても、どんな国なのかよく知らない生徒が多かった。

<授業後>

最初は食生活や文字の違いにとっても興味をもち、知らないことを知る楽しさから生き生きと授業を受けていた。3回の学習を通して、単に異文化を知るというだけでなく、その地で熱意をもって活動する青年海外協力隊を知ったり、SDGsを通して世界の福祉について深く学んだりする中で、ただ新しく知ることを楽しむだけでなく、日本や世界の課題に対して真剣に考える姿が見られ、授業者としてもうれしい驚きであった。

<生徒の感想から>

- ・この授業を通して、世界では貧富の差がとても大きいと改めて感じた。
- ・SDGsを一生懸命伝えても、実際に行動しようとする人はわずかなのではないかと思う。きっと自分には関係ないからと言って忘れる人もいると思う。それでも必死に伝えるということは、それだけ大切なことなんだなと思った。
- ・日本のように豊かな暮らしができる場所もあれば、世界にはみんなが平等に暮らせない場所もあると知った。SDGsをすすめていくことで、それが少しでも解決できるというのが分かり易くていいと思った。
- ・（今回取り上げた）3人の方みたいに、実際に外国へ行ってその国の人のために活躍している人が少しずつ増えていけばいいと思った。私も実際に外国へ行き、現状を人々に伝えていくことをしてみたい。

【8】自己評価

1. 苦労した点

- ・実際に現場を見てきた者として、伝えたいことや話したいことがたくさんあったが、それを単元として必要な物を精選して学習活動に組み込むということに苦労した。
- ・事前、事後研修で開発教育について勉強してきたが、学習者が当事者としてどう生きるかを考えることがゴールだと教わったので、そこにたどり着く授業にするためにはどういう展開が必要かを考えることが難しかった。
- ・今後の授業にどうつなげるのかを考えて実践することが大切である。3回の授業だけで終わってしまうのでは、SDGsも忘れ去られてしまうので、少しずつでもSDGsの観点に立ち戻りながらできることを考える必要がある。

2. 改善点

- ・授業の中でもっと強調すべきだったと思うことは、「私が見てきたことが全てではない」ということである。青年海外協力隊員の活動やスリランカの現状を主観だけで伝えてしまうことがあったのではないかと振り返り、反省する。

3. 成果が出た点

- ・SDGsを伝えたい思いがあったので、この活動を取り入れることができたのは良かったと思う。今後、自分でも開発教育についてさらに勉強し、様々な観点でSDGsに触れながら学習をすすめていきたい。
- ・生徒が真剣に考える姿や素直な感想から、広い世界の出来事を少しでも身近に感じて、将来の生き方の選択肢を広げるきっかけになったのではないかと思う。

4. 備考

事前・事後の研修を含め、この教師海外研修は私にとってとても勉強になるものであった。日々の仕事に追われるだけで終わってしまうのではなく、今後、教師として何を伝えていきたいのかを改めて考える機会になった。スリランカで出会った皆さん、研修でお世話になった方々、JICAの皆さん、教師海外研修の仲間、授業から再び深く考えるきっかけをくれた1年生、快く送り出して下さった新見第一中学校の先生方には感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

【参考資料】

<書籍>

- ・「未来を変える目標 SDG s アイデアブック」一般社団法人 Think the Earth・紀伊國屋書店（2018）
- ・「SDG s 国連世界の未来を変えるための17の目標 2030年までのゴール」日能研・みくに出版（2017）
- ・「地球の歩き方 スリランカ2018~2019」地球の歩き方編集室・ダイヤモンド・ビッグ社（2017）

<Webサイト>

- ・「どうなってるの？世界と日本」JICA
https://www.jica.go.jp/aboutoda/interdependence/child_world/index.html

ワークシート

Q. 2つの写真を見て、わかること・考えられる問題点を書きましょう。

①の写真

②の写真

Q. 今日の学習で新しく知ったことはどんなことですか。

Q. 今日の活動から感じたことや考えたことを書きましょう

学習日： 月 日 氏名 _____



「持続可能な開発」とは？

- ・ 将来の世代のため、環境や資源を壊さずに、今の生活をより良い状態にすること
- ・ 世界が共に成長し、他者を思いやり、環境を大切にしている取り組み



世界のふ・く・し

世界で働く日本人から学ぼう

「福祉」とは

ふ だんの
く らしを
し あわせに



私は知的障がいのある女性が暮らし施設で支援員として働いています。

ここには大人から子供まで75人の入居者がいます。

スリランカでは、まだまだ障がいに対する理解が進んでいません。障がいのある子供はなかなか学校に通うことができません。彼女たちが社会に出るには、メイドとして働くか、お嫁に行くという選択校しか考えられないのが現状です。

彼女たちの中には、マット作りや刺しゅうの訓練をしている人がいます。作成したマットや刺しゅうは、地域のお店で売って、彼女たちの必要なお金にする活動を進めています。

職業に就くための技術を習得したり、衛生面に関する知識を得られるように日々支援しています。

障がいに対する偏見や理解を劇的に変化させるのは難しいことですが、少しずつでも彼女たちが暮らしやすくなるために声をあげることで、環境も変わっていくのだと信じて活動しています。

ピースウィンズ ジャパン 佐藤さん



私は内戦のあった地域を復興させる活動をしています。スリランカでは2009年まで内戦があり、その被害で壊滅した街もあります。その街に再び人が住めるようにするためには、仕事が必要です。

この地域では牛乳や水牛のミルクを売る仕事をしているのですが、牛乳を売るだけでは利益は多くありません。牛乳を加工する技術を伝えてミルクトフィというお菓子を作ることで、売り上げを上げる工夫をしています。

地域の人と一緒に農業用のため池を作ったり井戸の修理もします。そこで大切なのは、何でも日本人が支援としてやってしまうのではなく、地域の人々と一緒にやるということです。地域の人々の手を借りて作ることで、もし壊れてしまっても彼らで修理ができるし、「自分たちの池」という意識が芽生え、大切に使うことができます。

私たちがここからいなくなっても、地域の人々の力でやっていけることを残すことが大切です。

青年海外協力隊 金地隊員



私はコロンボ近郊のごみ処理場で働いています。ここには毎日多くのゴミが運ばれてきます。この処理場は運んできたゴミを焼却処理していますが、それでは間に合わないくらいのゴミの量で、この周りは焼却処理を待つゴミの山だらけになっています。

以前、別の処理場では積み上げたゴミがなだれを起こして崩れ、地域の住民の方が亡くなるという被害がありました。積み上げた山からは、汚染水が流れ出し、地域の人が使う川に流れ込むこともあります。

私はここで、①ゴミの分別率をあげる ②生ゴミから肥料づくりをするという環境改善プログラムに取り組んでいます。生ゴミから作った肥料をスリランカの農業で使うことが普及してほしいと考えて活動しています。

私一人で行うのではなく、スリランカ人の職員さんと一緒に活動します。自分の思いがなかなか伝わらず、苦労することもあります。将来的には、スリランカの人たちでこの活動を行っていき、地域に根付いてくれるようになれば良いと思います。

Q. 彼らの活動は、SDGsの目標の、どれと関連しているのでしょうか。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Q. 今、13歳の私たちにできることは何があるのでしょうか。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ワークシート

Q彼らの活動は、SDGsのゴールのどれと関連しているでしょうか。○をつけましょう。

① 尾崎隊員の活動



② 佐藤さんの活動



③ 金地隊員の活動



Q. 13歳の私たちにできることは、何があるでしょうか。

.....

.....

.....

Q. 今日の活動や、今までの学習から感じたことや考えたことを書きましょう

.....

.....

.....

学習日： 月 日 氏名 _____

世界の ③だんの くらしを しあわせに
のために働く日本人から考えよう!

この活動に関わる SDGs: [Icons]

授業の中で1年生の みんなが考えたSDGsです。

この活動に関わる SDGs: [Icons]

この活動に関わる SDGs: [Icons]

この活動に関わる SDGs: [Icons]

知ってる? SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「持続可能な開発」とは?

- 将来の世代のため、環境や資源を大切に、今の生活をより良い発展させること
- 世界の共に成長し、誰もが豊かになり、地球や大気や水も持続可能を行うこと

13歳の私たちにできることは、何があるでしょうか。

1年生のみんなから出た意見をまとめました。

この学習を通して考えたこと

未来を担う私たちにできることは何か、みんなの感想から深く考えさせられました。

- 日本には豊かすぎるからSDGsの目標は、平均がSDGsの目標と比べて知りません。貧困削減が重要だと感じました。日本や海外でみんなのために頑張っているのを応援して、みんなに協力してほしいと思います。
- 私たちが海外へ行く、現地の人々には敬意を払って接していきたいです。
- 自分が海外に行く時はSDGsの目標を思い出して、日本でもっと探していきたいです。みんながみんなの目標を達成するために、みんなと一緒に頑張りたいです。みんなの目標を達成したいです。
- SDGsは世界を豊かにする目標があることがわかりました。他の国では、みんなが豊かになるのを目標に頑張りたいです。みんなと一緒に頑張りたいです。
- 貧困削減の目標は、貧困をなくすこと、SDGsの目標を達成したいです。

スリランカから学ぶ

氏 名：中下 杏美
担当教科：保健体育・道徳
時 間 数：2時間

学 校 名：尾道市立日比崎中学校
実践教科：道徳
対象学年：中学校第2学年
人 数：36～110名

【1】単元のテーマ・目標

- スリランカと日本の繋がりを知り、ジャヤワルダナ氏の演説から国際理解を深め、国際貢献や平和について考えることは大切だという心情を育てる。
- スリランカで働く人の勤労観を通して、社会で貢献することを自覚し、将来の生き方について考えることは大切だという心情を育てる。
- スリランカで働く人の考えを通して、世界の中の日本人として自覚を深め、国際的視野に立って働くことは大切であるという心情を育てる。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	
(イ) 思考・判断・表現	
(ウ) 技能	
(エ) 知識・理解	

【3】単元設定の理由

<主題観・価値観>

勤労は人間生活を成立させる基本的な用件であり、一人一人がその尊さやその意義を理解し、公共の福祉と社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。勤労には自らの目的を実現するために働くという面もあるが、職業のように、個人の生活を維持し、自分の幸福を追求するためと同時に、社会的分業によって社会を大きく支えている面もあり、共に重要である。勤労や奉仕を通じて社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことともある。

急速に国際化が進む現代において、日本人としてだけでなく、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚をしっかりと保つことが必要になってくる。中学生になると、これまで以上に世界の様々な国々に対する興味・関心が高まっていく時期でもある。また、情報社会のなかで諸外国に対してのできごとや情報についても多くの知識を得ている。このような時期に、世界の人々とかかわり、異文化への理解を深める機会を得ることは大切なことである。今後ますます国際的な相互依存関係を深めていく社会の中で生きてく中学生にとって、国際的な視野と国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要になる。

<生徒観>

【ジャヤワルダナ氏から学ぶ】

本学年の生徒は、人の話をよく聞き行動できる学年である。しかし、自ら意見を述べたり積極性に欠ける部分がある。道徳の授業に関しては、通常学級単位で行っており、学年全員での道徳は中学校入学以来初めて

である。

また、平和教育に関しては毎年継続的に行なっている。しかし、スリランカのジャヤワルダナ氏のことを学習するのは初めてである。

【スリランカで働く日本人から学ぶ】

本学級の生徒は、とても活発で普通の道徳の授業においても活発に意見を述べるができる。しかし、自分本位な面もあり、相手の気持ちを考えていない発言や、行動にメリハリのない部分もある。

働く事に関しては、1学期に行った職業調べの時間に「将来何になりたいか分からない」「将来の夢がない」「とりあえず高校には行くけど、将来何がしたいか分からない」などの思いがある生徒が数人いた。また、働くことに関するアンケートでは、働くことへのイメージに対して「大変」「お金がもらえる」「生きるためには必要」などの考えが多くある中、「大変だけど楽しそう」「辛いことや苦しいこともあるけど、乗り越えたらいいことがありそう」などの考えもあった。生徒は、将来働くことは当然のことだけど、肯定的なイメージをもった生徒は少なかった。

<資料観・指導観>

【ジャヤワルダナ氏から学ぶ】

ジャヤワルダナ氏が第二次世界大戦後のサンフランシスコ講和会議の演説で述べた「憎悪は憎悪にして止まず、愛によってのみ止む」という言葉がある。その中の「愛」という言葉を取り上げ、平和について考えるきっかけにする。この資料を取り上げる上では戦争のこと・宗教のことなど様々な条件がある。日本が第二次世界大戦中に犯した過ちはこれまでの既習事項とし、ジャヤワルダナ氏が平和を望んで訴えた「愛」という言葉を重点的に取り上げる。

私を含め本学年の生徒や広島で学んだ子どもたちは平和教育についてもある程度のことは学んで来たつもりであった。しかし、今回の教師海外研修に参加するまでジャヤワルダナ元大統領のことを知らなかったのである。今日の日本が今のこの日本であるために大きな影響を及ぼした人物である。日本人として知らなければならないと同時に、これからの未来を担う中学生に必ず知っておいてほしいと思う。

【スリランカで働く日本人から学ぶ】

スリランカで働く日本人の「海外で働こうとおもったきっかけ」「楽しいと感じるとき」「辛いことや苦勞」から、その人達の勤勞観について考える。また、登場する日本人の多くは青年海外協力隊員としてスリランカの支援にかかわっている。そのことを通して、日本以外の土地で働くということや国際社会に貢献する意義についても考える。

中学2年生では、2学期に職場体験学習を経験した。初めて働くといことを経験し、苦勞はもちろんだが、お客様や利用者の方の反応から楽しさを感じた生徒も多い。指導にあたっては、「海外で働く事がすごい」「私は日本で働くから関係ない」「自分はすでに将来の夢が決まっているから」などと偏った考えにならないように注意したい。働くということは多様であり、これから生き抜く社会において生徒自らの勤勞観や国際貢献に繋がるように考えさせたい。

【4】展開計画（全2時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「ジャヤワルダナ氏から学ぶ」 ・スリランカと日本の繋がりを知り、ジャヤワルダナ氏の演説から国際理解を深め、国際貢献や平和について考えることは大切だという心情を育てる	(1) ジャヤワルダナ氏について知る (2) ジャヤワルダナ氏の演説について考える (3) ジャヤワルダナ氏の訴える「愛」という言葉について考える	・映像 ・スライド資料 ・学習カード

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
2 本時	<p>「スリランカで働く日本人から学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリランカで働く人の勤労観を通して、社会で貢献することを自覚し、将来の生き方について考えることは大切だという心情を育てる ・スリランカで働く人の考えを通して、世界の中の日本人として自覚を深め、国際的視野に立って働くことは大切であるという心情を育てる 	<p>(1) 自分自身の勤労感について考える</p> <p>(2) スリランカで働く日本人について知る</p> <p>(3) スリランカで働く日本人の勤労感について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・スライド資料【資料1】 ・学習カード【資料2】

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材） 主な発問と予想される生徒の反応
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことに関するいくつかの質問に答える。答えに合わせて、教室の四隅に移動する。（「部屋の四隅」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えは自由である。人の考えを否定したり、ネガティブな発言をしないように指導する。 ・導入部分なのであまり時間を取らずに行う。 	<p>○「あなたは将来働きたいですか？」</p> <p>①働きたい</p> <p>②どちらかと言えば働きたい</p> <p>③働かないといけなから働く</p> <p>④働きたくない</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">②③に多くの人が集まる。</p> <p>○「あなたはどんな会社で働きたいですか？」</p> <p>①給料は高いが休みが少ない</p> <p>②給料は平均的で休みも平均的</p> <p>③給料が平均的でやりがいもあまりない</p> <p>④給料は少ないが休みも多い</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">迷いながら分かれる。 ②に多くの人が集まる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナルド・E・スーパーの14の労働価値をもとにしたアンケートに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が働くことに関してどう思っているのかを考えるきっかけにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の能力を発揮できる 2 良い結果が生まれたという実感を持てる 3 美しいものを創り出せる 4 人の役に立てる 5 他からの命令や束縛を受けず、自分のチカラだけでやっていける 6 新しいものや考えを創り出せる 7 たくさんのお金を稼ぎ、高水準の生活を送れる 8 自分の望むような生活を送れる 9 身体を動かす機会を持てる 10 社会に広く仕事の成果を認められる

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカで働く日本人について知る。(それぞれの人についてまとめたスライドを見る) 		<p>11 わくわくするような体験ができる 12 いろいろな人と接点を持ちながら仕事ができる 13 多様な活動ができる 14 仕事環境が心地よい</p>
<p>(33分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スリランカで働く日本人の勤労観について考える。資料をもとに4人班でホワイトボードにまとめる。 ・黒板に貼り、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の答えを大きい付せんに大きく書く。 ・自分の考えに合わせて教室の四隅に移動する。(「部屋の四隅」) ・それぞれの意見を聞いて、お互いに意見交流を行う。(討論会のようになれば理想的) 	<p>人のために何かできたとき／役に立ったとき／スリランカの人困っているから、助けてあげたい／(先生の場合)子ども達ができるようになったとき／自分にできることを一生懸命したい・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人を当てて意見を発表する。 ・自分の考えをもとに動くように指示する。 ・この発問で考えを深める。 <p>困っているスリランカの人たちのため／自分の夢のため／日本のため／スリランカのため／自分自身の成長のため・・・</p>	<p>ホワイトボードにまとめる内容</p> <p>○スリランカで働く日本人のやりがいは何ですか？</p> <p>○どんな思いでスリランカで働いていますか？</p> <p>○「スリランカで働く日本人は何のために働いているのだろうか？」</p> <p>①日本のため ②自分のため ③スリランカのため ④その他</p> <p>「困っているスリランカの人 の気持ちは？」 「日本を捨てているのか？」 「海外で働くってそんなに簡単なことかな？」 「日本より苦勞が多いのでは？」</p>
<p>まとめ</p> <p>(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方は人それぞれで勤労観も多様である。また、自分自身が何のために働くのか考えるきっかけにする。 ・国際社会の一員として、自分にできることを考えるきっかけにする。 	

	・感想を書く。	・自分自身の考えについてはもちろんだが、教室の四隅に分かれたときの他の人の意見を聞いた事を踏まえてまとめられるようにする。	
--	---------	---	--

【授業実践の様子】



班で考えた意見を張り出した様子



自分の考えを大きい付せん書いた様子

【6】 本時の振り返り

中学生にとって働くということは近いようでとても遠いことである。本時ではスリランカという国を取り上げて、日本ではなく海外で働くことを取り上げた。しかし、海外で働くことへの特別感ではなく、あくまで「働くこと」に目を向けて授業を展開した。働く場所が日本であっても、海外であっても自分自身の勤労感や働くことへの意義を大切にしてほしいと考えたからである。難しい問いであったにもかかわらず、生徒は資料から読み取り、そして自分自身の考えをまとめられていた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

<生徒の感想より>

- ・「スリランカで働く人たちは僕たちの想像を超える難しさと大変さがあるとともに、仕事をやる理由はただのお金のためだけではないことを感じました。僕も将来働く時には、お金だけでなくやりがいという面からも考えていきたいです。」
- ・「日本人でスリランカにいて仕事をされている方が10人もいたにおどろきました。その中には、楽しいことがないと思っている人とか、厳しい環境の中でも働き続けている人とか、仕事をもらえなくてほしいことは少し違うことをしているけど、自分のやりたいことをあきらめずにめざし続けている人とかたくさんの方がいて本当にすごいと思いました。」
- ・「一人一人働く理由も、働くのに大切にしたいことも全く違います。だけど、みんな自分を含め、家族のため・・・日本のため・・・などきっとこの世界や自分も含めこの世界の人々のために働いているのだと思いました。」
- ・「他国をよくすることで、自分の国もよくなって嬉しくなると思った。」
- ・「自分は人の役に立つ仕事がしたいと思っているけど、外国に行ってまで働ける自信ないです。でも、今回の授業で、世界で働く人のことを知って、自分の中で少し考え方が変わった気がしました。」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

通常の道徳の授業とは違い、自作の資料だったため、戸惑いながらもいつも以上に自分の考えを積極的に述べ

ていた。また、第二次世界大戦直後の話や海外での労働ついでの話ということからあまり身近な内容ではなかったが、生徒一人一人が主体性をもち、自らの考えを持っていた。

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

- ・スリランカのことにはよく知らない。
- ・途上国＝社会で習う言葉の一つ。
- ・海外のことで、日本とはあまり関わりがない。

<授業後>

- ・日本と深い関わりがあった。
- ・ジャヤワルダナ氏のおかげで今の日本があると思った。
- ・もっと海外について知りたいと思った。
- ・将来の夢が決まっていなかったが、青年海外協力隊に行きたいという夢ができた。
- ・世界で頑張っている日本人がたくさんいることを知った。

【8】自己評価

1. 苦勞した点

専門教科が保健体育であるため、自分の授業でどのように実践していけばよいのかを非常に悩んだ。道徳での実践を決めた後も、中心発問を考えるとところがとても苦勞した。生徒に何を考えさせたいのか、生徒に何を考えてほしいのか、自分の中の学んできた経験を1時間の授業の中でいかに伝えるかが苦勞した点である。

2. 改善点

それぞれの単元においての発問は改善の必要がある。「愛について」や「働くことへのやりがい」など非常に範囲の広い話である。その中から生徒に考えさせたいところを絞り込み発問として吟味する必要がある。

また、今回授業実践できた時間数は非常に少なかった。道徳のみならず、保健分野などでも実践できるよう単元の計画を立てる必要がある。

3. 成果が出た点

生徒がこれまで海外に目を向ける機会が非常に少なかった。英語科や社会科では身近な分野ではあるが、道徳という単元で実践できたことは非常に大きな成果である。道徳は決まった資料を読み、指定された発問について考える授業スタイルが主流である。そんな中で、自分の意見を大きく書いたり、自分の生き方と他人の生き方を結びつけて考えるよい機会になったのではないかと感じた。

スリランカという国がただのアジアの一国ではなく、日本と非常に深い関わりのある国であることを生徒に伝えることができたことが何よりの成果である。

4. 備考

今年度、教師海外研修に参加することができ非常に有意義な時間を過ごすことができた。国際理解や国際協力に興味がありながらも教員になり、日々の業務に終われるばかりでなかなか始めの一步が踏み出せずにいた。そんな中で教員を対象としたこのような研修は私にとってまさに「今がチャンス！」と思わせてくれたものである。自らが経験したことだから、生徒に伝えたい！伝えないと！と強く感じることができた。これからも自ら学び、自らの経験を語れる教員でありたい。

【参考資料】

〈映像資料〉

「世界が愛したニッポン 知られざる深い絆の物語」

<https://www.youtube.com/watch?v=vZwnCDckWZQ&t=383s>

【資料1】 スライド資料

スリランカで働く日本人



オザキさん
障害者施設で
働いている。



カトウさん
JICA
スリランカ
で働いている。



イトウさん
12歳～
20歳に
ラグビーを
教えている。



キクチさん
子ども達に
陸上を
教えている。



オオハラさん
スリランカの
幼稚園で
働いている。



カワセさん
内戦で
傷ついた人
の支援を
している。



セキネさん
スリランカの
生活習慣病
問題に
取り組んで
いる。



カナチさん
スリランカの
ゴミ問題に
取り組んで
いる。



ヨシムラさん
スリランカの
小学校で
働いている。



ハラダさん
スリランカで
数学の先生
をしている。

オザキさん 障害者施設で働いている。

子どもから大人までは暮らしが異なる施設で働いている。複数の施設を巡回し、日本で働いた経験を活かして、障がい者の自立やよりよい生活に向けた支援を行っている。

きっかけ

3.11 (東日本大震災) のボランティアを経験して、自分にも何かできるのではないかと感じて、海外で働くことにしました。

楽しさ

少しありません。ただ、自分が考えたことで利用者の方が喜んでくれること、考えとプログラムが受け入れられることが嬉しいです。

苦労

考え方や文化の違いにも苦労しています。スリランカでは、障がいへの理解がかなり低く、施設の種類でさえ見えていないことがあります。

カノウさん JICA スリランカ事務所で働いている。

青年海外協力隊員としてスリランカへ来て、トータル14年間スリランカで働いている。現在は、教育や保健分野の異なる支援のプロジェクトを担当している。

きっかけ

高校の時に出会った先生が青年海外協力隊に参加していて、その先生に憧れて海外で働きたいと思ったからです。

魅力・楽しさ

違う価値観に触れることができることです。

苦労

ありません。日本で働いていた時の方が苦労していた気がします。ただ、スリランカでも理解不能なこともあります。

イトウさん 10歳〜20歳にラグビーを教えている。

青年海外協力隊員としてスリランカへ来て、ラグビーのコーチをしている。イトウさんの働く地域では、練習場に入ることにお金がかかる。

きっかけ

元々ラグビーをやっていました。ラグビーのワールドカップをきっかけにラグビーを活動した仕事をしたことがきっかけです。

魅力・楽しさ・面白さ

子ども達の成長が喜ぶところが何より嬉しいです。

苦労

嵐が来ることでずいぶん…。痛みやすい病室のあまりの暑さはありません。ただ、暑熱対策は雨の前後の作業でも必要だと思えます。

オクダさん 子ども達に陸上を教えている。

本当は、小学校の教員として青年海外協力隊員としてスリランカへ来た。現地に来てみると、学校での支援は必要とされてなく、陸上をしていた経験を活かして陸上のコーチをしている。しかし、学校で教える事は捨ててなく、支援を必要としている学校を自ら探している。

きっかけ

中学生の時から青年海外協力隊員に興味があったからです。

魅力・楽しさ・面白さ

とても人がいいです！！

苦労

大変なことが多いです。お米をしても足りないのが普通です。トナキヤンもあります。嵐が強いので、話を聞いてもらえないことや、相手にされないこともあります。

オオハラさん スリランカの幼稚園で働いている。

日本で働いていた経験を活かして、スリランカの幼児教育局というところに配属されている。子どもへの指導だけでなく、各幼稚園の先生にも指導をしている。

きっかけ

あこがれがあったけど、英語に自信がなかったのでもなかなかに難しかったです。英語を受けて受かったことが海外で働くきっかけです。

魅力・楽しさ・面白さ

日本で色々なことを経験してできなかったことが、海外で体験できることです。

苦労

文化の違いに戸惑っています。言葉が通じない仕事してできなかったりすることもありますが、あと、私の周りにはスリランカの人はこみこみ言葉に話せてくれなくて困っています。

カワセさん 内職で働く人の支援をしている。

スリランカは2006年まで内職をしていた。ピースウィンズジャパンというNGOの団体で現地の人の支援をしている。牛乳の販売や加工をして、現地の人の収入につなげている。マーケティングの仕事をしていた経験を活かして、青年海外協力隊員としてスリランカに派遣された。任期終了後もスリランカに戻り支援をしている。

きっかけ

海外で働くこととずっと興味がありました。自分の職種にあった支援が募集されていて、迷わず応募しました。

魅力・楽しさ・面白さ

日本で休息入浴のことをやり尽くしてしまっていた。スリランカで休むことしたことでも新鮮でそれが魅力です。目の届く物事が変わっていくことや、ありがたさといわれることも新鮮の一つです。

苦労

生活するのには苦労しました。

セキネさん スリランカの生活習慣問題に取り組んでいる。

保健師として、スリランカへやってきた。日本には家族もいる。色んな反対があったが、青年海外協力隊員として海外で働いている。現地の医師とペアを組んで、生活習慣予防のに関する講義や学校を回って保健指導をしている。

きっかけ

日本でも保健師として働いていました。日本での仕事に疑問を持って、海外で挑戦してみようと思ったのがきっかけです。

魅力・楽しさ・面白さ

自分がやりたいうことができるのも楽しんでいます！

苦労

日本が思っていたホームシックになることもあります。

カナダさん スリランカのこみこみ問題に取り組んでいる。

まるで丘のようなこみの山。マスクをしないと臭いにも耐えられない。そんな場所でも働いている。分別の習慣がなく、燃えるこみの山。数年前は別のこみ処理場でこみの山が崩れ、生き埋めになり死亡事故が起こっている。そんなスリランカのこみ問題に立ち向かっている。

きっかけ

会社に就職する前に自分で現地を見たくて青年海外協力隊員応募しました。本やバックパックで世界を旅した経験から何かを変えたいと思ったことがきっかけです。

魅力・楽しさ・面白さ

生活に不便はなく、他の日本人と関わるところも楽しみの一つです。また、日本を善機的に見ることもできるよみになり、日本の良さや大変さにも気付くことができています。

苦労

意見を聞いてもらえないことや、自分の仕事は世界にない文化なのでなかなか思うようにプロジェクトが進展しないことです。

ヨシムつさん スリランカの小学校で働いている。

スリランカの小学校で働いている。主に英語の授業を担当している。日本の大学を卒業してすぐにスリランカにやってきた。学校だからといって、日本のように整った環境ではない。

きっかけ

高校生の時に青年海外協力隊員の話を聞いて、海外で働く事に決めましたからです。

魅力・楽しさ・面白さ

スリランカの文化がとても面白いと思います。スリランカの言語教育青年海外協力隊員としての派遣が決まってから学習し始めた。自分の言葉が通じたのが楽しみの一つです。

苦労

やはり言葉には苦労しました。

ハラタさん スリランカで数学の先生をしている。

大学卒業後すぐにスリランカにやってきた。内職のあとが来るような街に住んでいる。都市部まではバスで何時でもかかる。

きっかけ

「国際協力」と「教育」に関わる仕事をしたかったです。そのどちらにも当てはまるのが青年海外協力隊でした。

魅力・楽しさ・面白さ

日本の勉強方法である、100マス計算をスリランカで取り組んでいます。子ども達の計算能力が上がったという結果が出てとても嬉しいです！と思えました。

苦労

先生が休む・授業が滞り立えないなど日本の学校とは大きく違って学校が滞り立ってないところです。

1

あなたが働く上で大切にしたいのはどれですか？

*大切にしたい順に番号をつけてみましょう。

項目	順位
自分の能力を発揮できる	
良い結果が生まれたという実感を持てる	
美しいものを創り出せる	
人の役に立てる	
他からの命令や束縛を受けず、自分のチカラだけでやっていける	
新しいものや考えを創り出せる	
たくさんのお金を稼ぎ、高水準の生活を送れる	
自分の望むような生活を送れる	
身体を動かす機会を持てる	
社会に広く仕事の成果を認めてもらえる	
わくわくするような体験ができる	
いろいろな人と接点を持ちながら仕事ができる	
多様な活動ができる	
仕事環境が心地よい	

授業実践報告

身近に始めるSDGs

~Think globally, act locally, change personally~

氏名：森崎 将彦
担当教科：外国語（英語）
時間数：全4時間

学校名：広島県立瀬戸田高等学校
実践教科：ライフプラン(LP) I (総合的な学習の時間)
対象学年：第1学年
人数：30名（男子23名、女子7名）

【1】単元のテーマ・目標

- ・スリランカの基本情報を知る。
- ・スリランカを知ることを通して、異国に興味を持つ。
- ・日本が支援国としての側面と被援助国としての側面を持っていることを知る。
- ・国連が定めた「持続可能な開発目標」（以後SDGs）について、それぞれの目標内容を知る。
- ・持続可能な開発のために、自分たちにできることを考える。
- ・持続可能な開発のために考えた自分たちにできることをもとにして、実際に行動する。
- ・学んだ内容を生かして、世界の中で生きている日本人の「私」が今できること・すべきことを考える。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">①<個人>積極的に活動に取り組んでいる。②<個人>異国について関心を持っている。③<協働>ペアワーク・グループ活動において、自分から主体的に協力して取り組んでいる。または、与えられた役割に真摯に取り組んでいる。④<協働>グループのメンバーとともに、創造的に問題の解決策を考えている。
(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">①先進国と発展途上国の違いについて、日本とスリランカを比較することで考えることができる。②学んだ内容をもとにして、問題解決に向けて思考できる。③自分自身について、学んだことをもとにして、多角的に捉えることができる。
(ウ) 技能	<ul style="list-style-type: none">①<コミュニケーション能力> ペアワーク・グループ活動において、自分の考えを聞き手に伝えることができる。②<課題発見・課題解決能力> 課題を発見、もしくは設定することができる。また、その課題を学んだことをもとに解決することができる。
(エ) 知識・理解	<ul style="list-style-type: none">①スリランカの言語・地理・文化などの基本情報を知っている。②発展途上国と先進国の違いを知っている。③SDGsのそれぞれの目標内容を知っている。

【3】 単元設定の理由

<生徒観>

第1学年30名（男子23名女子7名）を対象にしている。総合的な学習の時間について、1学期からコミュニケーション能力、課題発見・課題解決能力を高めるための活動を行っており、それぞれの活動に積極的に取り組む様子が見られる。一方で、ペア活動やグループ活動に協働的に取り組むことについては課題としている生徒が多く、引き続き重点的に指導しているところである。また、自分の興味・関心のない内容については学習意欲が湧かない生徒もあり、どのようにして学ぶ内容を「自分ごと」と捉えさせるか試行錯誤しながら指導している。

本実践について、生徒がどの程度スリランカのことを知っているのか、国際協力についてどのように考えているのかという生徒のレディネスは明確にはなっていない。そこで、本実践前に開発教育（国際教育／国際理解教育）に関するアンケートを実施した。スリランカの基本情報について、国名を聞いたことがある生徒は約80%であったが、スリランカの正しい国旗を答えることが出来た生徒は35%、スリランカの場所を正確に答えた生徒は11%、スリランカの特産品を答えることができた生徒は0%であった。これらの結果より、生徒のスリランカに関する知識は非常に低いことが分かる。

また、開発教育に関するアンケートにおいて、「世界中の人々は、お互いに助け合うべきだと思う」という質問項目に対して自分の考えが「当てはまる」または「よく当てはまる」という肯定的な回答をした生徒は全体の81%であり、国際協力の必要性を感じている生徒は多かった。しかしながら、中学校時代に国際協力について学んだ事がある生徒の割合は8%であり非常に少ない。また、高等学校においても世界の国々について考える機会は今までないという現状があった。さらに、「SDGsという言葉聞いたことがある」という質問項目に対して「はい」と答えた生徒の割合は0%であることから、生徒は国際協力に関する知識を、まずは知ることが課題であると考えられた。

<教材観>

本単元は、「開発教育」と「持続可能な社会づくり」に貢献できる生徒の育成を目的としている。スリランカという未知の国についてクイズ形式で学ぶことを通して、日本とは違う異文化があることを知る。また、スリランカが持っている発展途上国としての一面を日本と対比しながら学ぶことで、自分たちの生活の豊かさやそれが世界で平等にあるわけではないことに気が付かせたい。また、発展途上国と先進国の違いを「貿易ゲーム」を通して擬似的に体験することで、世界が良くも悪くも相互に関連しあっていること、自分たちの行動が小さくとも世界に影響があることに気づいて欲しい。

さらに、「貿易ゲーム」の振り返りを詳細に行うことを通して、国際社会が一体となって2030年までに達成を目指すべき目標であるSDGsがあることを知る。まずは17の目標があることとその内容を確実に生徒に学ばせたい。また、知識としてただSDGsを知るだけにとどまらないよう、身近で自分たちが行動できることについてフォトランゲージやディスカッションを通して話し合い、実際に目標達成のために行動している「自分」のイメージを膨らませることを目指す。

<指導観>

指導にあたっては次のような工夫をする。

- ① 様々な価値観に触れるため、グループでの活動を主とする。
- ② 世界が相互に関連していることを体験的に理解するために、「貿易ゲーム」を用いる。
- ③ まずは体験してから考えるという趣旨で、「貿易ゲーム」は全4時間の実践の序盤で実施する。そこで体験したことを詳細に振り返りながら、世界が相互に関連していることを考えられるようにする。
- ④ 「貿易ゲーム」において、生徒が実際の社会の動きをより感じることができるよう、ゲームの途中で製品の買取価格を下げたり、途上国で新たな資源が発見されたりするなどの新しい要因を取り入れる。
- ⑤ 「貿易ゲーム」が終わったあと、感じたことや考えたことをクラス全体で共有することで、生徒が世界の人々が感じている不平等や不満に気づけるようにする。
- ⑥ 生徒が国際協力を「自分ごと」として捉えられるように、援助国としての日本と被援助国としての日本の画像や動画を利用して関心を高める。

- ⑦ SDGs導入の際には、一方向の学習活動にならないようまずは全体で活動的に動き、そのあとのグループ活動において、全員が各アイコンとその説明に目を通せるようにする。
- ⑧ 身近に存在するSDGsに関連している事に気づかせるため、クラス全体でフォトランゲージを行う。また、適時ディスカッションを織り交ぜることで多角的に物事を見ることができるようになる。

【4】展開計画（全8時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
事前	<p>「世界へ目を向けよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の国々について、興味を持つ 【教師】国際協力に関する生徒のレディネスを把握する 	<p>(1) 簡単なクイズにグループで答えることを通して、国際社会に興味を持つ</p> <p><クイズの例></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界には全部でいくつ国があるか？ 世界で一番小さい国はどこか？ 日本人が多く訪問している国はどこか？ 日本への入国者の多い国はどこか？ 平均寿命の長い国はどこか？ 知っている国名をできるだけたくさん挙げよ などなど <p>(2) 全4時間で学ぶ内容、世界について学ぶ意義をクラス全体で共有する</p> <p>(3) 開発教育(国際教育/国際理解教育)に関するアンケートに答える</p> <p>(4) 次時の授業の内容を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀 国際社会に関するクイズ 開発教育に関するアンケート(Pre) <p>【資料1】</p>
1	<p>「スリランカってどんな国？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発展途上国の代表例として、スリランカの基礎情報を知る 	<p>(1) 本時の目標と学習内容を知る</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> スリランカに親しもう 世界がお互いに関わりながら存在していることを体験しよう <p>(2) 教員が今夏に訪れたスリランカのことについて、クラスで知っていることを出し合い、スリランカ自体に興味を向ける</p> <p>(3) クイズとスリランカボックスを組み合わせた“Quiz de Sri Lanka”を通してスリランカの基礎情報を体験的に知る。知った情報はメモ用紙に記録する</p> <p>★文化・食べ物・言語/生活・スリランカで出会った○○</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>グループで問題に取り組みます</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サロンはどうやって着るの!?</p> </div> </div> <p>(4) 次時の「貿易ゲーム」のルールについて確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> スライド資料 <p>【資料2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード ホワイトボードマーカー スリランカの国旗 仏教旗 スリランカの世界遺産の写真 午後の紅茶 ココナッツ製品 象の糞ペーパー ジャヤワルダナ氏に関する動画 スリランカで収集した写真や動画

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
2	<p>「自分さえ良ければ良いのか!? 世界がお互いに関わりながら存在していることを体験しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易ゲームを通して、世界が相互に関連していることを体験的に学ぶ。 	<p>(1) 「貿易ゲーム」のルールについて再確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">～ルール～</p> <p>○班の人と協力して、できるだけたくさんのお金を稼いでください。</p> <p>○世界銀行（赤石支店・丸山支店）が製品の品質を見極めてお金を支払って買い取ります。</p> <p>○世界銀行が決めた値段に文句は言えません。</p> <p>○他のグループと協力したり交渉したりすることは自由です。</p> <p>○グループ内で効率的に動いてお金を稼いでください。</p> <p>○ベルが鳴ったら、国連からのお知らせがあるので作業をやめて注目してください。</p> </div> <p>(2) 各グループ内で相談しながら、製品の製作を進める出来上がった製品については、世界銀行へ売る</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">貿易ゲームのフロー</p> <p>00:00 スタート</p> <p>12:00 【10cm:15cm】の長方形供給過多により2,000円→1,000円へ減額</p> <p>14:00 D班へ最新技術のカッターを支給</p> <p>16:00 +1,000円のシールをA班へ</p> <p>16:00 シール情報をE班へ</p> <p>19:00 【15cm:15cm:15cm】の正三角形の値段を3,000円→5,000円</p> <p>20:00 B班の分度器がなくなる→補償として、国連からB班へ紙を6枚追加</p> <p>21:00 F班へ世界銀行の情報を支給</p> <p>22:00 B班へ青い紙を6枚支給</p> <p>22:50 B班へ青い紙の情報を支給</p> <p>25:00 丸山銀行休止</p> <p>26:00 直径【10cm】の半円供給過多のため2,000円→1,000円へ減額</p> <p>25:00 国内に誰もいなくなったということで、B班に制裁金5,000円</p> <p>27:22 ゴミ税金を最大20,000円取ることを伝える</p> <p>28:33 丸山銀行再開</p> <p>28:57 【15cm:15cm:15cm】の正三角形の値段を5,000円→6,000円</p> <p>31:00 E班へ赤い紙の情報と赤い紙を支給</p> <p>32:30 終了</p> <p><終了後、ゴミの量に応じて最大20,000円の処理台を支払う。></p> </div> <p>(3) 集計結果を報告し、勝利国を決める</p> <p>(4) A～Fの国が現実世界ではどこの国を表しているかを根拠とともに考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う ・自分の班が、現実社会ではどの国を表しているかについて、最初に配られた封筒の中身や、班員の数などを根拠にして考える <p>(5) 「貿易ゲーム」を通して感じたことや気づいたことを班で共有し、その後クラスで共有する</p> <p>(6) 振り返ったことを自分の言葉で記述する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易ゲームのルール ・貿易ゲームのグループ分け ・グループの数分の封筒(中身異なる) <p>【資料3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
3 本時	「全世界共通目標SDGs」 ・前時の振り返りを通して、世界の不平等さを改めて把握する ・全世界共通で、2030年までの達成を目指すSDGsというゴールがあることを学ぶ	(1) 本時の目標と学習内容を知る (2) スリランカに関する基本情報について振り返る (3) 「貿易ゲーム」について振り返る (4) 教師からの国際社会に対する否定的な問いかけに対する答えを考える 「世界で皆が平等なんてありえるのかな？」 (5) このままのペースで開発を続けてしまった場合、地球が持続不可能であることを知る (6) 画像や動画を通して、世界が相互依存の関係であることを知る (7) 現状を変えるために世界が協力して達成を目指す目標として、SDGsがあることを知る	・スライド資料（1時限目に用いたものと同様） ・貿易ゲームのフロー ・世界が相互依存していることを示す画像や動画 ・SDGsのゴールアイコン
4 本時	「Think globally, act locally, change personally」 ・身近に、SDGs達成のためにできることがあることを体験的に理解する ・SDGs達成のために、今の自分達にできることを考え、行動目標を設定する	(1) SDGsの概要について知る ・マッチングアクティビティ ・グループでディスカッション ・国連広報センターのスライド資料 (2) フォトランゲージを通して、身近にSDGsに関連していることを知る (3) SDGsについて、自分に関連させて考える (4) SDGsに関連して、グループでの行動目標を考える (5) SDGsに関連して、自分なりの行動目標を考える (6) 全4時間の授業の振り返りを行う	・SDGsの番号・絵が載っている紙と説明が書かれた紙【資料4】 ・スライド資料 ・ワークシート ・ひとこと多い張り紙【参考文献】
事後	「学びを振り返ろう」 ・【教師】生徒の変化を読み取る	(1) 開発教育(国際教育／国際理解教育)に関するアンケートに答える	・開発教育に関するアンケート(Post)【資料1】

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
復習	(1) 本時の目標と学習内容を知る。 (2) スリランカに関する基本情報について振り返る。 ・前時と同じ班で行う。 ・話し合いながら、前時の内容を思い出す。 (3)「貿易ゲーム」について振り返る。 ・前時と同じ班で行う。	・教師からの「どう感じた?」「なにか困ったことは?」などの投げかけを行うことで、班での話し合いを活性化させる。	・スライド資料（1時限目に用いたものと同様） ・貿易ゲームのフロー

	<ul style="list-style-type: none"> ・「①最初に渡された封筒の中身②作業をしていて感じたこと③実生活に置き換えると」の3点に絞って振り返る。 ・前時の終わりに自分たちが行った振り返りを聞き、先進国・発展途上国双方が不平等感を抱えていることを知る。 <p>(4) 教師からの国際社会に対する否定的な問いかけに対する答えを考える。</p> <p>(5) このままのペースで開発を続けてしまった場合、地球が持続不可能であることを知る。</p> <p>(6) 画像や動画を通して、世界が相互依存の関係であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の政府開発援助の活用例の動画 ・途上国から日本が輸入している物の画像 →お好み焼きの食材データを例示 ・東日本大震災の際の諸外国からの支援動画 ・西日本豪雨の際の諸外国からの支援画像 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の終わりに生徒自らが振り返った内容から、発展途上国の「封筒の中身が違いすぎて不平等だ。」や先進国の「資源が乏しかった。平等にすべきだ。」という不満や、「資源や道具を平等にすれば良い。」「お金を平等に振り分ければ良い。」という意見・感想があったことを伝え、それが実生活の中に置き換えることどのような状況になるのかを考える。 ・「世界で皆が平等なんてありえるのかな？」という問いかけを行う。 	
<p>導入</p>	<p>(7) 現状を変えるために世界が協力して達成を目指す目標として、SDGsがあることを知る。</p> <p>(8) SDGsの概要について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチングアクティビティ ・グループでディスカッション ・国連広報センターのスライド資料 <p>(9) フォトランゲージを通して、身近にSDGsに関連していることがあることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが今夏に体験した西日本豪雨の際の途上国を含む世界からの支援の画像などを見ることで、世界が相互に関連しあっているということを感じられるようにする。 ・全員が活動に参加できるように声掛けする。 ・パワーポイントで写真を投影して、グループでディスカッションしながら進める。 ・スリランカの写真と、日本の身近な光景の写真を投影する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界が相互依存していることを示す画像や動画 ・SDGsのゴールアイコン ・SDGsの番号・絵が載っている紙と説明が書かれた紙 ・スライド資料

<p>まとめ</p>	<p>(10) SDGs について、自分に関連させて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の 17 のゴールのうち、どれが若者にとって一番大事だと思うか班でディスカッションする。 ・ ギャラリーウォークを用いて、グループ間で説明したり説明を聞いたりして、SDGs と自分たちとの関連について考える。 <p>(11) SDGs に関連して、グループでの行動目標を考える。</p> <p>★時間の都合で、(11) の活動は実践内に行うことが出来なかった。</p> <p>(12) SDGs に関連して、自分なりの行動目標を考える。</p> <p>(13) 全4時間の授業の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大事」という言葉の意味に注目させ、「取り組みやすさ」や「早急に取り組むべき問題」など、どの視点が重要かを班で議論させる。 ・ SDGs 普及ツールである“ひとこと多い張り紙”の“ひとこと”の部分、誰にとっても分かりやすく、やってみようかと思える文言に書き換えてみる。 ・ 教室内に張り出し、良いなと思ったものに一人一票投票する。 ・ 投票で上位になったものは、ラミネートして実際に学校内に張り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ ひとこと多い張り紙 ・ 開発教育に関するアンケート (Post) 【資料1】
------------	--	---	---

【授業実践の様子】



最初にルールの確認



作戦会議



世界銀行に売り込み中



役割分担して作業



ゲームの後の協議



協議結果を全体に報告

★3限目（貿易ゲームの振り返り）



話し合いながら前時の復習



貿易ゲームを詳細に振り返り



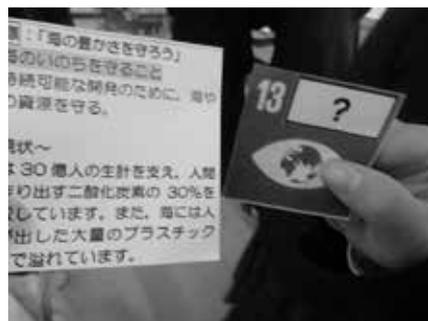
感じたことを発表



全員立ち上がって活動



ペアを見つけて確認中



見比べてマッチング



SDGsのロゴとその説明について、
班員全員で確認中



「若者にとって大事なゴールは」
について納得するまで協議中



ギャラリーウォークで他班の
意見を聞き、説明します

【6】本時の振り返り

<教師>

SDGsの内容を概観するとともに、自分なりの行動目標を設定してこれからの生活に生かして欲しいという思いで授業を行ったが、指導技術の無さで時間が足りずに計画していた最後の活動（ひとこと多い張り紙の目標を自分なりに考える）まで行うことが出来なかった。最後まで活動を行うことができれば、生徒はより国際協力について考えることができたかもしれない。

しかしながら、一方向の講義的な授業にならないように注意したり、日本の非支援国としての一面を見せたりするを通して、多くの生徒はSDGsを「自分ごと」と考え、全ての活動に積極的に取り組んでいたように見えた。グループで考えたことをについて、個人の考えを見取るためにPostアンケートで「SDGsの17の目標で、あなたが特に達成したい、達成すべきだと思う目標は何番か」という質問を設けたが、生徒によって目標としているゴールとその理由が本当に様々であった。様々な課題はあったが、国際協力について考えるきっかけとなるという意味においては、非常に意義のある授業であったように感じている。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

全4時間という限られた時間だったが、もともと国際協力の必要性を感じていた生徒たちが具体的にどのような行動していこうかと考える始めた様子が見て取れた。全4時間の授業を終えた生徒の感想には以下のようなものがあった。

＜生徒の感想＞（※Postアンケートより抜粋）

- ・世界でSDGsを達成できるように頑張りたいです。
- ・世界で起きていることを直に学べて良い経験になりました。次もしてみたいな。
- ・この生活がどれだけの支えによって成り立っているか良く分かった。協力という言葉の重みをしかと受け取った。
- ・国は違っても、この小さい地球にいる以上、助け合わないと持続可能な社会など実現できないと感じた。
- ・風邪を予防するように、ゴミを捨てないように予防すればもっと良い社会ができるのに。
- ・SDGsとは何を表しているのか、そして何個あるのか分かりました。
- ・国同士が協力しあうのは大事だと感じた。
- ・日本人は色んな国を助けているのは知っていたけど、違う国と助け合っているとは思いませんでした。
- ・国と国の格差を知った。戦争なき世界にして欲しい。助け合えば良いと思った。
- ・世界がどんな目標を立てているか分かった。
- ・日本も海外も色んな所で助け合って生活しているということが分かった。
- ・世界中で協力して生きていきたい。全ての人が幸せだと思える世界になったら良いな。
- ・日本はとても恵まれている。困っている国を助けたい。
- ・助け合うことの大切さを知って、これからの生活習慣が変わりそうです。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

＜自分さえ良ければ…は良くない！＞

「持続可能な社会」の担い手として、生徒には「自分さえ、日本さえ幸せであれば良い」という考えではなく、皆で協力して助け合っていこうという姿勢を持って欲しかった。全4時間の授業が終わった後のPostアンケートに生徒はどんなことを書くのだろうとワクワクしながら少し不安な気持ちもあったが、生徒は私が期待していた以上に「持続可能な社会」の担い手として成長してくれた。感想には、協力の必要性や助け合いなどに言及している生徒も多く、それに加えて途上国のことについて記述している生徒も数名いた。日頃は限られた人間関係の中で生活している生徒も、この実践の中で少しずつ世界に向けて視線が向かっていると感じた。

＜驚いた！休憩中・授業後の生徒の様子＞

何よりも驚いたのは、授業外の生徒の様子である。実は、2時限目の授業は私の指導力の未熟さから授業時間を大幅に超過してしまった。それに関わらず、生徒は集中を切らさず一生懸命に活動に取り組んでくれた。また、ただ楽しむだけでなくそれぞれの活動の意義やメッセージを考えながら真摯に取り組んでいた。

また、休み時間も「貿易ゲーム」や「SDGs」の話をしたり、欠席していた生徒に授業内容を伝えたりと、日頃あまり見られない様子が多く見られた。自分の興味のある部活やゲームの話ではなく、国際協力についての話を日常の中でしているというところに、非常に驚くとともに、生徒の中で何かが変わり始めているのかなと確信した瞬間でもあった。授業の次の日になっても、「貿易ゲーム」や「スリランカ」「SDGs」について友人と語り合っている生徒を数人見かけることができた。

【途上国・異文化への意識の変容】

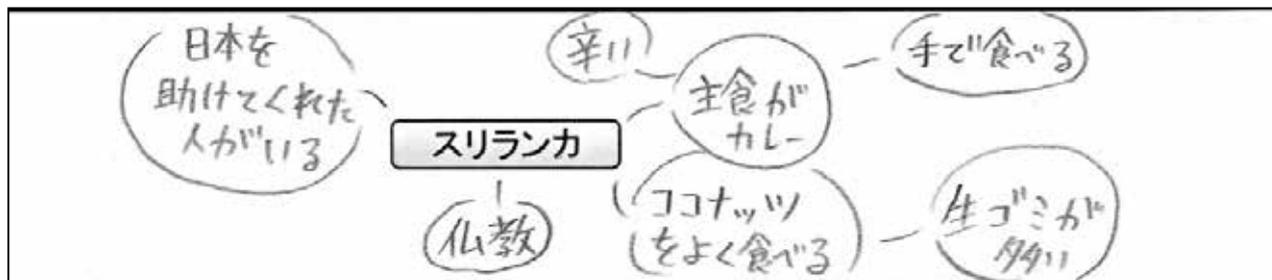
＜授業前＞

「生徒観」を参照のこと

<授業後>

<スリランカ>

スリランカの基本情報について、国名を聞いたことがある生徒は約80%→約92%に増加、スリランカの正しい国旗を答えることが出来た生徒は35%→約79%へ増加、スリランカの場所を正確に答えた生徒は11%→約67%へ増加、スリランカの特産品を答えることができた生徒は0%→75%と大幅に増加した。全てのスリランカに関する質問項目で数値の増加が見られたことから、スリランカという異国に対する興味・関心は高まったと考えられる。また、スリランカに関するアイディアマップも、Preアンケートでは無記入の生徒がPostアンケートでは多くの情報を書き込むことが出来ていた。



(生徒のアイディアマップの例：Postアンケートより抜粋)

- ・ただし、発展途上国のイメージを聞いた質問に答えられた生徒は多くなく、スリランカという国は知ることが出来たが、それが発展途上国と結びついていない生徒が多いことが予想される。教師が発展途上国と先進国の違いを伝える場面はもう少し明示的に伝えても良かったかもしれない。
- ・アイディアマップの部分には、スリランカ=森崎先生が行った国と連想している生徒も多かった。自分が知っている人が行った国というだけで、親近感の抱き具合にかなり違いがあると感じた。

<開発教育>

- ・「SDGsという言葉を知ったことがある」という質問項目に対して「はい」と答えた生徒の割合は0%→71%と大幅に増加した。マッチングアクティビティや生徒同士のディスカッション、スリランカや身近な生活の写真を用いたフォトランゲージを通して、生徒は世界に興味を持ち、SDGsという全世界共通の目標を切り口にして国際協力していこうという態度が育成できたと考えられる。
- ・「海外の人が困っていたら助ける」という項目に対する生徒の肯定的な解答は、Preアンケートでは残念ながら35%という低い数値であった。同じ日本人であれば助けるが、外国人を助けるとなるとハードルが上がるようであった。しかし、全4時間の実践を経たPostアンケートでは約60%と数値が増加した。まだまだ全員が助けようと思っているわけではないが、大きな進歩である。

[8] 自己評価

1. 苦労した点

①カリキュラム上の難しさ

決められたカリキュラムの中にどのように国際協力に関する授業を組み込んでいくかを議論していく必要がある。校務分掌で国際協力部があるような学校は良いが、本校のように学年裁量に任せられているような学校では、教務部や学年団と連携を取りながらどのようにして時間を確保していくのか考えていく必要がある。

②準備/準備時間の確保

特に「貿易ゲーム」は準備がかなり大変だった。学校として「貿易ゲーム」セットを用意しておき、どの学年もが必要な時に使えるようにしておくことより授業がしやすくなると考えられる。

2. 改善点

<2限>

- ・貿易ゲームの時間を途中で延長したが、班によっては時間の最後に品物を売ろうという作戦を立てているとこ

ろもあった。制限時間は最初に決めた時間で最後まで行うべきであった。

- ・国という意識を持たせる工夫があればもっと良かった。グループでただただ楽しんでいるというだけになって
いる生徒もいるかも知れない
- ・国の中で役割をもっと明確に決めても良かったかもしれない。そうすることで国の意識をもたせる。
- ・最後のA～Fの国がどの国を示しているのかというところはもっと丁寧に扱って良い。なぜAがその国と考
えるのかということ、入っているものなど視覚的に表すなどして予想させるべきだった。また、全体に示すこ
とで、自分以外の班のことも考えるきっかけになるので。
- ・生徒がどのようなことを考えているのかという変化がわかる工夫があればよかった。→活動の途中で第一次振
り返しを作っても良かった。

<3限>

- ・前時の振り返りに時間を掛けすぎてしまった。生徒が記入したワークシートを見てさっと振り返りを行う、正
答率の低かった問題について全員で確認するなどの時短が必要であった。
- ・発展途上国と先進国の違いをもう少し明示的に教えても良かった。また、語句を導入した後でスリランカ以外
の途上国の写真を見せるなど、生徒のイメージを膨らませやすい方法を考えておくと生徒はよりわかりやす
かったと考えられる。

<全体を通して>

①教員の協力体制

今回の授業では、自分自身の不手際で授業内容を直前に学年団の先生に伝えて、なかなか議論する機会を設け
ることが出来なかった。事前協議を重ね、教員間の役割分担を明確化することで教員をより上手に巻き込んでい
ければ良かった。

②生徒に見せる情報の選択

多くの伝えたいことがあったため、生徒に画像や動画を含む多くの情報を見せることになる。見せること自体
に問題はないが、情報を選ぶ際にはなぜその写真を選ぶのか、他の写真ではだめなのかをもう少し吟味すべき
だった。今回の実践でも、あとから「こっこの写真のほうが良かった」と思う場面が何度かあった。国際協力に
関する写真や動画フォルダなどを学校でシェアしておき、どのような場面でこの写真や動画を使うということを
事前に決められれば改善できたかもしれない。

③個別の生徒の見取り

多くの生徒がいる学級で授業を行う場合、個別の生徒の評価方法を考えておく必要がある。今回はアンケート
という方法を用いたが、そのアンケートは評価したいことをきちんと評価できるようになっているかなどを事前
に協議しておく必要があるだろう。また、今回のアンケートのように書く記述量が多いと生徒もかなり疲れるの
で、5件法などの簡易な方法を多く利用するなどの改善ができるだろう。

3. 成果が出た点

①他の教員との協力体制

国際協力に関して他の教員と協力して実践が出来たことは大きな成果である。改善点にも書いているように
もう少し時間をかけて協議できれば良かったが、役割分担をしながら「貿易ゲーム」を運営するなど、良い協
力体制を築くことが出来た。

②「持続可能な社会の担い手」を育成するきっかけとしての4時間

この4時間で全てできたわけではないが、生徒が自分たちの住む日本のことだけでなく、世界のこと、国
際協力のことについて考えるきっかけには間違いなくなったであろう。ただ一方的に教えるだけではなく、身
近な写真を見せたり問いかけをしたりしながら生徒に「自分ごと」として考えられるように終始徹底してい
たことが良かったと考えられる。これから、生徒がさらに国際社会について考えていけるように実践を継続し
ていく必要がある。

4. 備考

実践の最後に生徒に伝えた“Think globally、 act locally、 change personally”という言葉は、今回のスリランカ訪問から授業実践に至るまでの自分に当てはまると思う。今まで漠然と考えていた「国際協力」について、スリランカに実際に行き行って現状を知り、考え、それを自分が担当している生徒に伝えるということで国際協力に貢献していく、またその実践を通して自分自身が国際協力についてより深く考え行動していく事ができると今まさに感じている。今回は4時間という限られた時間であったが、これから先もこのような実践を継続していくことで「持続可能な社会づくりの担い手」を育成していくとともに、自らも担い手として行動できるようにやっていきたいと思う。

今回の教師海外研修に快く送り出してくださった藤本寅肇校長を始めとする管理職の先生方、授業実践でフォローしてくださった1学年団の先生方、日本でもスリランカでもたくさん助けてくださったJICAの皆様、そして授業実践と一緒に世界について考えてくれた生徒に感謝したい。この研修に参加させていただきありがとうございました。

【参考資料】

<Webページ>

開発教育協会HP「新・貿易ゲーム—経済のグローバル化を考える」

<http://www.dear.or.jp/book/book01_tg.html> (参照2018/12/10)

外務省HP「世界いろいろ雑学ランキング」

<<https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/ranking/index.html>> (参照2018/12/10)

国際連合広報センターHP「SDGsを広めたい・教えたい方のための『虎の巻』(資料)パワーポイント資料」

<http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/>
(参照2018/12/10)

JANIC「SDGs理解促進ツール ひとつこと多い張り紙」

<<https://www.janic.org/world/sdgstool/>> (参照2018/12/10)

<書籍>

池田香代子(2008)『世界がもし100人の村だったら 総集編』マガジンハウス文庫.

一般社団法人 Think the Earth(2018)『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』(非売品)

JICA中国(2016)『2015年度 教師海外研修(ラオス)国際理解教育実践報告書』JICA中国.

JICA中国(2017)『2016年度 教師海外研修(ラオス)国際理解教育実践報告書』JICA中国.

JICA中国(2018)『2017年度 教師海外研修(スリランカ)国際理解教育実践報告書』JICA中国.

デイビッド・ヒューム(2017)『貧しい人を助ける理由—遠くの子とあなたのつながり』日本評論社.

日能研(2017)『SDGs 国連 世界の未来を変えるための17の目標 2030年までのゴール』みくに出版.

文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』海文堂出版株式会社.

【資料1】 開発教育に関するアンケート

<Preアンケート>

LP1 (開発教育) 2018/12/12

【Pre】国際教育アンケート

2学期終りのライフプラン1 (合計4時間) では、私達が住んでいる日本のことに加えて、日本以外の国、そして現在世界全体で取り組まれている取り組みについて学習していきます。学習前にあなたが知っていること・あなたが考えていることを確認するために、下記のアンケートに答えてください。ご協力よろしくお願いします。

1. 次の質問に答えてください。【選択肢】がある場合は、当てはまるものに○(マル)をつけてください。

① 今までスリランカという国名を聞いたことがある。 【はい・いいえ】

② スリランカは地図上のどのあたりか。○をつけてください。



③ スリランカの首都の名前は以下のどれか?
【スリ・ジャヤワルダナプラ・コッチ / コロンボ / 分からない!】

④ 以下のうち、スリランカの国旗はどれか?
ア  イ  ウ  エ 分からない!

⑤ スリランカの特産品を書いてください。 ()

⑥ スリランカの主食を書いてください。 ()

⑦ スリランカに関して1つイメージするとしたら何ですか?1つだけ書いてください。 ()

⑧ 日本に関してイメージすることを下の□にできるだけたくさん書いてください。

⑨ スリランカのことについて知っていることを、下のマインドマップにできるだけたくさん書いてください。

(例) 日本の場合→

スリランカ

2. 次の質問について、あなたの考えに当てはまる番号に○をつけ、理由を答えてください。
(理由がない場合は無理に書く必要はありません。特になしでOK。できる範囲で書いてください。)

1	2	3	4	5
全く当てはまらない——— 当てはまらない——— 分からない——— 当てはまる——— よく当てはまる				

① 日本のことが好きだ。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

② 日本は世界で一番良い国だと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

③ 海外(日本以外の国やその文化)に興味がある。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

④ 身近(家族や友達)な人が困っていたら助けたいと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑤ 日本人(身近な人以外)が困っていたら助けたいと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑥ 海外の人が困っていたら助けたいと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑦ 世界中の人々は、お互いに助け合うべきだと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑧ SDGsという言葉を聞いたことがある。 (1 2 3 4 5)

⑨ あなたの中学校時代に、国際協力について学んだことがある。
[ある人は、その内容を書いてください→]

4. あなたの全財産は10,000円です。あなたはこの度、世界中で貧困や自然災害、戦争などで困っている人々のために、国際協力機関に基金をすることになりました。あなたは全財産1,000円のうち、いくら国際協力機関に基金しますか?金額とその金額を募金する理由を書いてください。

金額: ()円
理由:

<Postアンケート>

LP1 (開発教育) 2018/12/20

【Post】国際教育アンケート

氏名()

国際協力に関するライフプラン1 (全4時間) の授業お疲れ様でした。学習後の振り返りとして、あなたが知っていること・あなたが考えていることを確認するために、下記のアンケートに答えてください。ご協力よろしくお願いします。

1. 次の質問に答えてください。【選択肢】がある場合は、当てはまるものに○(マル)をつけてください。

① 今までスリランカという国名を聞いたことがある。 【はい・いいえ】

② スリランカは地図上のどのあたりか。○をつけてください。



③ スリランカの首都の名前は以下のどれか?
【スリ・ジャヤワルダナプラ・コッチ / コロンボ / 分からない!】

④ 以下のうち、スリランカの国旗はどれか?
ア  イ  ウ  エ 分からない!

⑤ スリランカの特産品を書いてください。 ()

⑥ スリランカの主食を書いてください。 ()

⑦ スリランカに関して1つイメージするとしたら何ですか?1つだけ書いてください。 ()

⑧ 発展途上国に関してイメージすることはなんですか。

⑨ スリランカのことについて知っていることを、下のマインドマップにできるだけたくさん書いてください。

スリランカ

2. 次の質問について、あなたの考えに当てはまる番号に○をつけ、理由を答えてください。
(理由がない場合は無理に書く必要はありません。特になしでOK。できる範囲で書いてください。)

1	2	3	4	5
全く当てはまらない——— 当てはまらない——— 分からない——— 当てはまる——— よく当てはまる				

① 日本のことが好きだ。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

② 日本は世界で一番良い国だと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

③ 海外(日本以外の国やその文化)に興味がある。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

④ 海外の人が困っていたら助けたいと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑤ 世界中の人々は、お互いに助け合うべきだと思う。 (1 2 3 4 5)
理由→ ()

⑥ SDGsという言葉を聞いたことがある。 (1 2 3 4 5)

⑦ SDGsの17の目標の中で、あなたが特に達成したい、達成すべきと思う目標は何番ですか?
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

⑧ ⑦で答えた番号を選んだ理由を答えてください。
理由:

3. あなたの全財産は10,000円です。あなたはこの度、世界中で貧困や自然災害、戦争などで困っている人々のために、国際協力機関に基金をすることになりました。あなたは全財産1,000円のうち、いくら国際協力機関に基金しますか?金額とその金額を募金する理由を書いてください。

金額: ()円
理由:

4. 「国際協力なんてしなくてもいい」という意見に対して、国際協力に関する全4時間の授業で学んだこと、そしてあなた自身の考えを元にして反論してください。

5. 国際協力に関する授業を全4時間の授業を受けて、学んだこと、感じたこと、考えたこと、また感想などを気軽に書いてください。

【資料2】スリランカに関するクイズのスライド（抜粋：文化の20点まで掲載）

Quiz de Sri Lanka

～遠いようで近い国、スリランカを通して世界へ！～

文化	食べ物	言語・生活	スリランカで 出会った○○
10	10	10	10
20	20	20	20
30	30	30	30
40	40	40	40
50	50	50	50

問題 10

・スリランカの国旗に動物は一体なんですか？

解答

・ライオン

スリランカの国旗



問題 20

・実物問題

解答

・仏教
→国民の約70%が仏教徒なのです！！



世界遺産・仏教寺
...遠い場所から近所に訪れる
たくさんの方々、たくさんの方
教員がおりますね！！★

【資料3】「貿易ゲーム」の封筒の中身

国名	リスト
A (フィリピン)	紙 (4)、定規 (1)、お札 (3)
B (インド)	紙 (10)、分度器 (1)、お札 (4)
C (日本)	はさみ (2)、定規 (2)、コンパス (2)、三角定規 (1)、分度器 (1)、お札 (10)、鉛筆 (2)
D (アメリカ)	はさみ (3)、定規 (3)、コンパス (1)、三角定規 (1)、分度器 (1)、紙 (4)、お札 (10)、鉛筆 (2)
E (スリランカ)	紙 (4)、お札 (3)、鉛筆 (1)
F (中国)	紙 (10)、定規 (1)、お札 (6)

【資料4】フォトランゲージのスライド資料（抜粋）





独立行政法人 国際協力機構
中国センター（JICA中国）

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082
<https://www.jica.go.jp/chugoku/>